



神奈川県

政策局政策部  
情報公開広聴課

令和6年度

# 県民ニーズ調査

基本調査…………… 令和6年12月公表

県民の生活と県政についての意識調査

第1回課題調査…………… 令和7年2月公表

テーマ「食の安全・安心」「食・食育」「かながわの農林水産業」

「2027年国際園芸博覧会」「スポーツ」

「地震対策の取組み」「治安対策」

「地域社会との関わり」「地域コミュニティ」

「子どもの貧困対策」「里親制度」

「ともに生きる社会かながわ」「かながわの広報」

第2回課題調査…………… 令和7年3月公表予定

テーマ「かながわの文化芸術」「かながわの道路」

「かながわの人権」「配偶者等からの暴力」

「生活に不安や課題がある人への支援」

「インクルーシブ教育」「『未病改善』の取組み」

「依存症に対する意識」「肝炎対策」「循環器病対策」

「脱炭素・環境」「かながわの水源地域」

「水源環境保全・再生の取組み」「生物多様性」「消防団」



## 目次

県民ニーズ調査の概要	1
------------	---

### 基本調査

第Ⅰ部 調査の概要	3
-----------	---

- 1 調査の目的
- 2 調査内容
- 3 調査設計
- 4 回収結果
- 5 標本の抽出方法について
- 6 集計・分析にあたって
- 7 調査結果の誤差
- 8 回答者の属性

第Ⅱ部 調査結果の概要	11
-------------	----

第Ⅲ部 調査結果の詳細	21
-------------	----

- 第1章 暮らし全般について
  - 1 生活総合満足度
  - 2 暮らし向きの変化
  - 3 今後の暮らし向きの見通し
  - 4 地域の住みよさ
  - 5 定住意向
- 第2章 生活意識
- 第3章 暮らしの満足度
  - 1 重要度
  - 2 満足度
- 第4章 県行政への要望

第Ⅳ部 県政への自由意見	91
--------------	----

第Ⅴ部 グラフ（暮らしの満足度、県行政への要望）	95
--------------------------	----

- 暮らしの満足度（重要度）－過去との比較（図表A）
- 暮らしの満足度（満足度）－過去との比較（図表B）
- 県行政への要望－過去との比較（図表C）

第Ⅵ部 調査票と単純集計結果	119
----------------	-----

## 第1回課題調査

第Ⅰ部 調査の概要	133
1 調査の目的	
2 調査内容	
3 調査設計	
4 回収結果	
5 標本の抽出方法について	
6 集計・分析にあたって	
7 調査結果の誤差	
8 回答者の属性	
第Ⅱ部 調査結果の概要	141
第Ⅲ部 調査結果の詳細	153
第1章 食の安全・安心	155
1 食品を購入する際に確認している表示内容	
2 食中毒を予防する上で重要なこと	
3 食品を安全に食べるために必要な知識	
第2章 食・食育	161
1 「食育」への関心	
2 食事のマナーを正しくできていることへの意識	
3 ゆっくりよく噛んで食べているか	
4 食べ残しや買いすぎなどに気をつけているか	
5 歯と口の健康を保つためにかかりつけ歯科医を決めているか	
6 朝食を同居の方と食べる頻度	
7 夕食を同居の方と食べる頻度	
8 昼食を仲間や友人など複数人で食べる頻度	
9 夕食を仲間や友人など複数人で食べる頻度	
第3章 かながわの農林水産業	179
1 県の農業に期待する役割	
2 「地産地消」の取組みの重要度	
3 「かながわブランド」の認知度	
4 環境に配慮した農林水産物や食品を選ぶ心掛け	
第4章 2027年国際園芸博覧会	187
1 GREEN×EXPO 2027の認知度	
2 GREEN×EXPO 2027を知ったきっかけ	
3 GREEN×EXPO 2027に期待すること	
4 GREEN×EXPO 2027と一緒に楽しみたい観光のテーマ	

第5章	スポーツ	195
1	体力への自信の有無	
2	1年間のスポーツ実施日数	
3	スポーツ推進に係る取組みの認知度	
4	「かながわパラスポーツ」の認知度	
第6章	地震対策の取組み	203
1	大きな地震に備えた対策	
2	海岸で地震による強い揺れを感じたときの行動	
3	津波に対する知識や理解	
4	津波に対して実施が望まれる制度	
第7章	治安対策	211
1	不安に感じる犯罪	
2	地域犯罪発生情報や防犯に役立つ情報を得やすい方法	
3	犯罪や交通事故がなく安心してくらすために重要だと思うもの	
第8章	地域社会との関わり	217
1	地域社会との関わりを大切にする意識	
第9章	地域コミュニティ	219
1	地域コミュニティにおけるコミュニケーション	
2	地域コミュニティにおけるコミュニケーションの取りやすさ	
3	地域コミュニティにおけるコミュニケーションが取りやすい理由	
4	地域コミュニティにおけるコミュニケーションが取りにくい理由	
第10章	子どもの貧困対策	227
1	「子どもの貧困」の認知度	
2	身近に支援が必要な子どもはいると思うか	
3	困難な環境にある子どもへの地域の支援活動に対する考え方	
第11章	里親制度	233
1	里親制度に対する知識や理解	
2	里親になってみたいと思うか	
第12章	ともに生きる社会かながわ	237
1	共生社会（ともに生きる社会）という考え方の認知度	
2	「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度	
3	障がいのある人が身近で普通に生活しているのが当たり前だという考え方	
4	障がい者に配慮した行動をとる人	
5	障がい者への差別・偏見の有無	
6	「ヘルプマーク」の認知度	
7	希望する手話の学習方法	
第13章	かながわの広報	251

- 1 県の広報の達成度
- 2 県の広報媒体の認知度
- 3 県政情報の入手先

# 第1回課題調査

## 第I部 調査の概要



## 1 調査の目的

県政の直面する重要な課題や県民生活に関するテーマにおける県民ニーズを把握し、今後の行政施策の展開に資することを目的とする。

## 2 調査内容

- (1) 食の安全・安心
- (2) 食・食育
- (3) かながわの農林水産業
- (4) 2027年国際園芸博覧会
- (5) スポーツ
- (6) 地震対策の取組み
- (7) 治安対策
- (8) 地域社会との関わり
- (9) 地域コミュニティ
- (10) 子どもの貧困対策
- (11) 里親制度
- (12) とともに生きる社会かながわ
- (13) かながわの広報

## 3 調査設計

- (1) 調査地域 神奈川県全域
- (2) 調査対象 県内在住の満 18 歳以上の男女
- (3) 標本数 3,000 標本
- (4) 標本抽出方法 住民基本台帳からの層化二段無作為抽出
- (5) 調査方法  
ア 郵送による調査票の配布  
イ 郵送回答とインターネット回答の併用
- (6) 調査期間 令和 6 年 9 月 6 日（金）～10 月 1 日（火）
- (7) 調査委託機関 株式会社 C C Nグループ

## 4 回収結果

- (1) 全体の回収結果

標 本 数	3,000 標本
有効回収数	1,263 標本 〔 郵送回答 : 796 件 〕 〔 インターネット回答 : 467 件 〕
有効回収率	42.1%

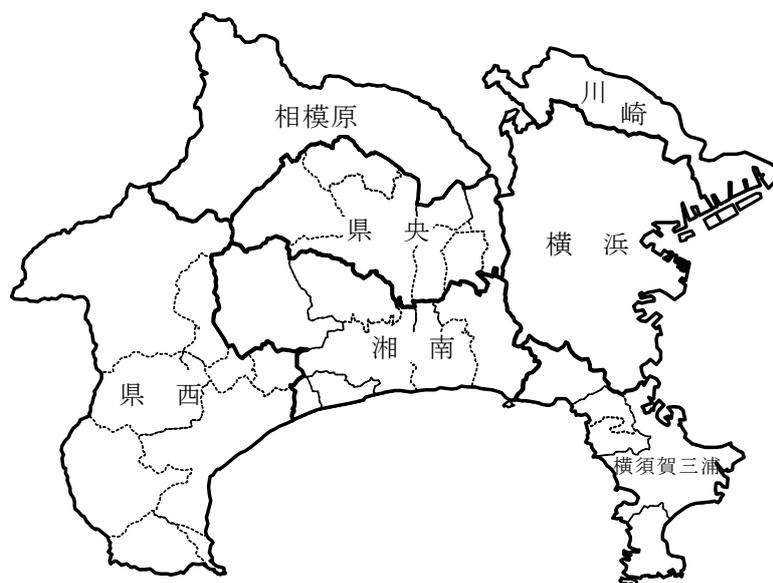
(2) 地域別の回収結果

地 域		設計標本数	有効回収数	有効回収率
横浜	横浜市	1,200	472	39.3%
川崎	川崎市	460	172	37.4%
相模原	相模原市	220	89	40.5%
横須賀三浦	横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町	260	119	45.8%
県央	厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村	300	99	33.0%
湘南	平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町	440	190	43.2%
県西	小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町	120	41	34.2%
無 回 答			81	
全 体		3,000	1,263	42.1%

5 標本の抽出方法について

- (1) 県内を7地域に分類し、さらに各地域を人口規模によって層化した。
- (2) 各地域・人口規模別の層における18歳以上の人口（令和5年1月1日現在の推計値）により、3,000標本を比例配分した。
- (3) 比例配分した標本数を20（1地点あたりの標本数）で除し、地点数を算出した。

地域区分図



## 地点数及び標本配分

地域	人口50万人以上の市	人口50万人未満の市	町 村	計
横 浜	3,150,054人 60地点 1,200標本	-	-	3,150,054人 60地点 1,200標本
川 崎	1,275,106人 23地点 460標本	-	-	1,275,106人 23地点 460標本
相模原	606,915人 11地点 220標本	-	-	606,915人 11地点 220標本
横須賀三浦	-	561,677人 12地点 240標本	26,203人 1地点 20標本	587,880人 13地点 260標本
県 央	-	687,693人 14地点 280標本	36,584人 1地点 20標本	724,277人 15地点 300標本
湘 南	-	1,013,387人 20地点 400標本	91,235人 2地点 40標本	1,104,622人 22地点 440標本
県 西	-	194,026人 4地点 80標本	91,376人 2地点 40標本	285,402人 6地点 120標本
人口計	5,032,075人	2,456,783人	245,398人	7,734,256人
地点数計	94地点	50地点	6地点	150地点
標本数計	1,880標本	1,000標本	120標本	3,000標本

※ 人口数は、「神奈川県年齢別人口統計調査（令和5年1月1日現在）」（県統計センター）をもとに、18歳以上の各市区町村の人口を積算したものである。

## 6 集計・分析にあたって

- (1) 集計にあたっては、小数第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が全体の計に一致しないことがある。
- (2) 標本数「n」は「number of cases」の略で、質問に対する回答者数を表す。
- (3) 図中「0」、表中「-」は皆無を示す。
- (4) 図表中の選択肢は、回答率の高い順に並べ替えている場合がある。また、表記の語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (5) 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせて分析する場合に用いる。（例えば、「非常に重要である」と「かなり重要である」を合わせたものを《重要である》と表現している。）また、この場合の比率は実際の回答者数の合計から算出しているため、個々の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。
- (6) 【地域別の状況】【性・年代別の状況】の図表では、地域や性・年代が不詳の者がいるため、内訳の合計が全体の回答者数と異なっている。
- (7) 今後の精査により、数値等は変動することがある。

## 7 調査結果の誤差

この調査は、全数調査ではないので、調査結果の数値は真の値（全数調査をした場合に得られる数値）と異なることがある。これを標本誤差という。

層化二段無作為抽出の場合、信頼度 95%のときの標本誤差は次の式で算出される。

$$b = \pm 2 \sqrt{2 \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

$b$  = 標本誤差  
 $N$  = 母集団数  
 $n$  = 回答者数  
 $P$  = 回答比率

上の式により、回答者数（ $n$ ）、および回答比率（ $P$ ）ごとに信頼度 95%のときの標本誤差(%)を計算すると、おおよそ次表のとおりとなる。

回答比率（ $P$ ） 回答者数（ $n$ ）	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,263	± 2.39	± 3.18	± 3.65	± 3.90	± 3.98
1,200	± 2.45	± 3.27	± 3.74	± 4.00	± 4.08
1,000	± 2.68	± 3.58	± 4.10	± 4.38	± 4.47
800	± 3.00	± 4.00	± 4.58	± 4.90	± 5.00
600	± 3.46	± 4.62	± 5.29	± 5.66	± 5.77
400	± 4.24	± 5.66	± 6.48	± 6.93	± 7.07
200	± 6.00	± 8.00	± 9.17	± 9.80	± 10.00
100	± 8.49	± 11.31	± 12.96	± 13.86	± 14.14

※上表は  $\frac{N-n}{N-1} \approx 1$  として算出している。

注) この表の見方

例えば、「ある設問の回答者数（ $n$ ）が 1,263 で、その設問中の選択肢の回答比率が 60%であった場合、その回答比率の誤差は 95%の信頼度で、±3.90 以内（真の値は、56.10%～63.90%）である」とみることができる。

## 8 回答者の属性

(1) 居住地域 (n=1, 263) (%)

横浜	37.4
川崎	13.6
相模原	7.0
横須賀三浦	9.4
県央	7.8
湘南	15.0
県西	3.2

(無回答 6.4)

(2) 性別 (n=1, 263) (%)

男性	40.9
女性	51.1

(無回答 8.0)

(3) 年齢 (n=1, 263) (%)

18～29歳	4.8
30～39歳	10.0
40～49歳	17.2
50～59歳	23.2
60～69歳	18.1
70～74歳	9.3
75歳以上	10.8

(無回答 6.6)

(4) 子どもの状況 (複数回答) (n=1, 263) (%)

小学校入学前	6.9
小学校在学中	9.6
中学校在学中	6.3
高校在学中	8.1
短大、専門学校等在学中	1.4
大学、大学院等在学中	7.6
学校教育終了[未婚]	21.6
学校教育終了[既婚]	23.0
その他	2.9
子どもはいない	28.6

(無回答 7.7)

(5) 家族形態 (n=1, 263) (%)

一人暮らし (単身世帯)	15.6
夫婦のみ (1世代世帯)	24.9
親と子の世帯 (2世代世帯)	45.1
祖父母と親と子の世帯 (3世代世帯)	3.1
その他の世帯	4.4

(無回答 7.0)

(6) 職業区分 (n=1, 263) (%)

自営業主・ 家族従業者	自営業主	6.0
	家族従業者	0.7
勤め・内職	勤め (フルタイム)	38.8
	勤め (パートタイム)	14.6
	内職	0.2
主婦・主夫 (勤めていない)		14.7
学生		0.7
無職		14.8
その他		0.5

(無回答 8.9)

(6-1) 有職者の職業内容 (n=762) (%)

自営業主・ 家族従業者	農林水産業	0.7
	商工サービス業	5.2
	自由業	4.7
勤め・内職	経営・管理職	7.1
	専門・技術職	23.4
	事務職	22.4
	教育職	7.3
	技能・労務職	8.7
	販売・サービス職	16.7

(無回答 3.8)



## 第 1 回課題調査

# 第Ⅱ部 調査結果の概要



## 調査結果の概要

### 【記載内容についての注意】

- ・ 調査結果の比率（％）の数値は小数第2位を四捨五入しているため、合計が100％にならないことがある。
- ・ 複数回答の設問では、その比率（％）の合計が100％を上回ることがある。
- ・ 文中の「n」は、「number of cases」の略で、質問に対する回答者の総数を表す。
- ・ 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせた場合に用いる。

例：問3で「持っていると思う」と「ある程度持っていると思う」を合わせたものを《持っていると思う》と表現している。

また、この場合の比率は実際の回答数の合計から算出しており、個々の選択肢の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。

- ・ 文中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。

## 1 食の安全・安心（問1～問3）

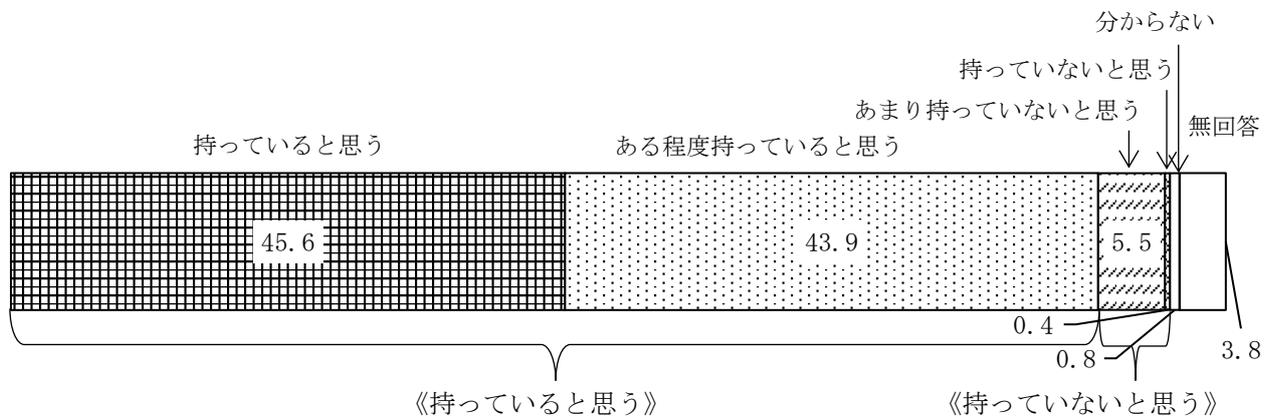
県では、県民の皆様の食の安全・安心の確保に向けた取組みを推進しています。今回、食品を安全に食べるために必要な知識などについて調査しました。

### ▼食品を安全に食べるために必要な知識（問3）

食品を安全に食べるために必要な知識（例えば、調理や食事前によく手を洗う、生肉はよく加熱するなど）を持っていると思うか尋ねたところ、「持っていると思う」（45.6％）と「ある程度持っていると思う」（43.9％）を合わせた《持っていると思う》は89.5％であった。

一方、「持っていないと思う」（0.4％）と「あまり持っていないと思う」（5.5％）を合わせた《持っていないと思う》は5.9％であった。〔図表1〕

図表1 食品を安全に食べるために必要な知識（n=1,263）（％）



## 2 食・食育（問4～問10）

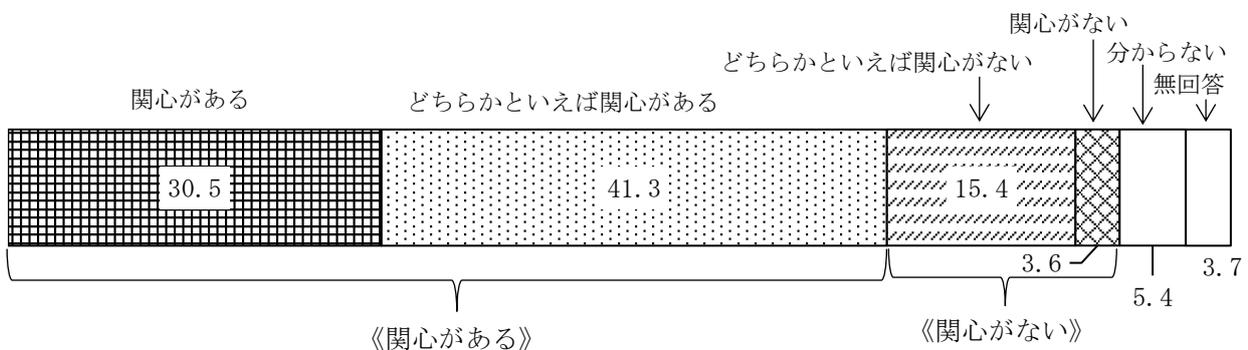
県では、未病を改善するための重要な要素である「食」について、県民一人ひとりが理解を深め、健全な食生活を実践することで、誰もが元気に笑顔で長生きできる社会の実現を目指して、「食育」を推進しています。今回、「食育」への関心などについて調査しました。

### ▼「食育」への関心（問4）

「食育」に関心があるか尋ねたところ、「関心がある」（30.5%）と「どちらかといえば関心がある」（41.3%）を合わせた《関心がある》は71.8%であった。

一方、「関心がない」（3.6%）と「どちらかといえば関心がない」（15.4%）を合わせた《関心がない》は19.1%であった。〔図表2〕

図表2 「食育」への関心（n=1,263）（%）



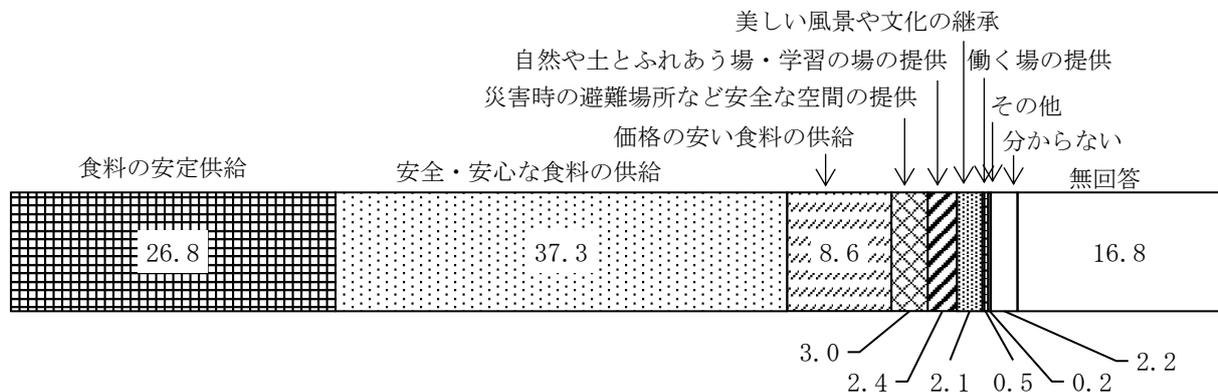
## 3 かながわの農林水産業（問11～問14）

県では、都市農業の持続的な発展を図るため、地産地消の推進や多様な担い手の育成などの取組みを進めています。今回、県の農業に期待する役割などについて調査しました。

### ▼県の農業に期待する役割（問11）

県の農業にどのような役割を期待するか尋ねたところ、「安全・安心な食料の供給」が37.3%で最も多く、次いで「食料の安定供給」が26.8%であった。〔図表3〕

図表3 県の農業に期待する役割（n=1,263）（%）



#### 4 2027年国際園芸博覧会（問15～問17）

県では、一都三県初の万博であるGREEN×EXPO 2027の開催に向け、機運醸成に取り組んでいます。今回、GREEN×EXPO 2027の認知度などについて調査しました。

##### ▼GREEN×EXPO 2027の認知度（問15）

「2027年国際園芸博覧会（正式略称：GREEN×EXPO 2027）」が開催されることを知っているか尋ねたところ、「知っている」（23.0%）と「言葉は聞いたことがある」（11.0%）を合わせた《GREEN×EXPO 2027の認知度》は34.0%であった。

一方、「知らなかった」が63.8%であった。〔図表4〕

図表4 GREEN×EXPO 2027の認知度（n=1,263）（%）



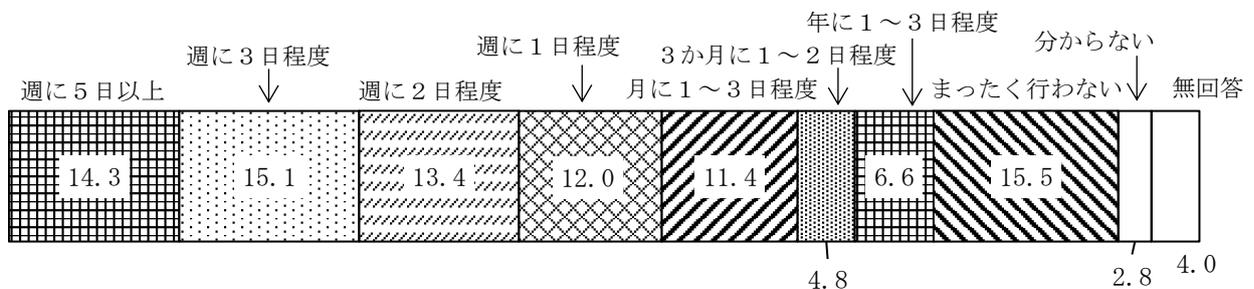
#### 5 スポーツ（問18～問21）

県では、「神奈川県スポーツ推進条例」に基づき、神奈川県スポーツ推進計画「エンジョイ・スポーツ！かながわプラン」を策定し、様々なスポーツ施策に取り組んでいます。今回、1年間のスポーツ実施日数などについて調査しました。

##### ▼1年間のスポーツ実施日数（問19）

この1年間で1日に30分以上の運動やスポーツをした日数を尋ねたところ、「まったく行わない」が15.5%で最も多く、次いで「週に3日程度」が15.1%であった。〔図表5〕

図表5 1年間のスポーツ実施日数（n=1,263）（%）



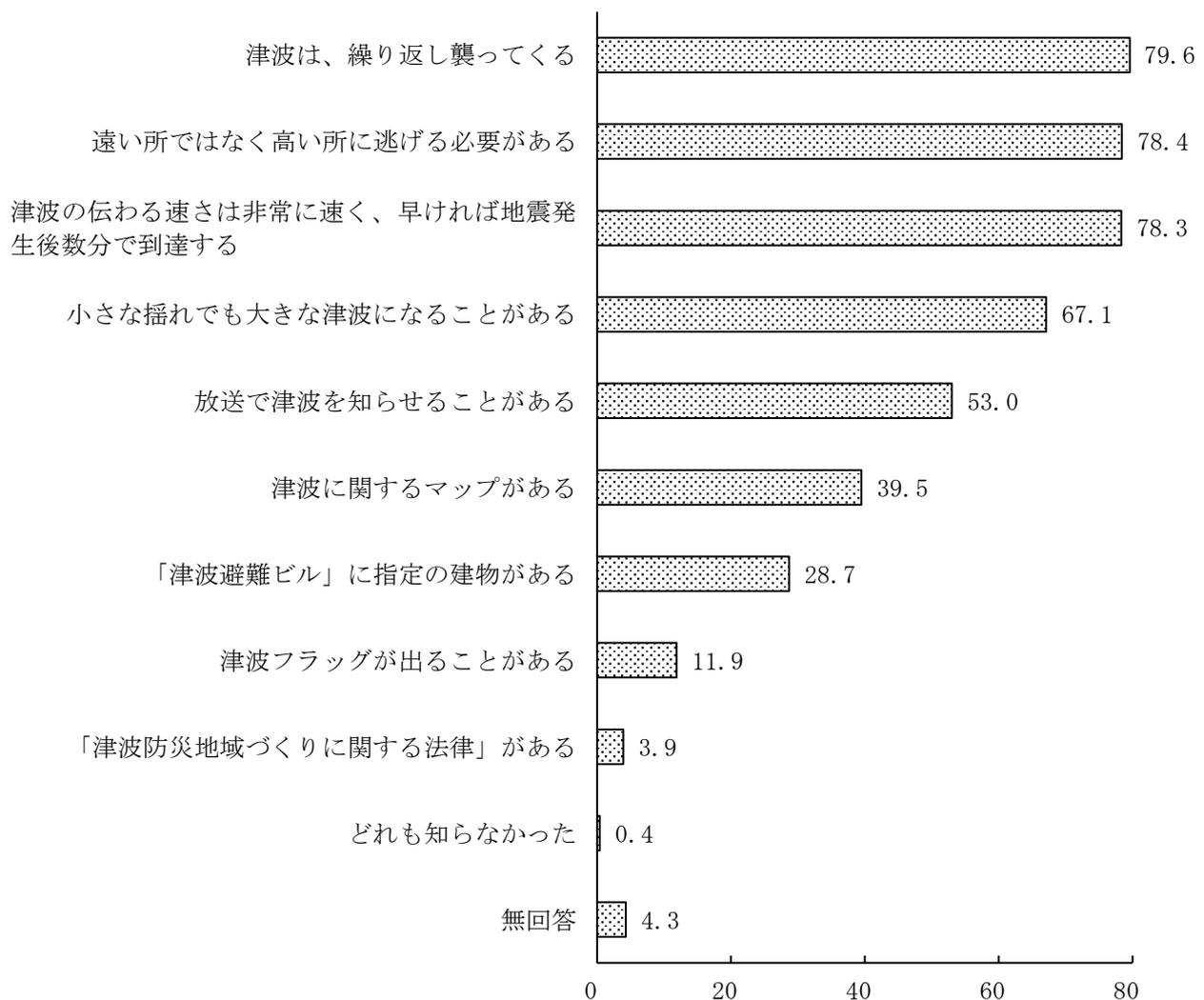
## 6 地震対策の取組み（問22～問25）

県では、「県民のいのちを守る」ことを最優先としたアクションプランである「神奈川県地震防災戦略」を策定するなど、防災・減災対策の取組みを推進しています。今回、「津波」に対する知識や理解などについて調査しました。

### ▼津波に対する知識や理解（問 24）

津波について、知っていたことを複数回答で尋ねたところ、「津波は、繰り返し襲ってくる」が79.6%で最も多く、次いで「遠い所ではなく高い所に逃げる必要がある」が78.4%であった。〔図表6〕

図表6 津波に対する知識や理解（複数回答）（n=1,263）（%）



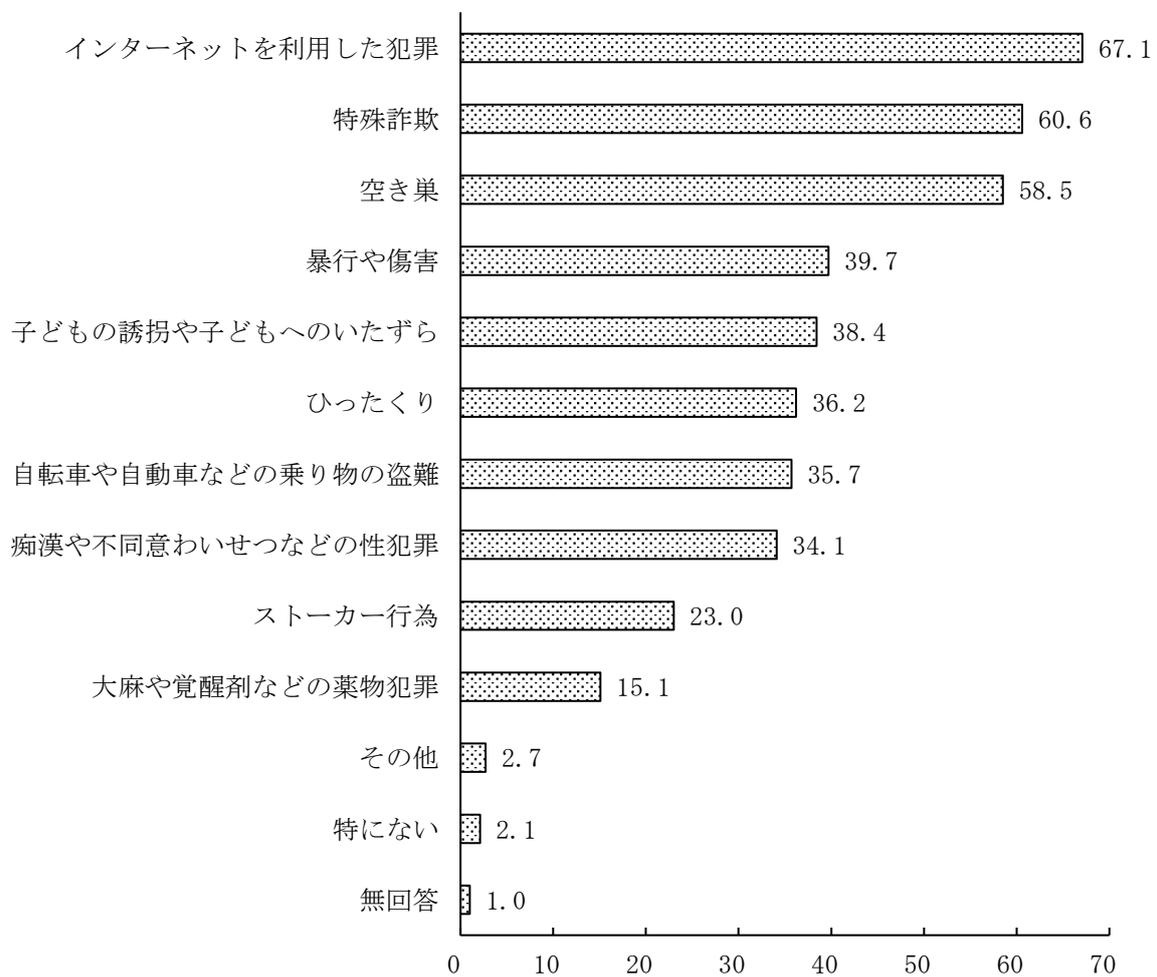
## 7 治安対策（問 26～問 28）

県警察では、県民が身近に不安を感じる犯罪の抑止・検挙活動を始めとした各種警察活動を推進し、県民の皆様が安全で安心してくださる地域社会の実現に努めています。今回、不安を感じる犯罪などについて調査しました。

### ▼不安を感じる犯罪（問 26）

不安を感じる身近な犯罪について複数回答で尋ねたところ、「インターネットを利用した犯罪」が 67.1%で最も多く、次いで「特殊詐欺」が 60.6%であった。〔図表 7〕

図表 7 不安を感じる犯罪（複数回答）（n=1,263）（%）



## 8 地域社会との関わり（問 29）

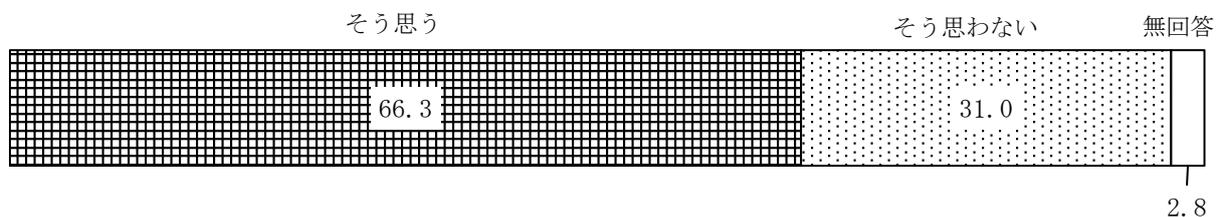
県では、人生 100 歳時代におけるコミュニティ再生・活性化に向けた取組みを推進しています。今回、地域社会との関わりを大切にする意識について調査しました。

### ▼地域社会との関わりを大切にする意識（問 29）

長い人生を充実させるため、コミュニティなど、地域社会との関わりを大切にしているか尋ねたところ、「そう思う」が 66.3%であった。

一方、「そう思わない」が 31.0%であった。〔図表 8〕

図表 8 地域社会との関わりを大切にする意識（n=1,263）（%）



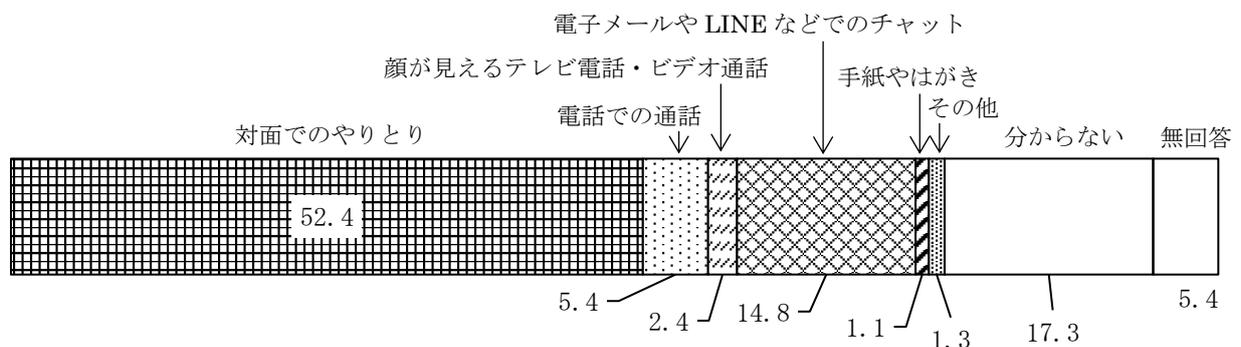
## 9 地域コミュニティ（問 30）

県では、高齢化の進展による地域コミュニティの衰退など住生活に係る課題解決に向けて、「多世代居住のまちづくり」などの施策を推進しています。今回、コロナ禍を経た、地域コミュニティにおけるコミュニケーションなどについて調査しました。

### ▼地域コミュニティにおけるコミュニケーション（問 30）

新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症へ移行した現在の、地域住民とのコミュニティにおける主なコミュニケーション手段について尋ねたところ、「対面でのやりとり」が 52.4%で最も多く、次いで「電子メールや LINE などでのチャット」が 14.8%であった。〔図表 9〕

図表 9 地域コミュニティにおけるコミュニケーション（n=1,263）（%）



## 10 子どもの貧困対策（問 31～問 33）

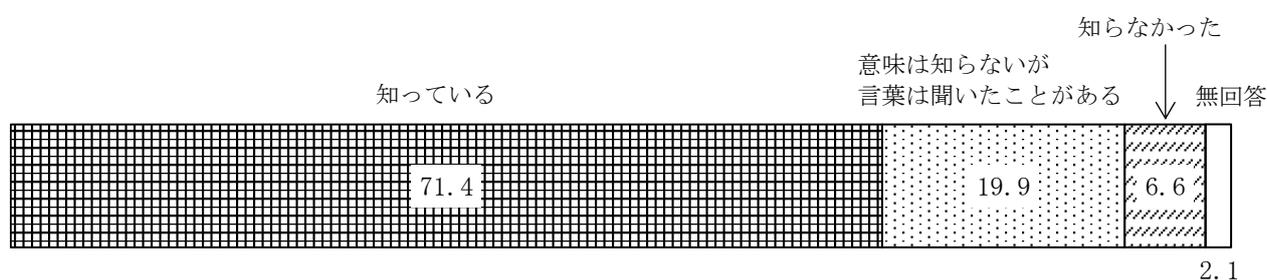
県では、子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されることのないよう、また、貧困が世代を超えて連鎖することのないよう、「神奈川県子どもの貧困対策推進計画」を策定し、子どもの貧困対策を総合的に推進しています。今回、「子どもの貧困」の認知度などについて調査しました。

### ▼「子どもの貧困」の認知度（問 31）

「子どもの貧困」という言葉の意味を知っているか尋ねたところ、「知っている」が 71.4%であった。また、「意味は知らないが言葉は聞いたことがある」が 19.9%であった。

一方、「知らなかった」が 6.6%であった。〔図表 10〕

図表 10 「子どもの貧困」の認知度（n=1,263）（%）



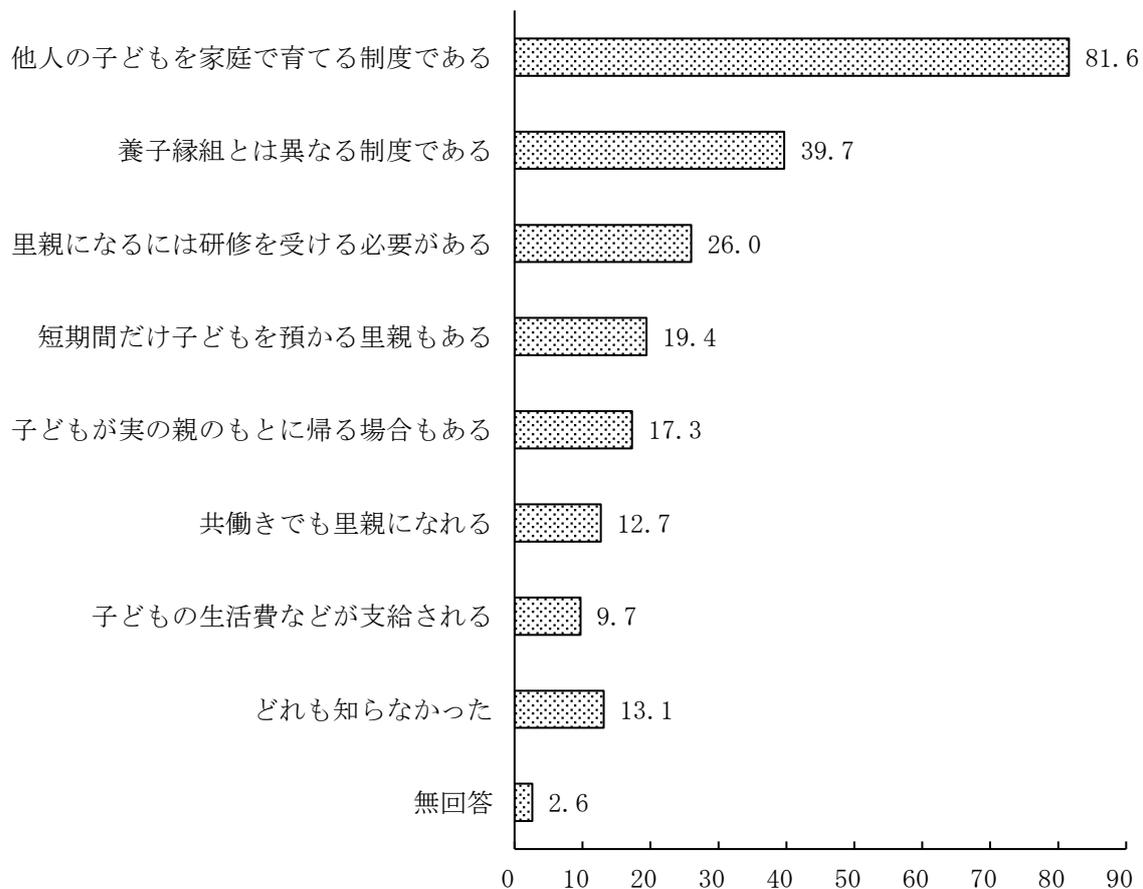
## 11 里親制度（問 34～問 35）

県では、様々な事情により家庭でくらしなくなった子どもたちが、大人との安定した関係の中で、できるだけ家庭に近い環境で育つことができるよう、里親家庭での養育を推進しています。今回、「里親制度」に対する知識や理解などについて調査しました。

### ▼里親制度に対する知識や理解（問 34）

里親制度について知っていることを複数回答で尋ねたところ、「他人の子どもを家庭で育てる制度である」が 81.6%で最も多く、次いで「養子縁組とは異なる制度である」が 39.7%であった。〔図表 11〕

図表 11 里親制度に対する知識や理解（複数回答）（n=1,263）（%）



## 12 とともに生きる社会かながわ（問 36～42）

平成 28 年 7 月に県立の障害者支援施設である「津久井やまゆり園」で発生した事件が二度と繰り返されないよう、県は、ともに生きる社会の実現をめざし、県議会とともに「ともに生きる社会かながわ憲章」を策定しました。この憲章の理念を広く県民の皆様に普及する活動を行い、ともに生きる社会の実現に向けた取組みを推進しています。今回、「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度などについて調査しました。

### ▼「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度（問 37）

「ともに生きる社会かながわ憲章」を知っているか尋ねたところ、「知っている」（6.3%）と「言葉は聞いたことがある」（22.7%）を合わせた《「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度》は 29.1%であった。

一方、「知らなかった」が 68.6%であった。〔図表 12〕

図表 12 「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度（n=1,263）（%）



《「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度》

## 13 かながわの広報（問 43～問 45）

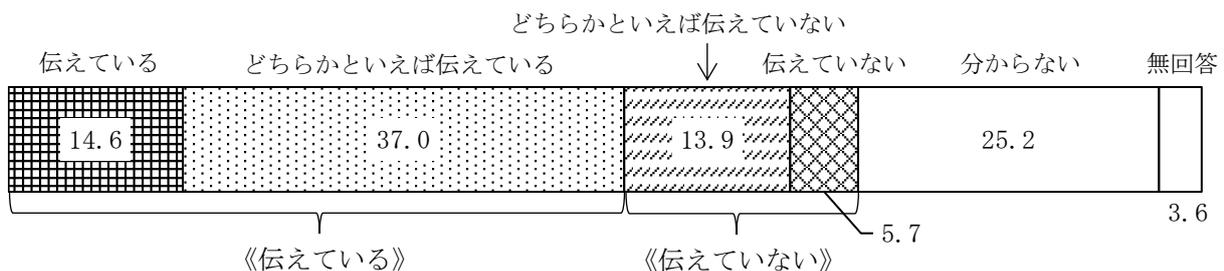
県では、「県のたより」などの広報紙や県広報テレビ・ラジオ番組、ホームページ、ソーシャルメディアなどを通じて、様々な県政情報をお伝えしています。今回は、県の広報の達成度などについて調査しました。

### ▼県の広報の達成度（問 43）

県が県政情報を伝えていると思うか尋ねたところ、「伝えている」（14.6%）と「どちらかといえば伝えている」（37.0%）を合わせた《伝えている》は 51.6%であった。

一方、「伝えていない」（5.7%）と「どちらかといえば伝えていない」（13.9%）を合わせた《伝えていない》は 19.6%であった。〔図表 13〕

図表 13 県の広報の達成度（n=1,263）（%）





## 第Ⅲ部 調査結果の詳細

### 【報告書を読む際の注意】

- (注1) 小数第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が全体の計に一致しないことがある。
- (注2) 「n」は「number of cases」の略で、質問に対する回答者の総数を表す。
- (注3) 図中「0」、表中「-」は皆無を示す。
- (注4) 図表中の選択肢は、回答率の高い順に並び替えている場合がある。また、表記の語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (注5) 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせて分析する場合に用いる。また、この場合の比率は実際の回答者数の合計から算出しているため、個々の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。
- (注6) 【地域別の状況】【性・年代別の状況】の図表では、地域や性・年代が不詳の者がいるため、内訳の合計が全体の回答者数と異なっている。



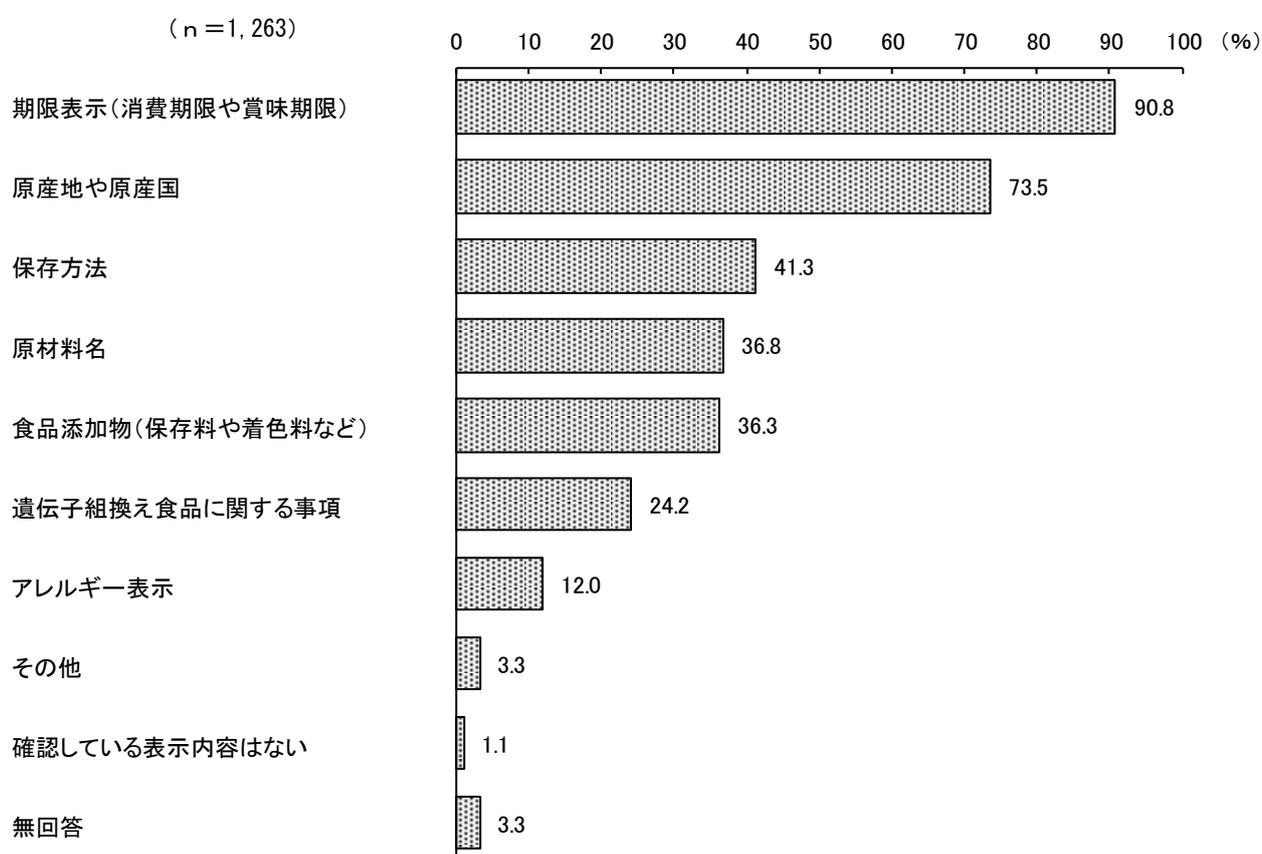
## 第1章 食の安全・安心【問1～問3】

### 1 食品を購入する際に確認している表示内容【問1】

#### 【全体の状況】

食品を購入する際に、確認している表示内容を複数回答で尋ねたところ、「期限表示（消費期限や賞味期限）」が90.8%で最も多く、次いで「原産地や原産国」が73.5%であった。（図表1-1-1）

図表1-1-1 食品を購入する際に確認している表示内容（複数回答）



図表1-1-2 食品を購入する際に確認している表示内容（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

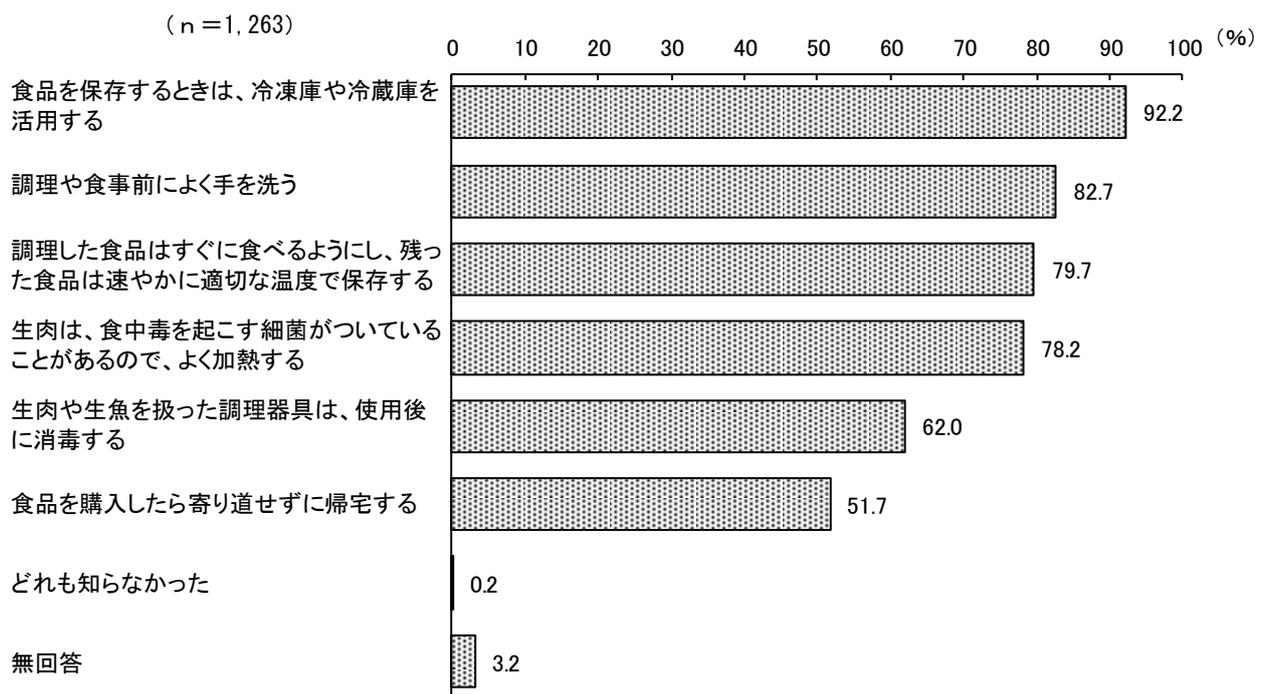
	n	期限表示 (消費期限や賞味期限)	原産地や原産国	保存方法	原材料名	食品添加物 (保存料や着色料など)	遺伝子組換え食品に関する事項	アレルギー表示	その他	確認している表示内容はない	無回答
全体	1,263	90.8	73.5	41.3	36.8	36.3	24.2	12.0	3.3	1.1	3.3
【地域別】											
横浜	472	89.8	69.1	40.9	38.1	34.3	23.3	11.2	4.2	1.1	3.8
川崎	172	93.6	77.3	39.0	43.0	43.0	26.7	15.1	3.5	0.6	-
相模原	89	92.1	71.9	40.4	42.7	42.7	25.8	12.4	3.4	-	5.6
横須賀三浦	119	89.1	81.5	48.7	35.3	38.7	31.1	15.1	3.4	1.7	0.8
県央	99	88.9	74.7	41.4	34.3	35.4	26.3	8.1	4.0	3.0	4.0
湘南	190	92.1	77.4	36.8	32.6	32.6	21.6	12.6	2.1	0.5	3.7
県西	41	97.6	75.6	34.1	26.8	29.3	17.1	4.9	2.4	-	-
【性・年代別】											
男性	517	90.3	67.1	38.3	30.2	28.4	18.8	10.4	4.8	1.7	2.7
女性	645	91.5	78.9	42.5	43.3	42.8	29.1	13.5	2.3	0.6	3.1
男性18～29歳	27	85.2	66.7	40.7	48.1	25.9	11.1	11.1	11.1	7.4	-
30歳代	49	91.8	53.1	40.8	24.5	28.6	16.3	12.2	4.1	2.0	-
40歳代	92	90.2	73.9	32.6	30.4	30.4	20.7	10.9	8.7	1.1	1.1
50歳代	118	89.0	70.3	29.7	25.4	22.9	19.5	8.5	5.1	1.7	0.8
60歳代	116	92.2	65.5	47.4	30.2	29.3	19.8	9.5	1.7	1.7	4.3
70～74歳	55	92.7	69.1	38.2	30.9	27.3	14.5	9.1	5.5	1.8	5.5
75歳以上	60	88.3	63.3	43.3	35.0	36.7	21.7	15.0	1.7	-	6.7
女性18～29歳	31	80.6	41.9	25.8	29.0	25.8	12.9	19.4	6.5	3.2	3.2
30歳代	76	96.1	69.7	35.5	42.1	28.9	18.4	10.5	5.3	-	-
40歳代	123	87.8	76.4	39.0	48.8	48.0	30.9	13.8	2.4	0.8	4.1
50歳代	173	91.9	82.1	42.8	42.8	38.2	32.4	14.5	1.7	-	4.0
60歳代	108	95.4	88.9	44.4	45.4	56.5	37.0	7.4	1.9	-	2.8
70～74歳	61	93.4	82.0	49.2	34.4	31.1	23.0	11.5	1.6	1.6	-
75歳以上	72	88.9	83.3	54.2	47.2	56.9	30.6	22.2	-	1.4	5.6

## 2 食中毒を予防する上で重要なこと【問2】

### 【全体の状況】

食中毒を予防する上で重要なことがらについて、知っていたことを複数回答で尋ねたところ、「食品を保存するときは、冷凍庫や冷蔵庫を活用する」が92.2%で最も多く、次いで「調理や食事前によく手を洗う」が82.7%であった。（図表1-2-1）

図表1-2-1 食中毒を予防する上で重要なこと（複数回答）



図表1-2-2 食中毒を予防する上で重要なこと（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	冷食 蔵庫を 保存す ると きは、 冷凍 庫や	調 理 や 食 事 前 に よ く 手 を 洗 う	に 調 理 し た 食 品 は す ぐ に 食 べ る よ う に 残 つ た 食 品 は 速 や か に 適 切 な 温 度 で 保 存 す る	熱 い 生 肉 は 、 食 中 毒 を 起 こ す 細 菌 が つ いて い る こ と が あ る の で 、 よ く 加 つ	使 用 後 に 生 肉 や 生 魚 を 扱 つ た 調 理 器 具 は 、 消 毒 す る	宅 食 品 を 購 入 し た ら 寄 り 道 せ ず に 帰 す る	ど れ も 知 ら な か つ た	無 回 答
全 体	1,263	92.2	82.7	79.7	78.2	62.0	51.7	0.2	3.2
【地 域 別】									
横 浜	472	89.6	79.9	77.8	77.8	60.6	45.6	0.2	3.8
川 崎	172	97.7	88.4	86.0	82.0	67.4	59.9	-	-
相 模 原	89	92.1	80.9	75.3	76.4	52.8	47.2	-	5.6
横 須 賀 三 浦	119	96.6	84.0	86.6	82.4	64.7	54.6	-	0.8
県 央	99	90.9	81.8	80.8	77.8	63.6	61.6	1.0	4.0
湘 南	190	92.6	85.8	77.9	74.7	59.5	52.6	-	3.2
県 西	41	97.6	85.4	87.8	82.9	65.9	58.5	-	-
【性・年代別】									
男 性	517	91.9	77.4	75.2	71.6	55.7	48.7	0.4	2.7
女 性	645	93.2	87.4	84.0	84.0	66.4	54.4	-	2.9
男性 18～29歳	27	96.3	85.2	88.9	92.6	74.1	70.4	-	-
30 歳 代	49	87.8	83.7	79.6	79.6	67.3	75.5	-	-
40 歳 代	92	93.5	79.3	72.8	76.1	53.3	38.0	1.1	1.1
50 歳 代	118	95.8	81.4	78.0	74.6	61.9	50.0	-	0.8
60 歳 代	116	90.5	72.4	76.7	62.9	53.4	44.8	-	4.3
70～74歳	55	85.5	69.1	63.6	67.3	36.4	40.0	1.8	7.3
75歳以上	60	91.7	75.0	71.7	63.3	51.7	46.7	-	5.0
女性 18～29歳	31	90.3	77.4	71.0	77.4	67.7	41.9	-	3.2
30 歳 代	76	97.4	88.2	84.2	86.8	71.1	55.3	-	-
40 歳 代	123	91.1	84.6	84.6	79.7	64.2	53.7	-	4.1
50 歳 代	173	90.8	86.7	85.0	89.0	67.1	56.6	-	4.0
60 歳 代	108	95.4	88.9	89.8	83.3	64.8	45.4	-	2.8
70～74歳	61	100.0	91.8	83.6	83.6	72.1	62.3	-	-
75歳以上	72	90.3	91.7	79.2	80.6	59.7	62.5	-	4.2

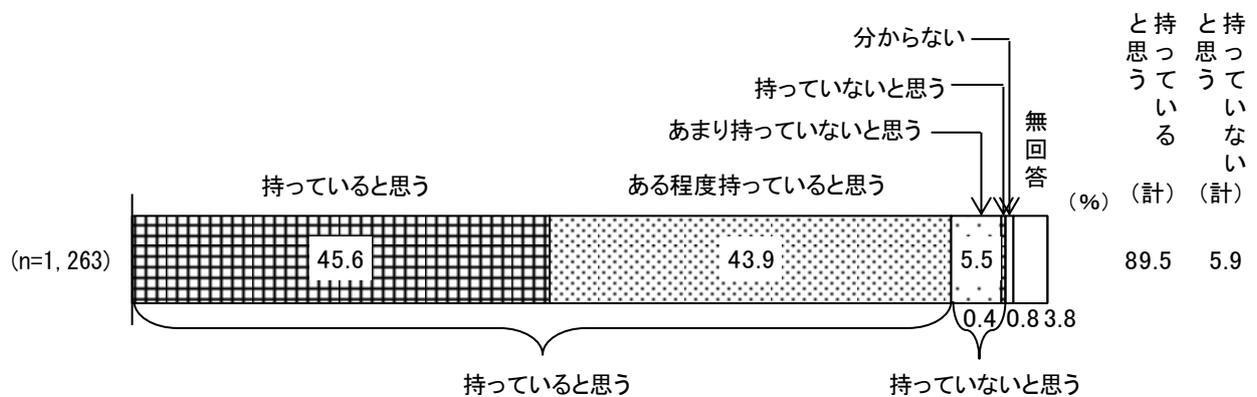
### 3 食品を安全に食べるために必要な知識【問3】

#### 【全体の状況】

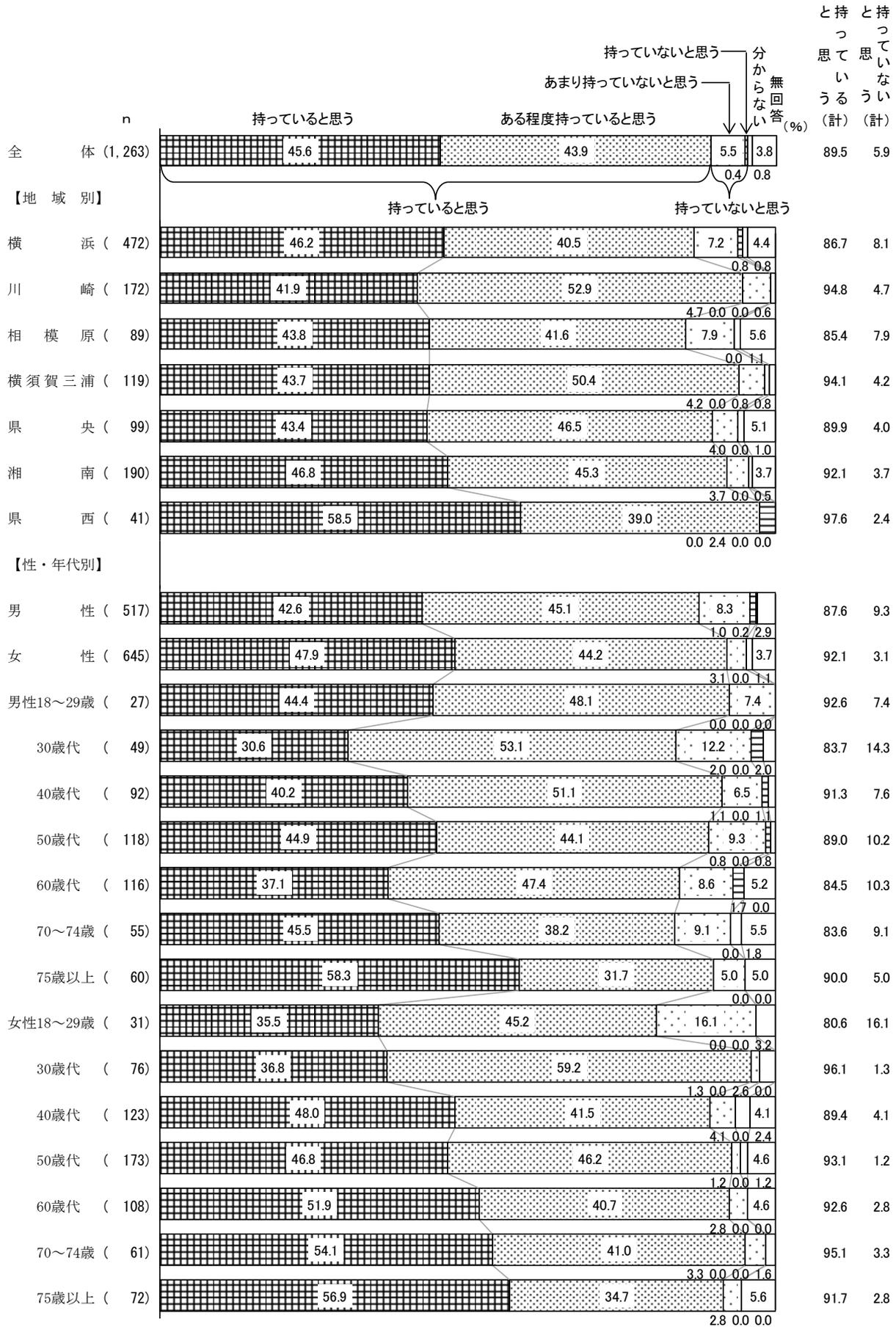
食品を安全に食べるために必要な知識（例えば、調理や食事前によく手を洗う、生肉はよく加熱するなど）を持っていると思うか尋ねたところ、「持っていると思う」（45.6%）と「ある程度持っていると思う」（43.9%）を合わせた《持っていると思う》は89.5%であった。

一方、「持っていないと思う」（0.4%）と「あまり持っていないと思う」（5.5%）を合わせた《持っていないと思う》は5.9%であった。（図表1-3-1）

図表1-3-1 食品を安全に食べるために必要な知識



図表1-3-2 食品を安全に食べるために必要な知識—地域別、性・年代別



## 第2章 食・食育【問4～問10】

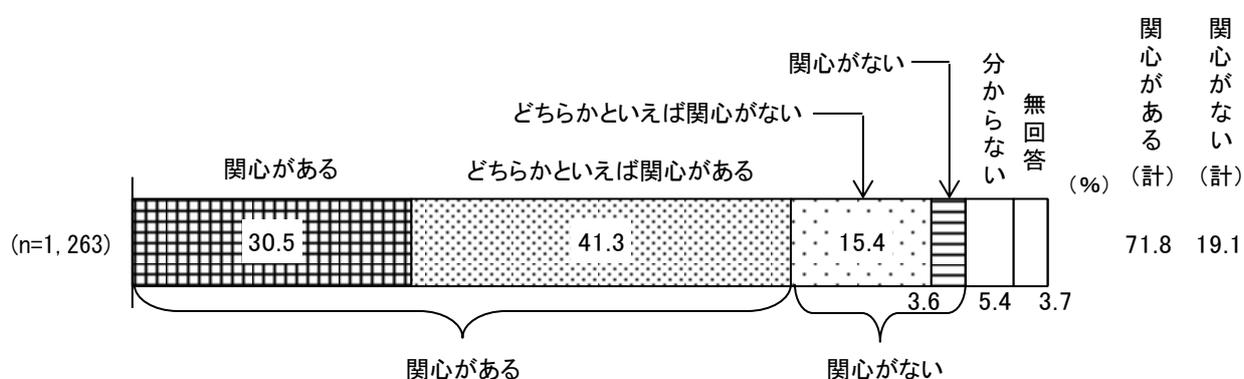
### 1 「食育」への関心【問4】

#### 【全体の状況】

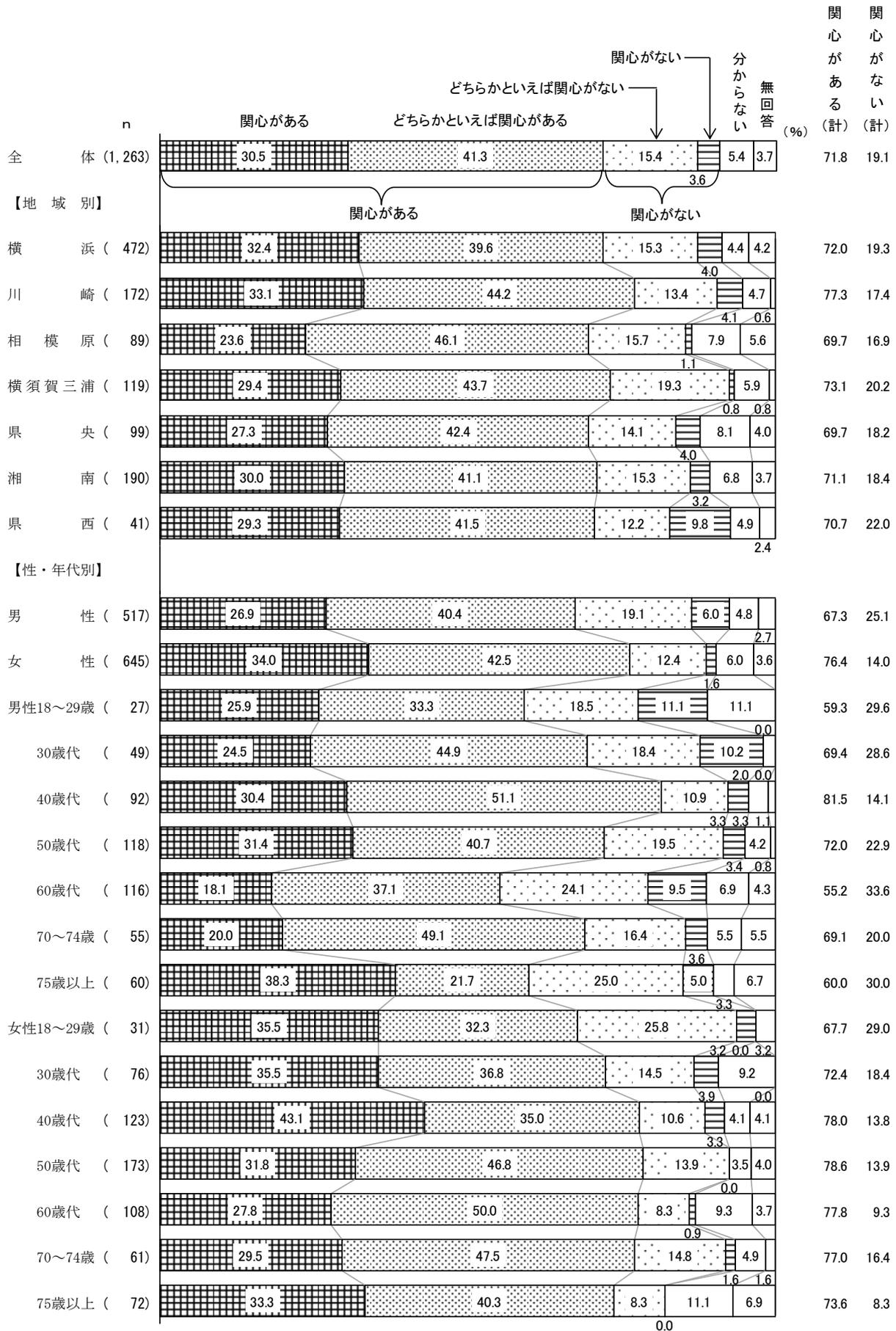
「食育」に関心があるか尋ねたところ、「関心がある」(30.5%)と「どちらかといえば関心がある」(41.3%)を合わせた《関心がある》は71.8%であった。

一方、「関心がない」(3.6%)と「どちらかといえば関心がない」(15.4%)を合わせた《関心がない》は19.1%であった。(図表2-1-1)

図表2-1-1 「食育」への関心



図表2-1-2 「食育」への関心—地域別、性・年代別



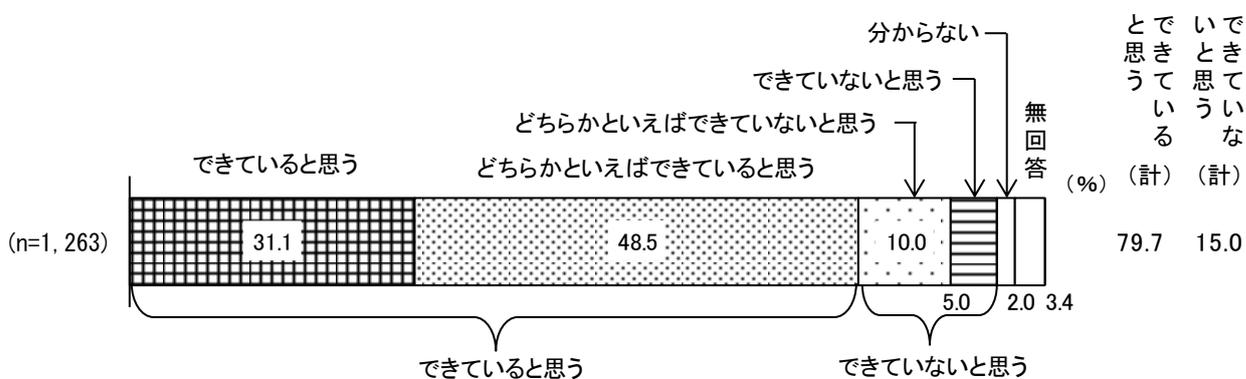
## 2 食事のマナーを正しくできていることへの意識【問5】

### 【全体の状況】

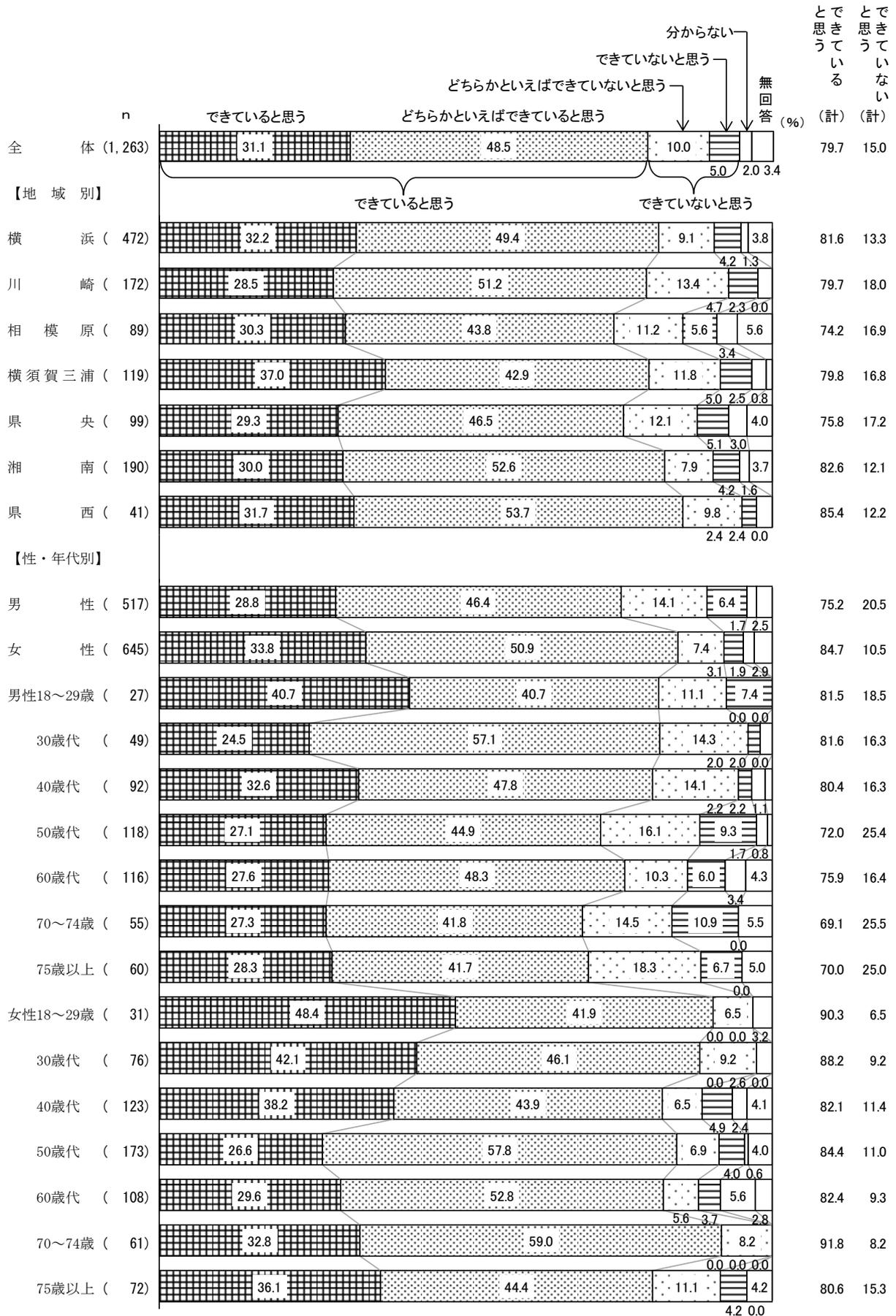
いただきます・ごちそうさまのあいさつ、はしの持ち方、料理の並べ方など食事のマナーを正しくできていると思うか尋ねたところ、「できていると思う」(31.1%)と「どちらかといえばできていると思う」(48.5%)を合わせた《できていると思う》は79.7%であった。

一方、「できていないと思う」(5.0%)と「どちらかといえばできていないと思う」(10.0%)を合わせた《できていないと思う》は15.0%であった。(図表2-2-1)

図表2-2-1 食事のマナーを正しくできていることへの意識



図表2-2-2 食事のマナーを正しくできていることへの意識—地域別、性・年代別



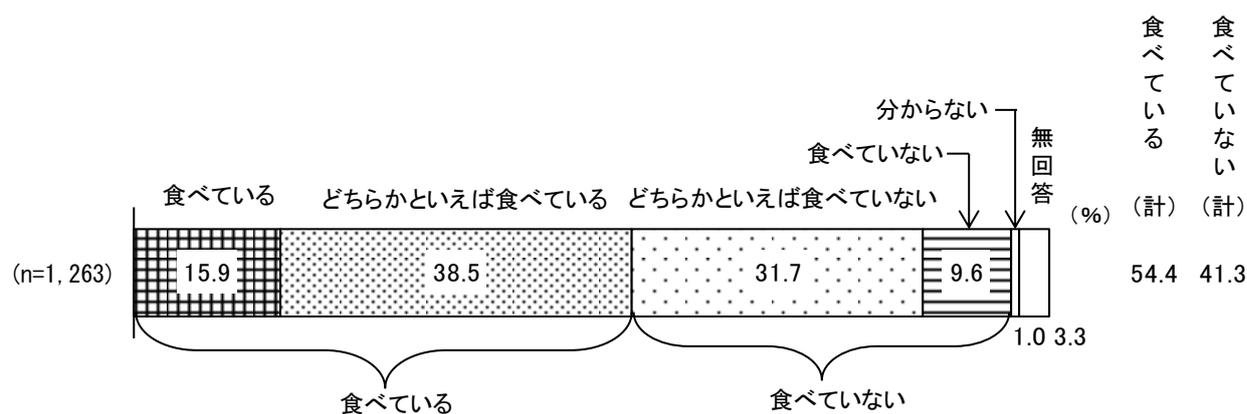
### 3 ゆっくりよく噛んで食べているか【問6】

#### 【全体の状況】

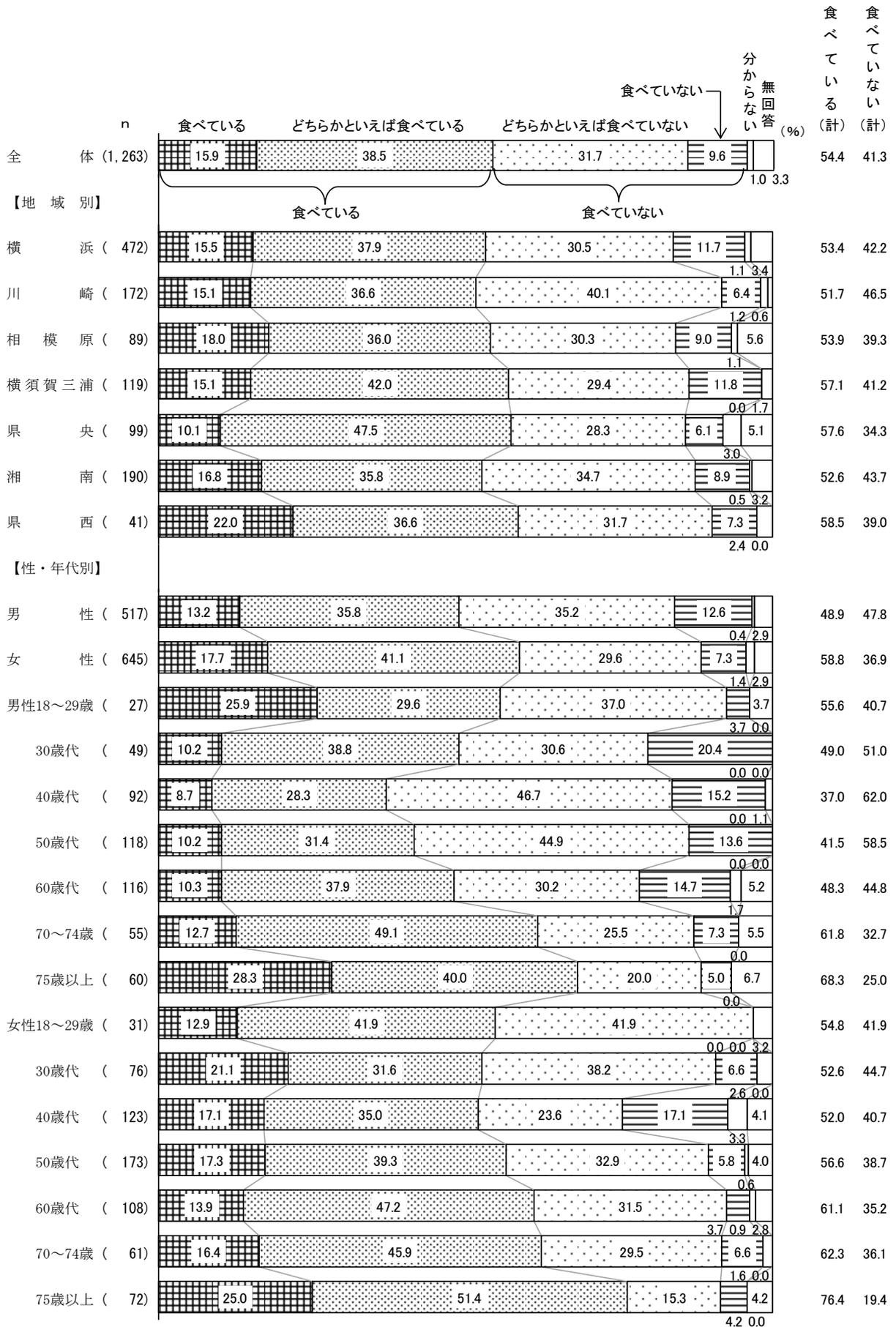
ゆっくりよく噛んで食べているか尋ねたところ、「食べている」(15.9%)と「どちらかといえば食べている」(38.5%)を合わせた《食べている》は54.4%であった。

一方、「食べていない」(9.6%)と「どちらかといえば食べていない」(31.7%)を合わせた《食べていない》は41.3%であった。(図表2-3-1)

図表2-3-1 ゆっくりよく噛んで食べているか



図表2-3-2 ゆっくりよく噛んで食べているかー地域別、性・年代別



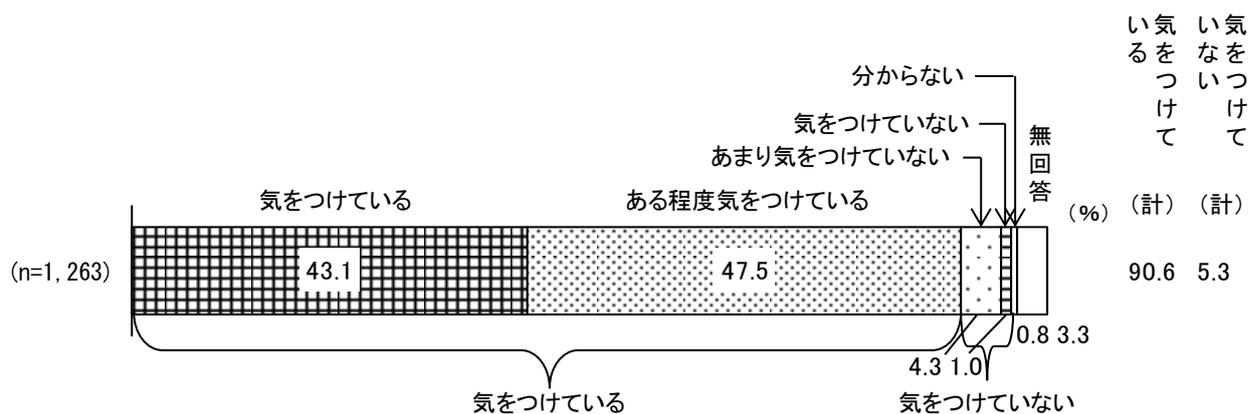
#### 4 食べ残しや買いすぎなどに気をつけているか【問7】

##### 【全体の状況】

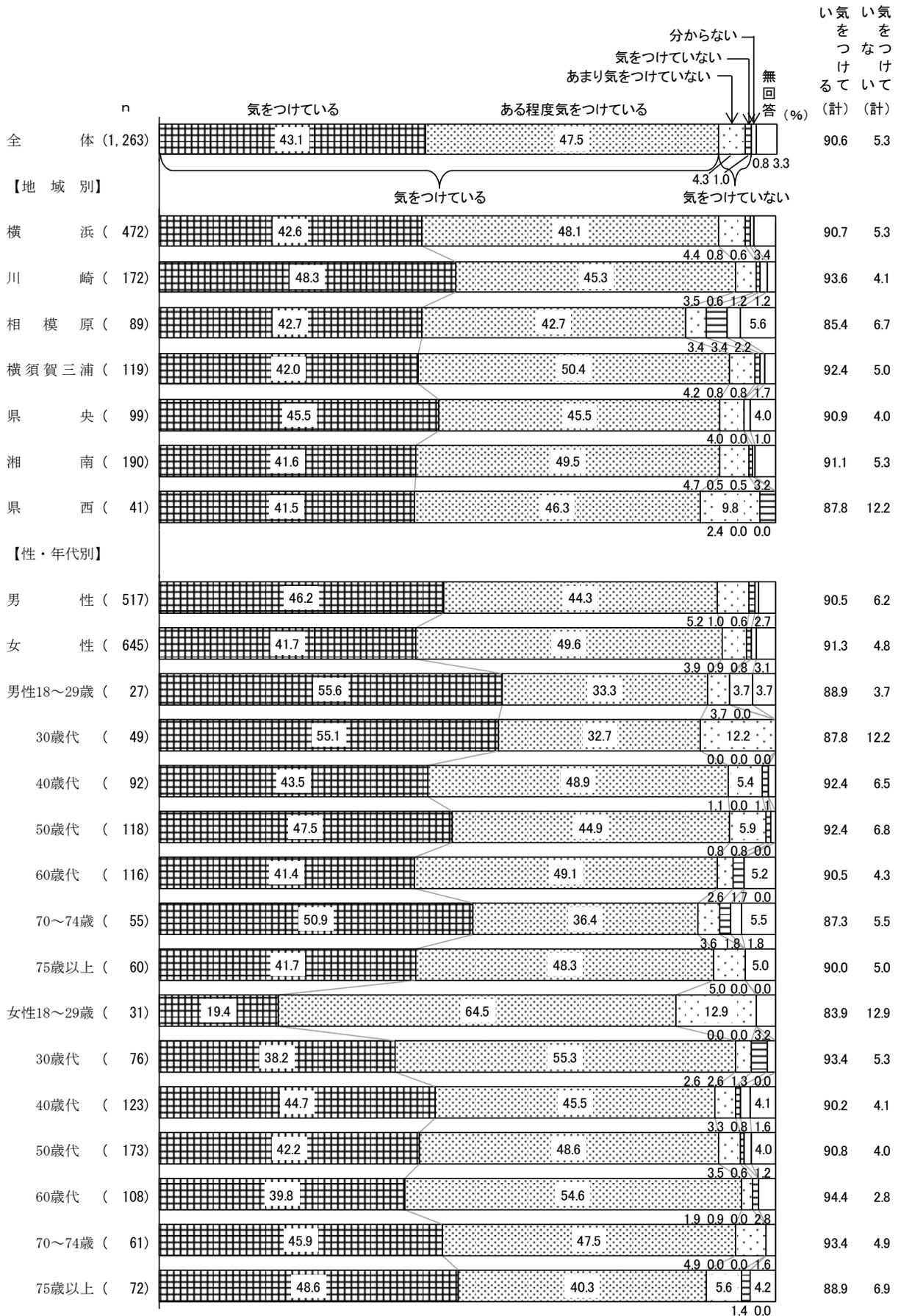
食べ残しや買いすぎなどに気をつけているか尋ねたところ、「気をつけている」(43.1%)と「ある程度気をつけている」(47.5%)を合わせた《気をつけている》は90.6%であった。

一方、「気をつけていない」(1.0%)と「あまり気をつけていない」(4.3%)を合わせた《気をつけていない》は5.3%であった。(図表2-4-1)

図表2-4-1 食べ残しや買いすぎなどに気をつけているか



図表2-4-2 食べ残しや買いすぎなどに気をつけているか—地域別、性・年代別



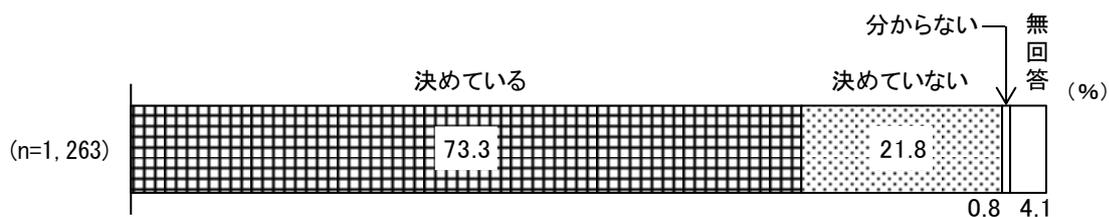
## 5 歯と口の健康を保つためにかかりつけ歯科医を決めているか【問8】

### 【全体の状況】

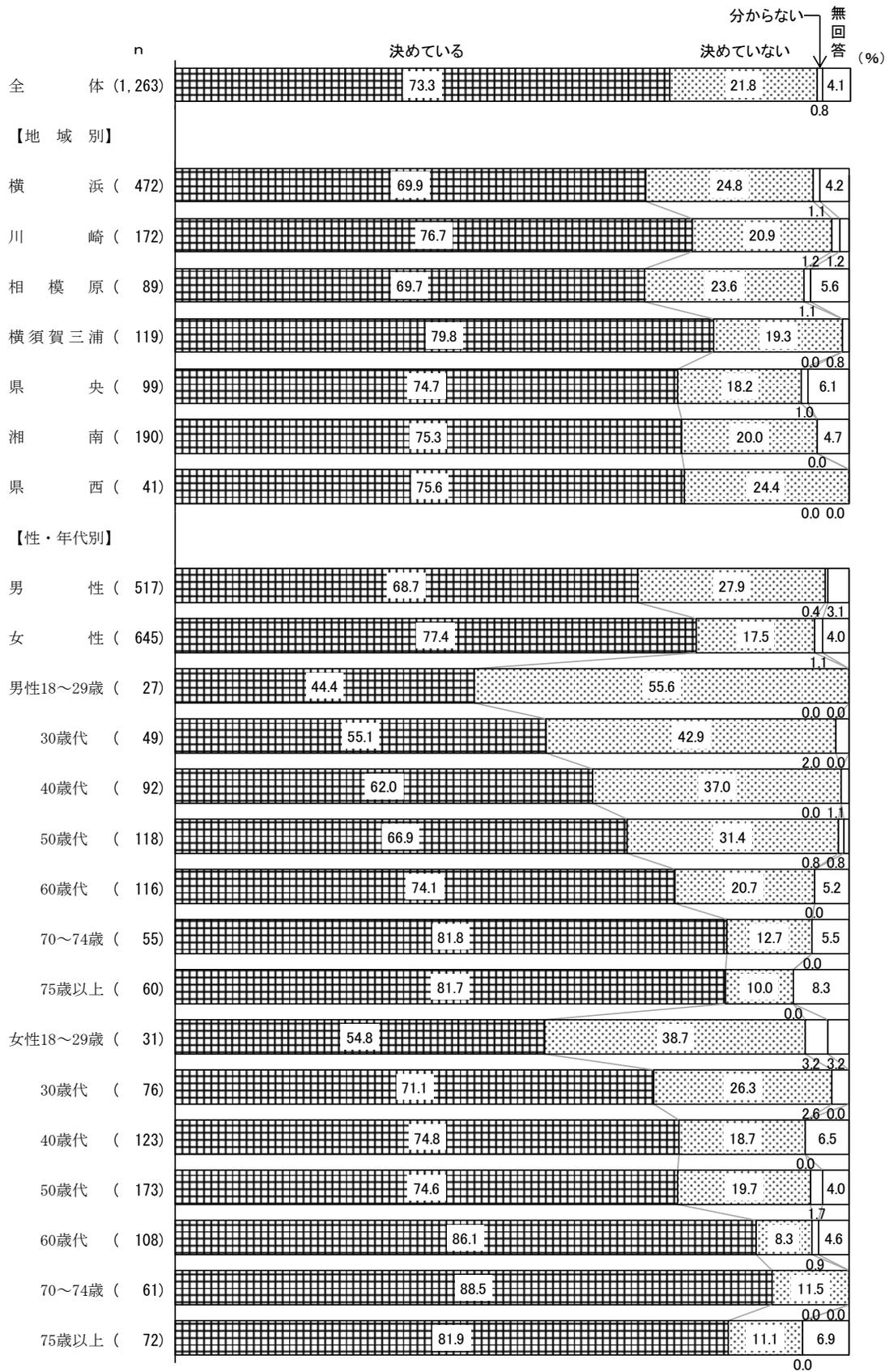
歯と口の健康を保つためにかかりつけ歯科医を決めているか尋ねたところ、「決めている」が73.3%であった。

一方、「決めていない」は、21.8%であった。(図表2-5-1)

図表2-5-1 歯と口の健康を保つためにかかりつけ歯科医を決めているか



図表2-5-2 歯と口の健康を保つためにかかりつけ歯科医を決めているか—地域別、性・年代別

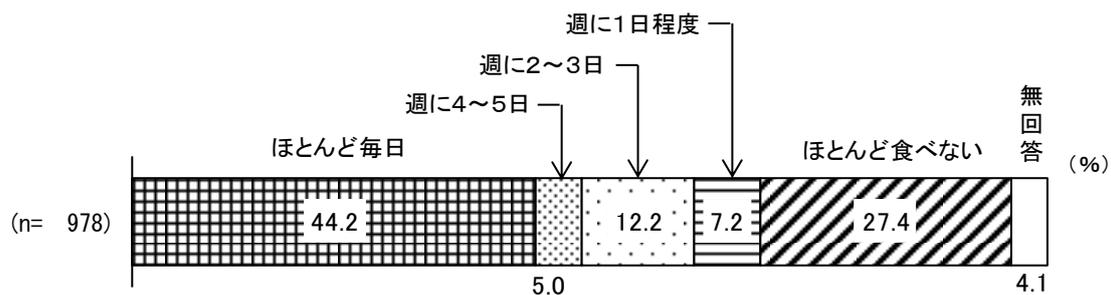


## 6 朝食を同居の方と食べる頻度【問9-1】

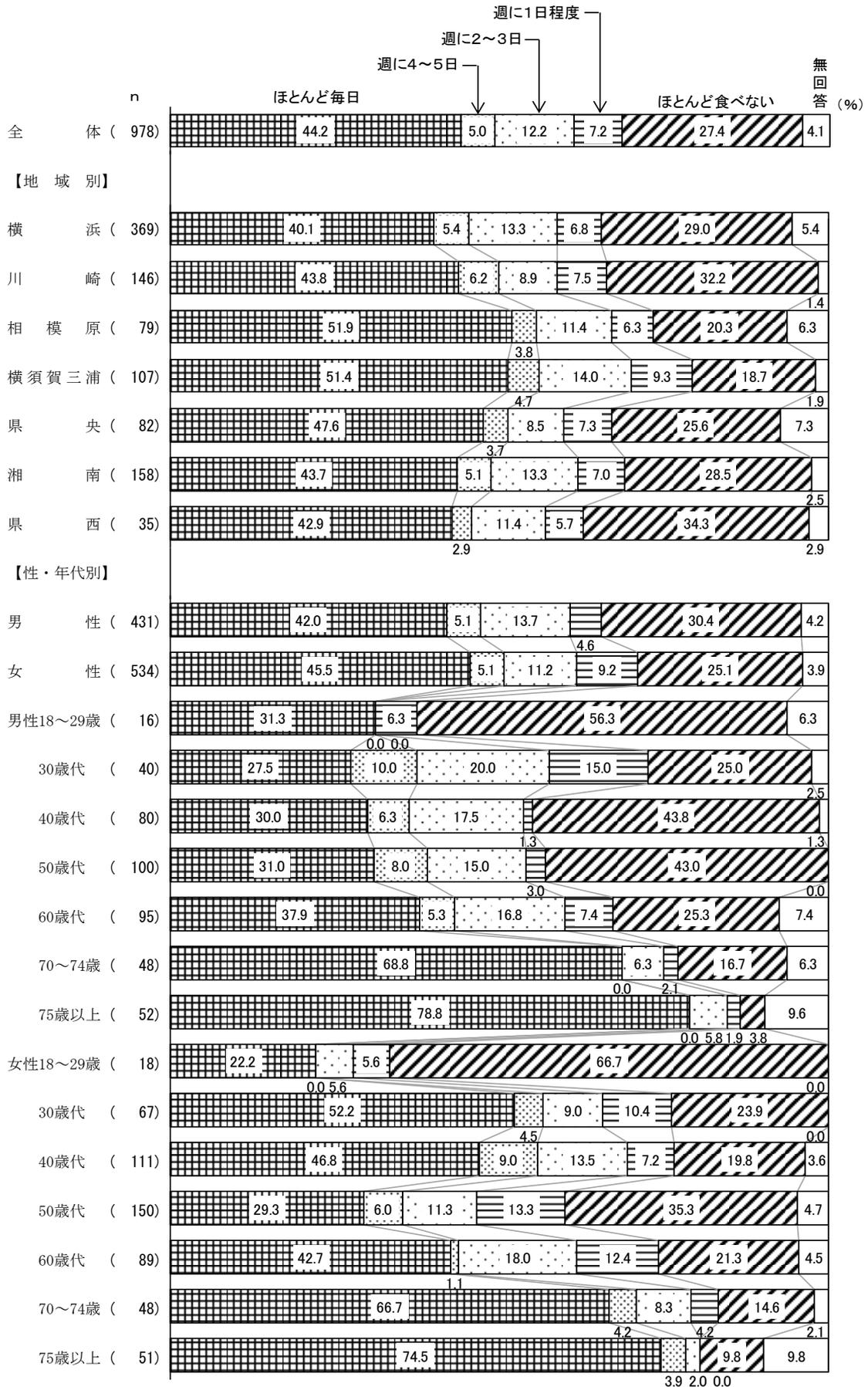
### 【全体の状況】

複数人でお住まいの978人に、朝食を同居の方と食べる頻度を尋ねたところ、「ほとんど毎日」が44.2%で最も多く、次いで「ほとんど食べない」が27.4%であった。(図表2-6-1)

図表2-6-1 朝食を同居の方と食べる頻度



図表2-6-2 朝食を同居の方と食べる頻度—地域別、性・年代別

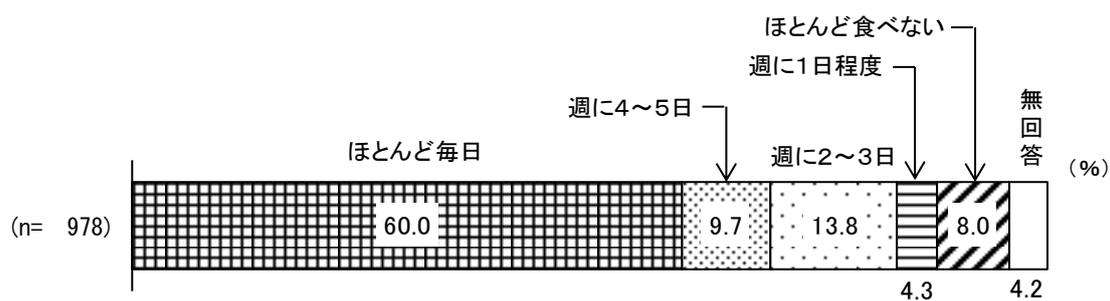


## 7 夕食を同居の方と食べる頻度【問9-2】

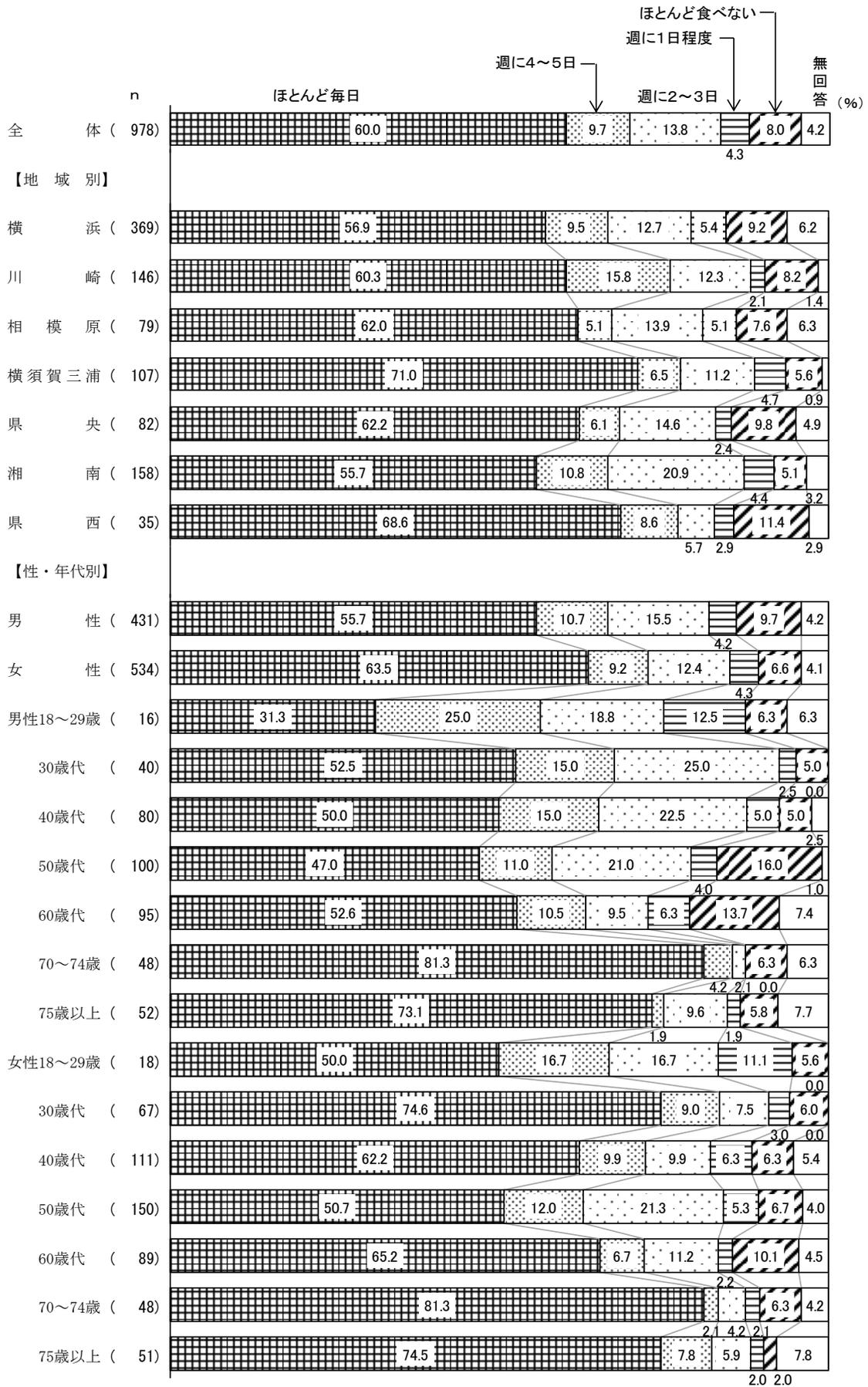
### 【全体の状況】

複数人でお住まいの978人に、夕食を同居の方と食べる頻度を尋ねたところ、「ほとんど毎日」が60.0%で最も多く、次いで「週に2～3日」が13.8%であった。(図表2-7-1)

図表2-7-1 夕食を同居の方と食べる頻度



図表2-7-2 夕食を同居の方と食べる頻度—地域別、性・年代別

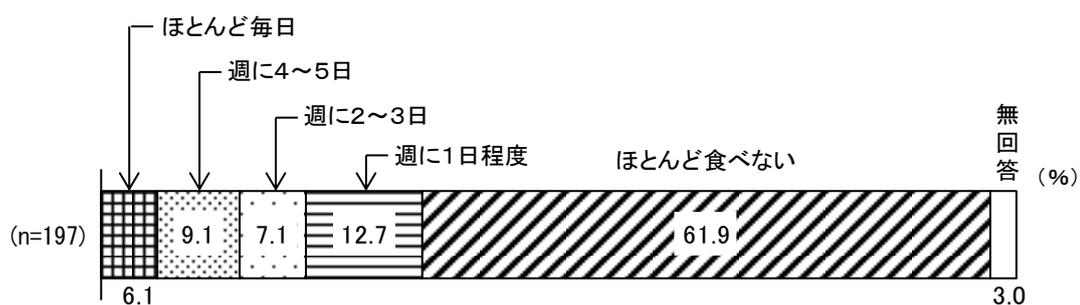


## 8 昼食を仲間や友人など複数人で食べる頻度【問10-1】

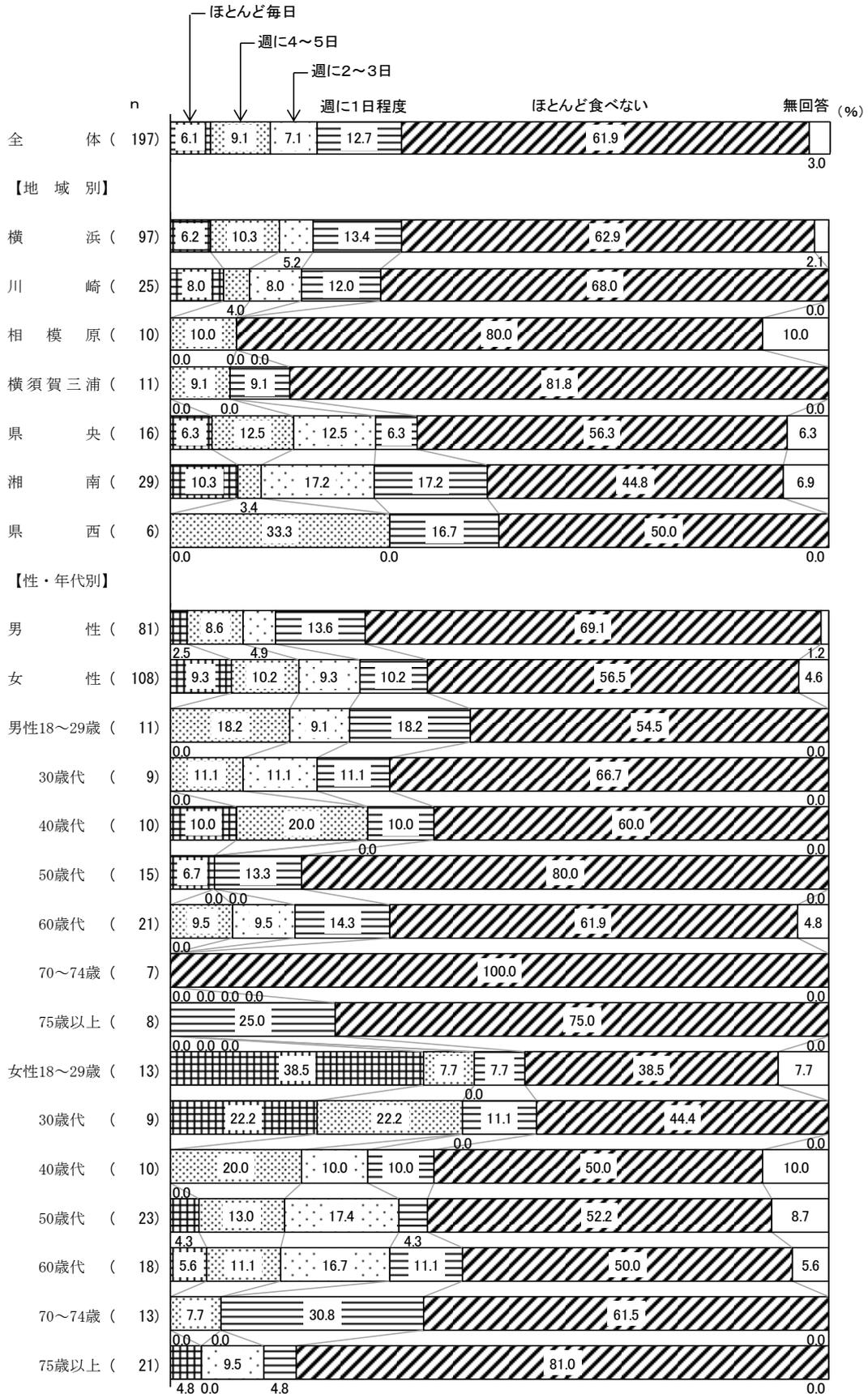
### 【全体の状況】

一人暮らしの197人に、昼食を仲間や友人など、複数人で食べる頻度を尋ねたところ、「ほとんど食べない」が61.9%で最も多く、次いで「週に1日程度」が12.7%であった。(図表2-8-1)

図表2-8-1 昼食を仲間や友人など複数人で食べる頻度



図表2-8-2 屋食を仲間や友人など複数人で食べる頻度—地域別、性・年代別  
(サンプル数が少ないため参考)

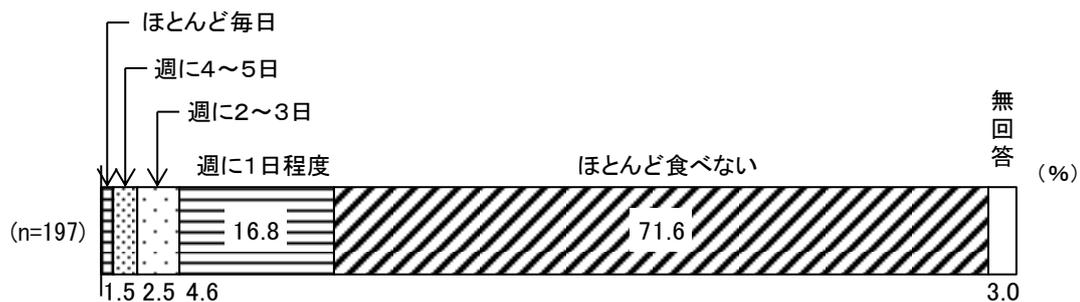


## 9 夕食を仲間や友人など複数人で食べる頻度【問10-2】

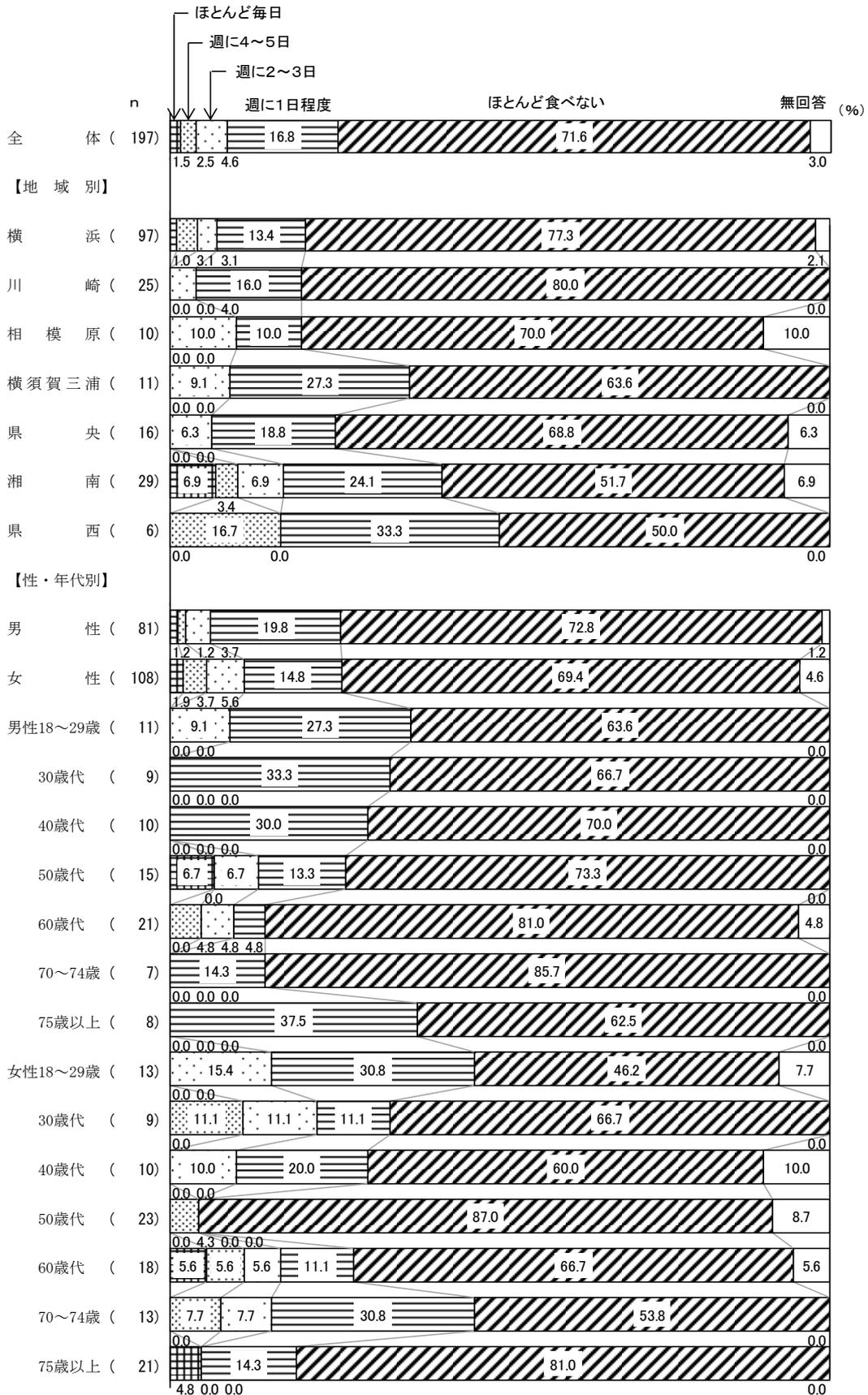
### 【全体の状況】

一人暮らしの197人に、夕食を仲間や友人など、複数人で食べる頻度を尋ねたところ、「ほとんど食べない」が71.6%で最も多く、次いで「週に1日程度」が16.8%であった。(図表2-9-1)

図表2-9-1 夕食を仲間や友人など複数人で食べる頻度



図表2-9-2 夕食を仲間や友人など複数人で食べる頻度—地域別、性・年代別  
(サンプル数が少ないため参考)



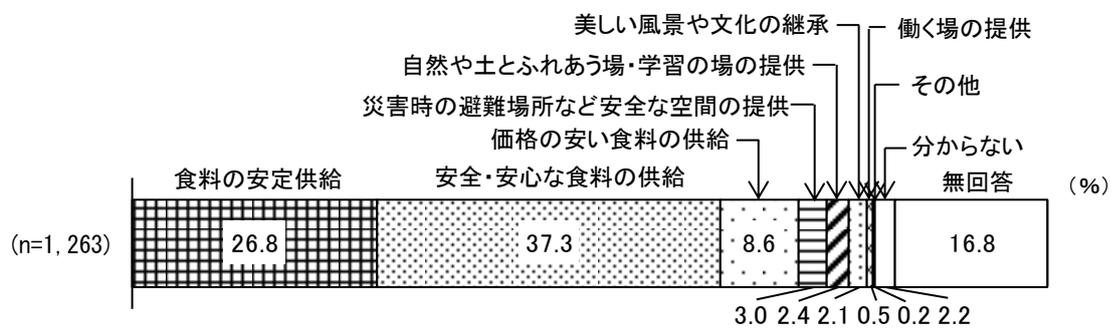
### 第3章 かながわの農林水産業【問11～問14】

#### 1 県の農業に期待する役割【問11】

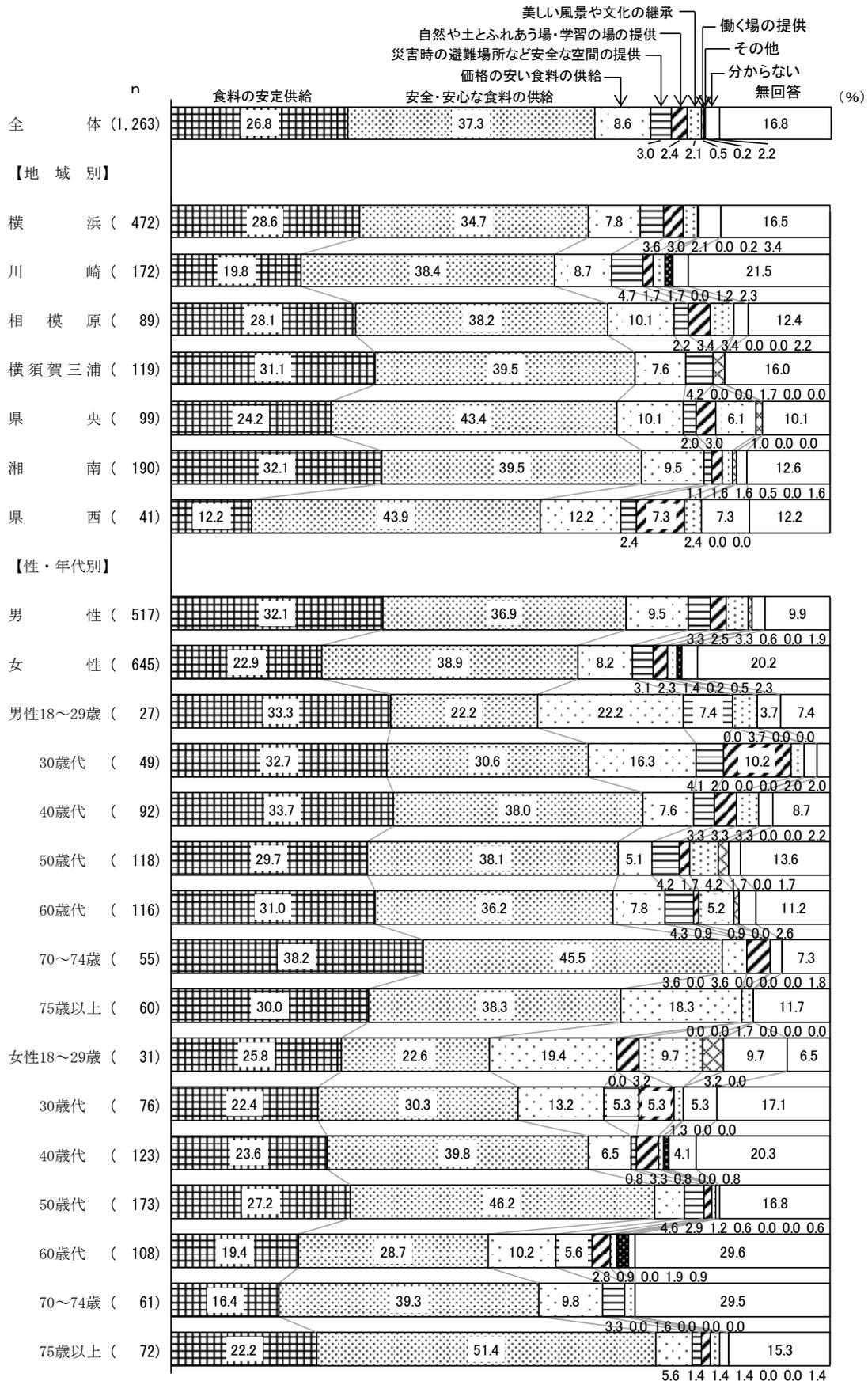
##### 【全体の状況】

県の農業に特にどのような役割を期待するか尋ねたところ、「安全・安心な食料の供給」が37.3%で最も多く、次いで「食料の安定供給」が26.8%であった。(図表3-1-1)

図表3-1-1 県の農業に期待する役割



図表3-1-2 県の農業に期待する役割—地域別、性・年代別



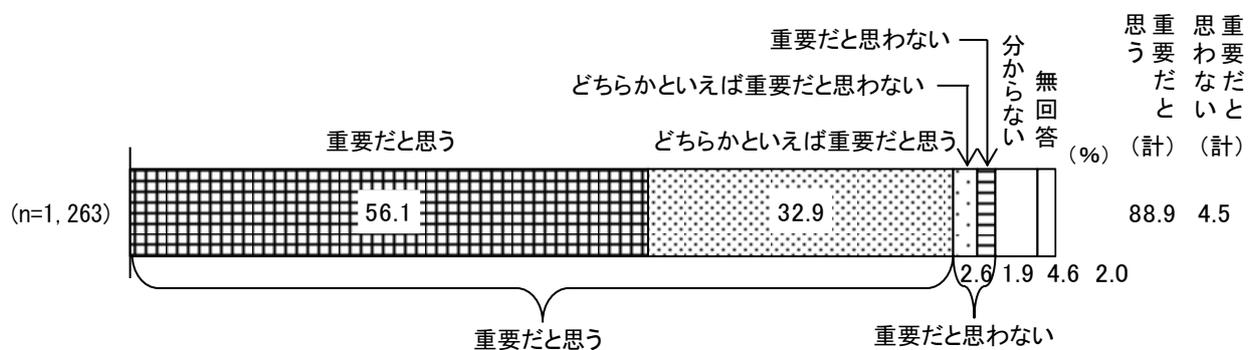
## 2 「地産地消」の取組みの重要度【問12】

### 【全体の状況】

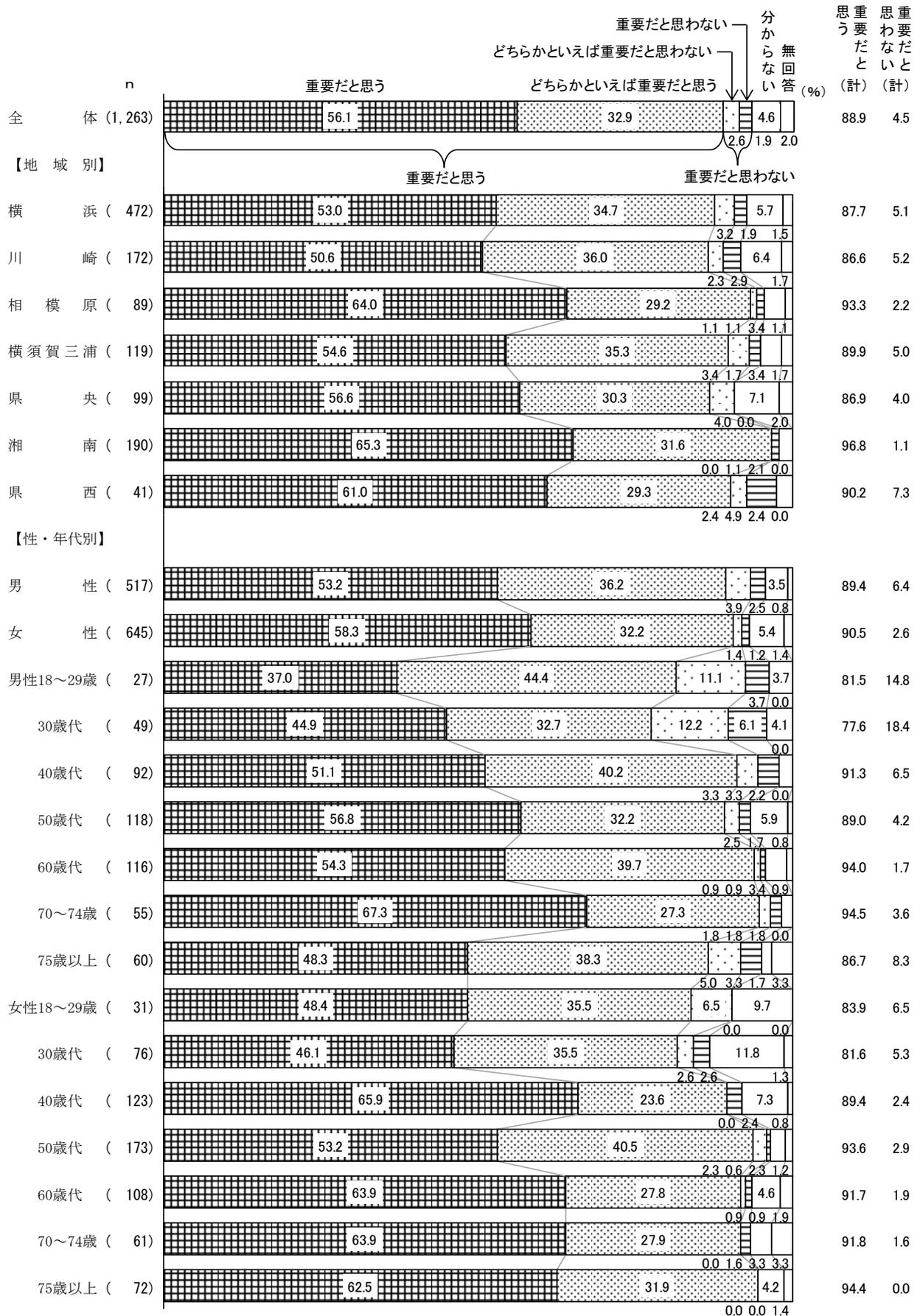
県内の農林水産業を活性化する上で、「地産地消」の取組みを重要だと思うか尋ねたところ、「重要だと思う」(56.1%)と「どちらかといえば重要だと思う」(32.9%)を合わせた《重要だと思う》は88.9%であった。

一方、「重要だと思わない」(1.9%)と「どちらかといえば重要だと思わない」(2.6%)を合わせた《重要だと思わない》は4.5%であった。(図表3-2-1)

図表3-2-1 「地産地消」の取組みの重要度



図表3-2-2 「地産地消」の取組みの重要度—地域別、性・年代別



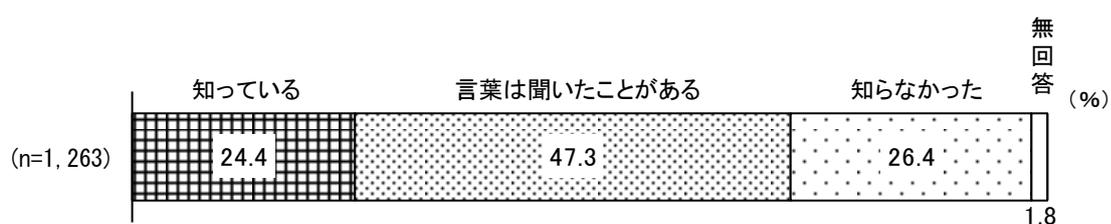
### 3 「かながわブランド」の認知度【問13】

#### 【全体の状況】

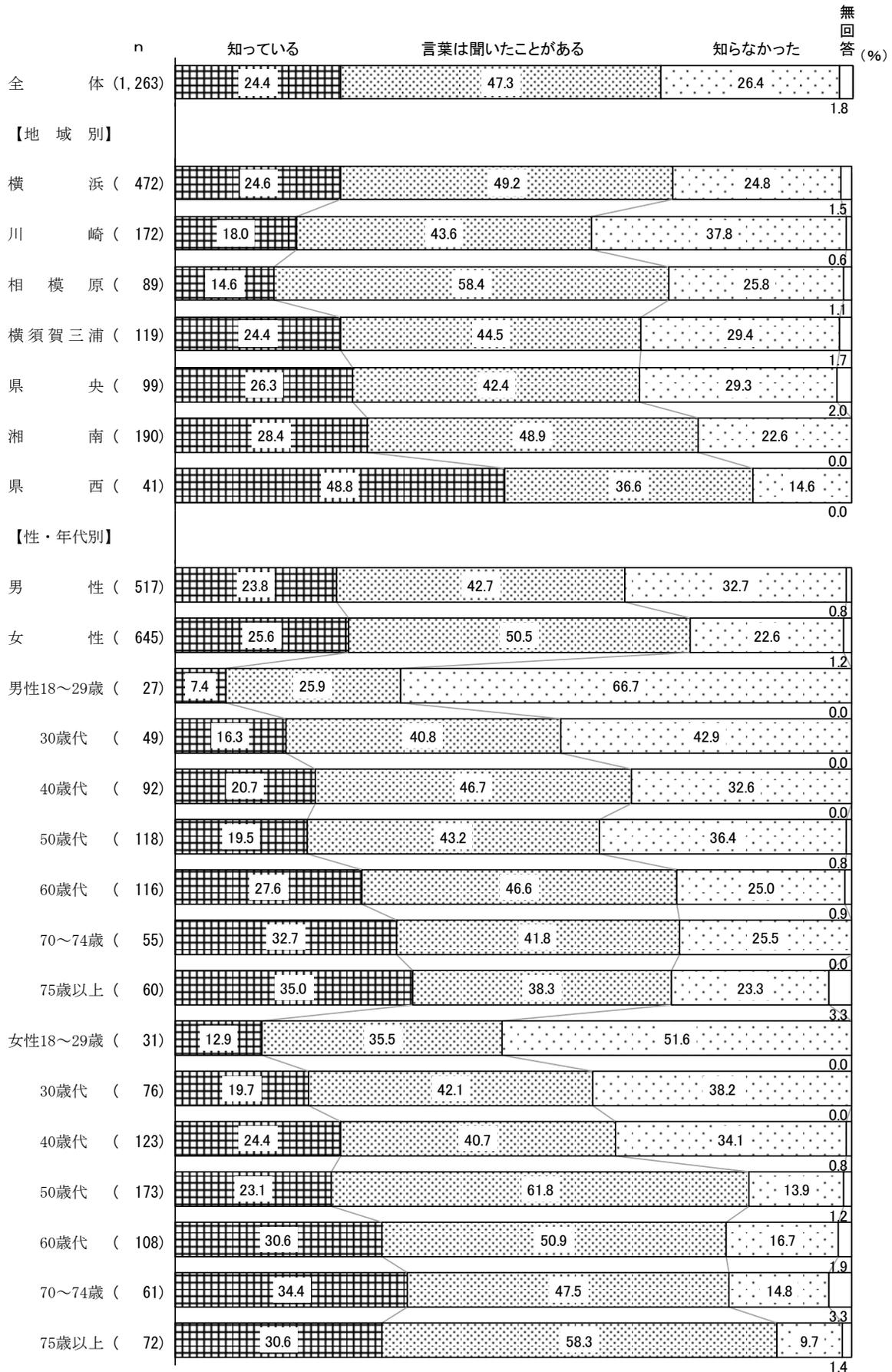
「かながわブランド」という言葉の意味を知っているか尋ねたところ、「知っている」が24.4%であった。

一方、「知らなかった」は、26.4%であった。(図表 3-3-1)

図表3-3-1 「かながわブランド」の認知度



図表3-3-2 「かながわブランド」の認知度—地域別、性・年代別



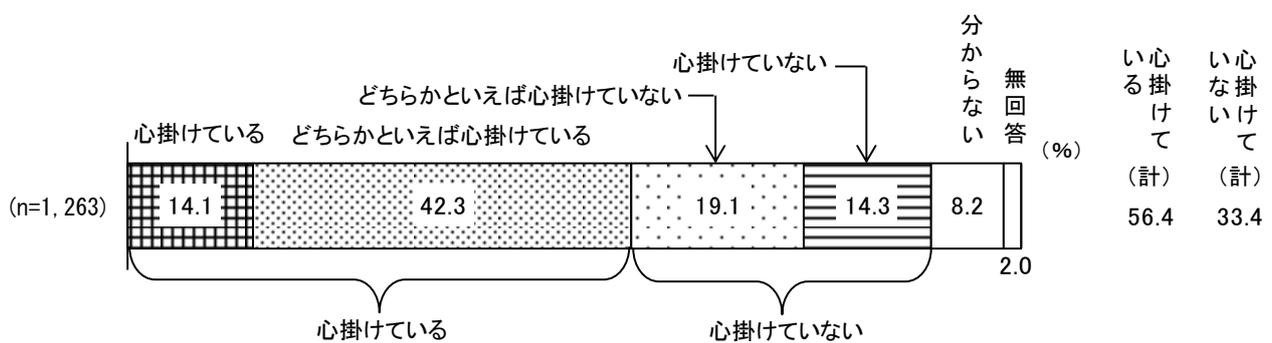
#### 4 環境に配慮した農林水産物や食品を選ぶ心掛け【問14】

##### 【全体の状況】

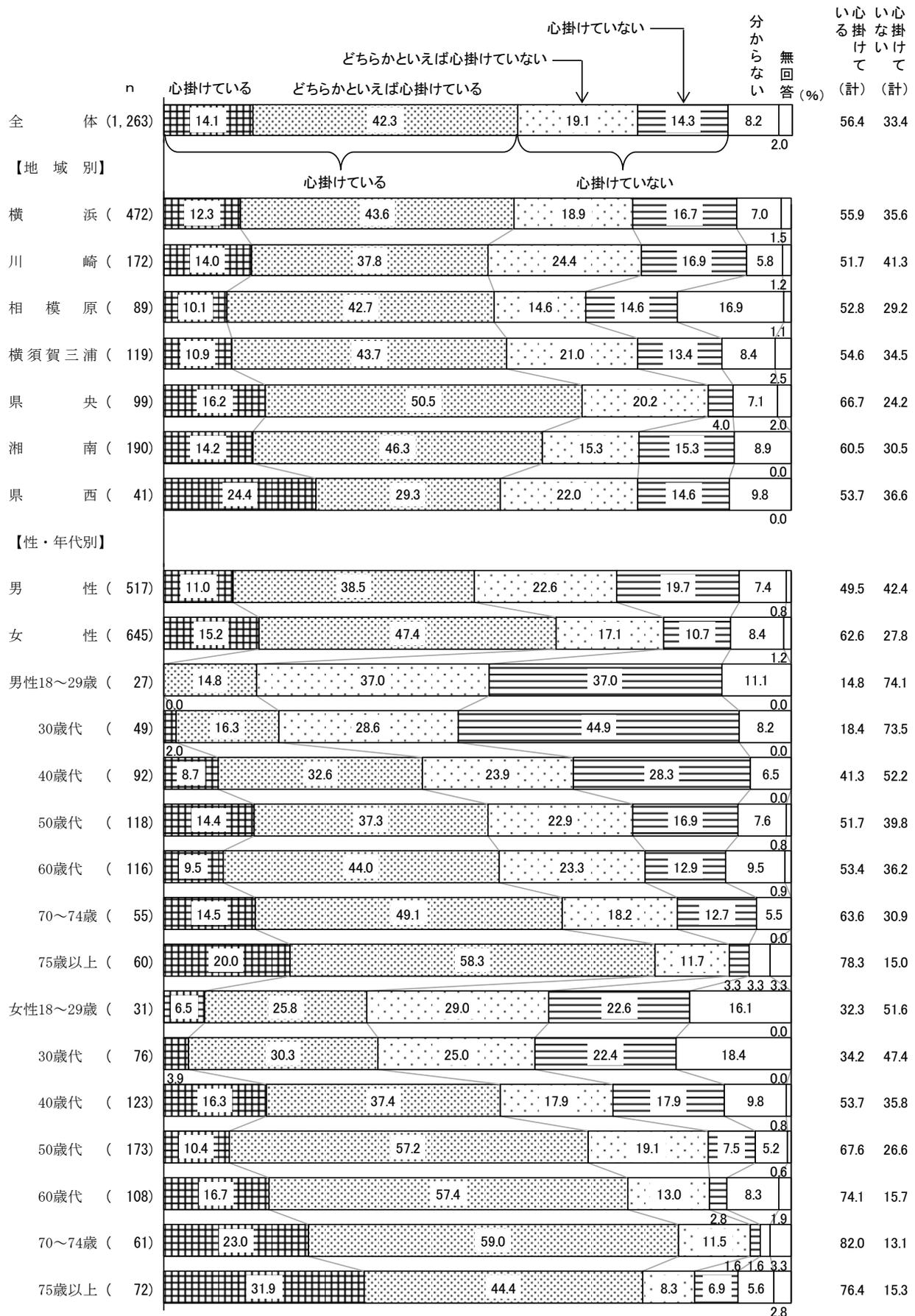
環境に配慮した農林水産物や食品を選ぶよう心掛けているか尋ねたところ、「心掛けている」(14.1%)と「どちらかといえば心掛けている」(42.3%)を合わせた《心掛けている》は56.4%であった。

一方、「心掛けていない」(14.3%)と「どちらかといえば心掛けていない」(19.1%)を合わせた《心掛けていない》は33.4%であった。(図表3-4-1)

図表3-4-1 環境に配慮した農林水産物や食品を選ぶ心掛け



図表3-4-2 環境に配慮した農林水産物や食品を選ぶ心掛け—地域別、性・年代別



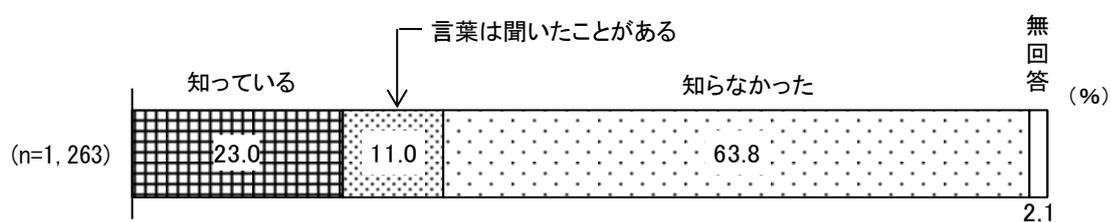
## 第4章 2027年国際園芸博覧会【問15～問17】

### 1 GREEN×EXPO 2027の認知度【問15】

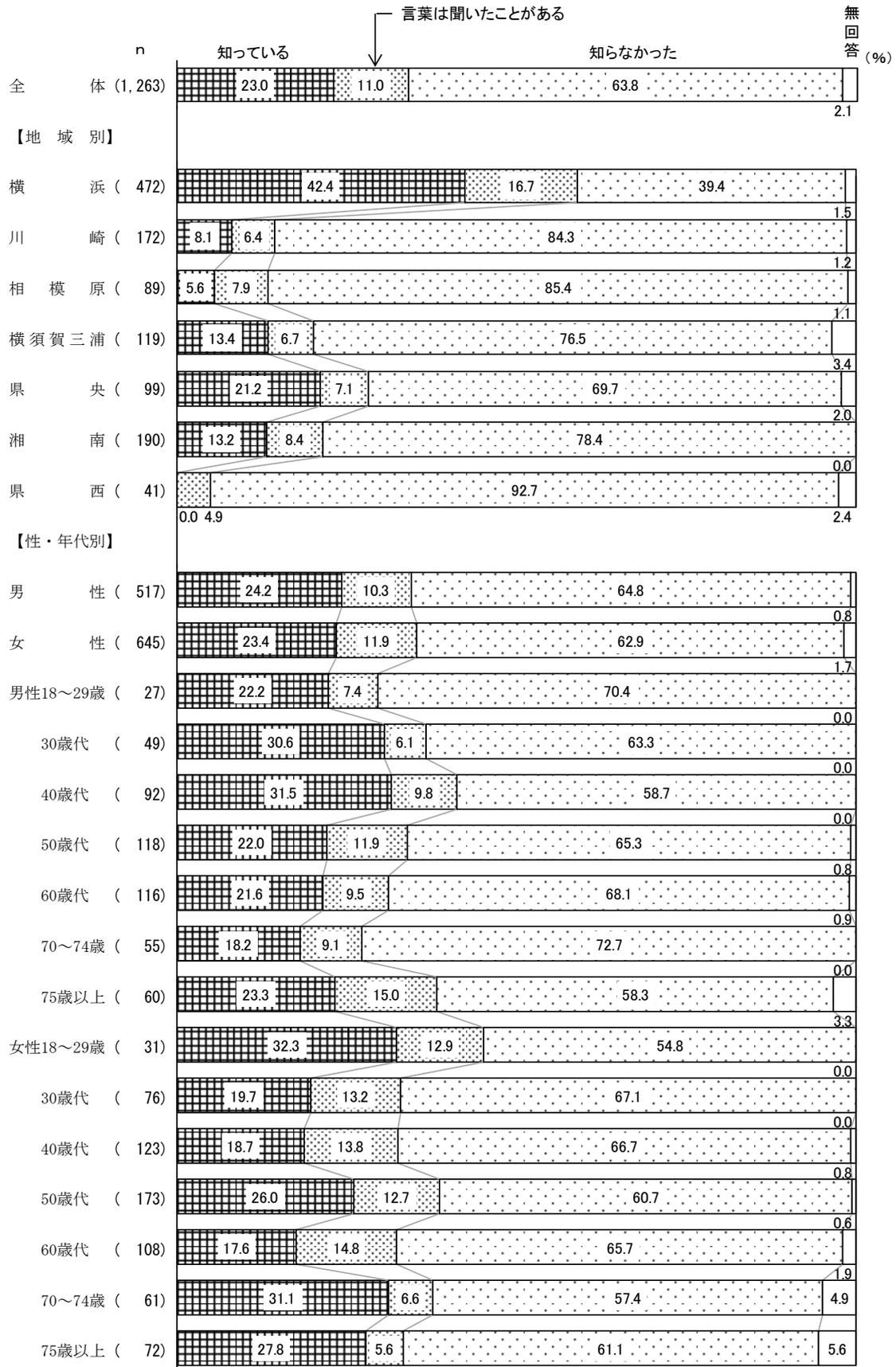
#### 【全体の状況】

「2027年国際園芸博覧会（正式略称：GREEN×EXPO 2027）」が開催されることを知っているか尋ねたところ、「知っている」が23.0%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が11.0%であった。一方、「知らなかった」が63.8%であった。（図表4-1-1）

図表4-1-1 GREEN×EXPO 2027の認知度



図表4-1-2 GREEN×EXPO 2027の認知度—地域別、性・年代別



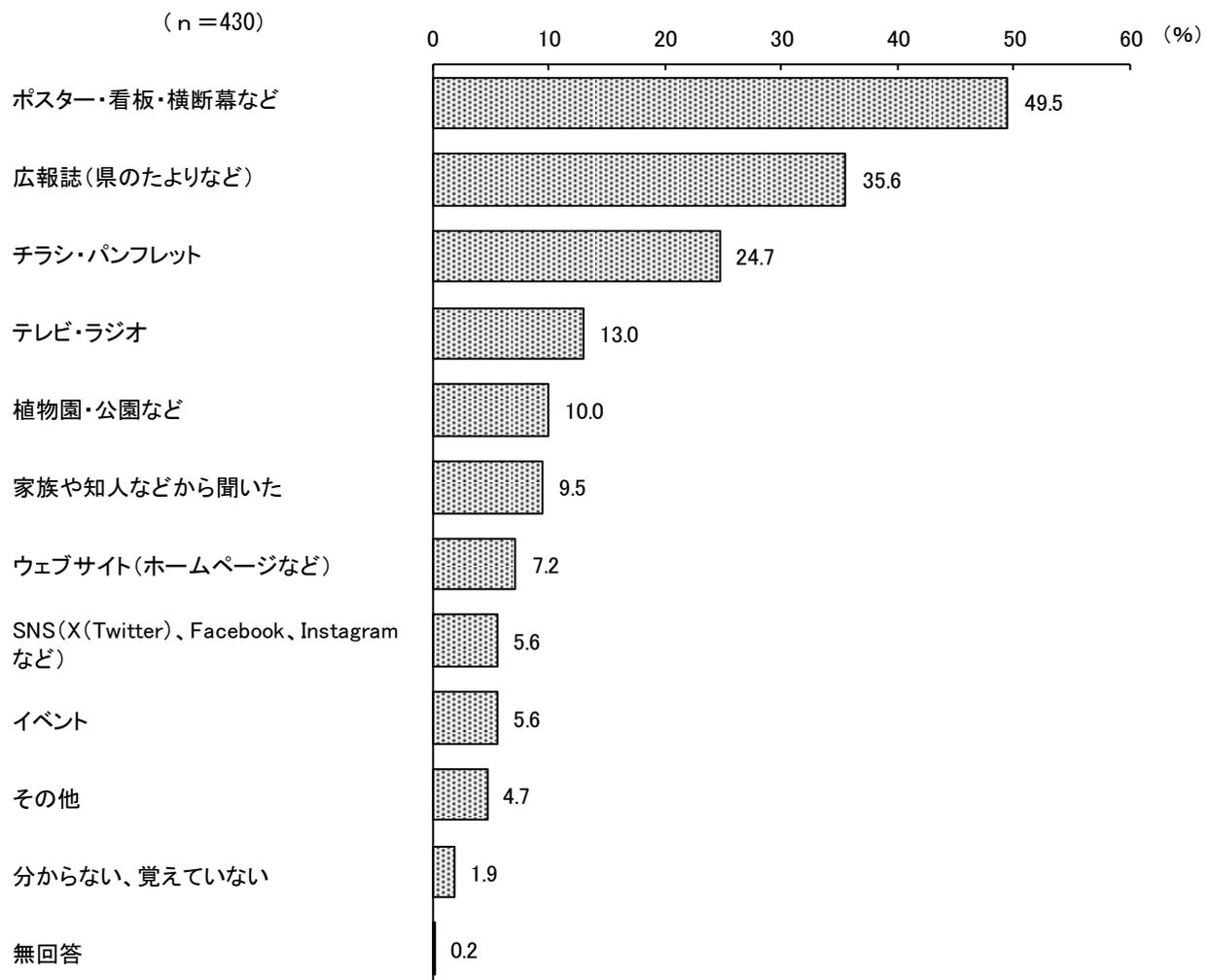
## 2 GREEN×EXPO 2027を知ったきっかけ【問15-1】

### 【全体の状況】

GREEN×EXPO 2027の認知度（問15）で、「知っている」「言葉は聞いたことがある」と回答した430人に、GREEN×EXPO 2027を知ったきっかけについて複数回答で尋ねたところ、「ポスター・看板・横断幕など」が49.5%で最も多く、次いで「広報誌（県のたよりなど）」が35.6%であった。

（図表4-2-1）

図表4-2-1 GREEN×EXPO 2027を知ったきっかけ（複数回答）



図表4-2-2 GREEN×EXPO 2027を知ったきっかけ（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

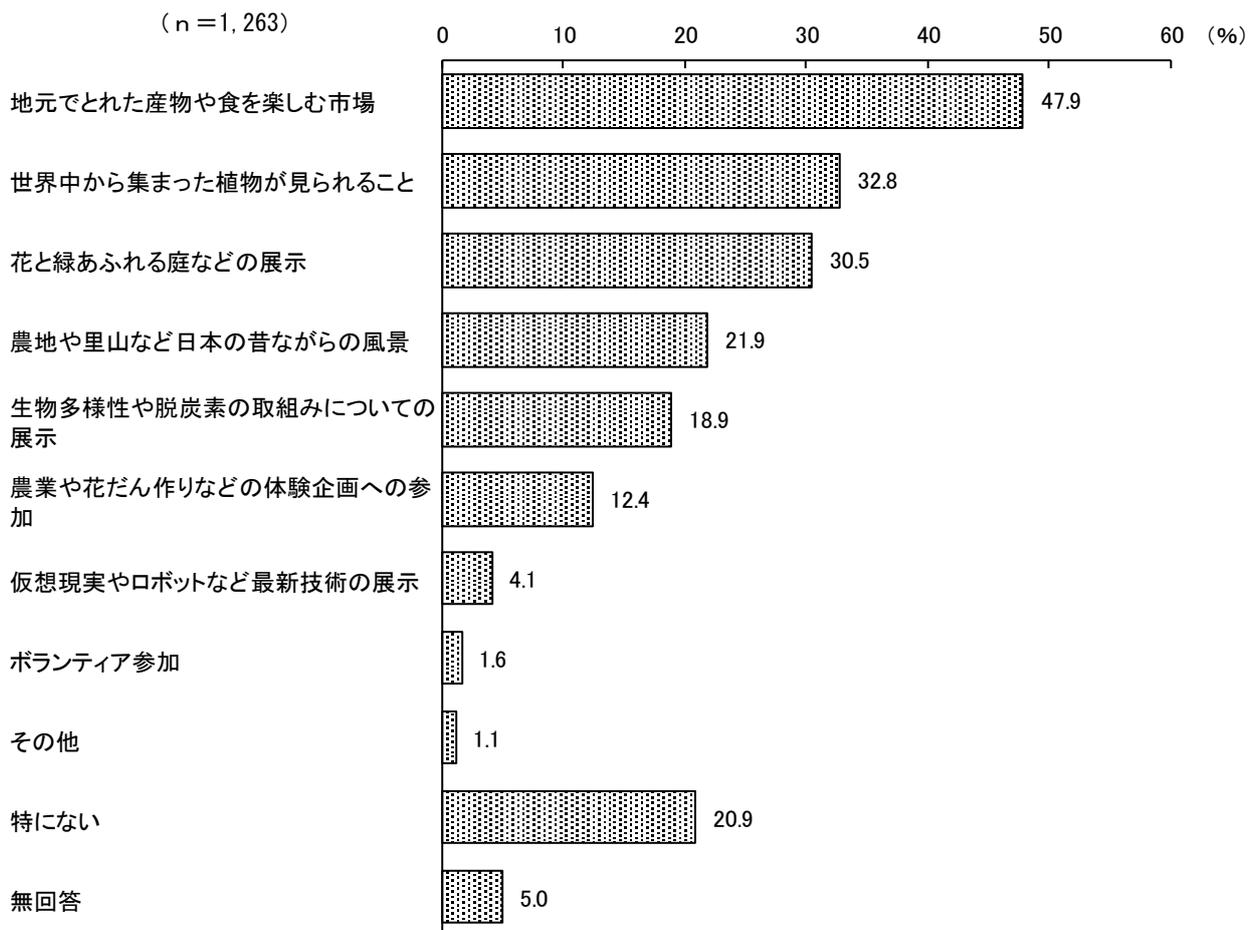
	n	ポスター・看板・横断幕など	広報誌（県のたよりなど）	チラシ・パンフレット	テレビ・ラジオ	植物園・公園など	家族や知人などから聞いた	ウェブサイト（ホームページなど）	Instagram、Facebook、Twitter、	イベント	その他	分からない、覚えていない	無回答
全 体	430	49.5	35.6	24.7	13.0	10.0	9.5	7.2	5.6	5.6	4.7	1.9	0.2
【地 域 別】													
横 浜	279	56.6	38.0	29.4	9.0	10.8	8.2	5.7	4.7	6.1	5.7	1.4	-
川 崎	25	60.0	32.0	20.0	8.0	12.0	12.0	12.0	20.0	-	8.0	4.0	-
相 模 原	12	25.0	25.0	33.3	25.0	33.3	8.3	-	-	16.7	-	-	8.3
横 須 賀 三 浦	24	29.2	29.2	16.7	12.5	4.2	12.5	12.5	-	8.3	8.3	4.2	-
県 央	28	39.3	32.1	14.3	25.0	3.6	14.3	14.3	7.1	3.6	-	3.6	-
湘 南	41	34.1	29.3	7.3	19.5	4.9	14.6	12.2	2.4	2.4	-	-	-
県 西	2	-	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-	50.0	-
【性・年代別】													
男 性	178	48.3	33.7	21.3	17.4	6.2	9.0	11.2	4.5	3.4	5.6	1.7	-
女 性	228	52.2	36.0	28.1	7.9	12.7	10.5	4.8	5.7	7.5	4.4	2.2	0.4
男性18～29歳	8	25.0	-	12.5	37.5	-	12.5	12.5	12.5	-	12.5	-	-
30歳代	18	72.2	5.6	27.8	5.6	-	11.1	5.6	-	5.6	11.1	5.6	-
40歳代	38	47.4	31.6	28.9	18.4	2.6	10.5	15.8	7.9	2.6	7.9	-	-
50歳代	40	57.5	27.5	15.0	10.0	12.5	7.5	15.0	5.0	7.5	5.0	-	-
60歳代	36	55.6	27.8	22.2	13.9	5.6	8.3	5.6	5.6	-	2.8	-	-
70～74歳	15	40.0	66.7	6.7	26.7	13.3	6.7	20.0	-	-	-	-	-
75歳以上	23	17.4	69.6	26.1	30.4	4.3	8.7	4.3	-	4.3	4.3	8.7	-
女性18～29歳	14	64.3	-	7.1	7.1	14.3	21.4	-	-	-	7.1	7.1	-
30歳代	25	64.0	8.0	40.0	4.0	8.0	8.0	4.0	12.0	8.0	-	4.0	-
40歳代	40	65.0	25.0	32.5	2.5	17.5	-	5.0	7.5	10.0	5.0	-	-
50歳代	67	52.2	29.9	20.9	7.5	4.5	14.9	3.0	7.5	7.5	6.0	1.5	-
60歳代	35	40.0	51.4	25.7	5.7	22.9	5.7	14.3	2.9	11.4	5.7	5.7	-
70～74歳	23	43.5	73.9	26.1	8.7	17.4	21.7	4.3	4.3	4.3	4.3	-	-
75歳以上	24	37.5	62.5	45.8	25.0	12.5	8.3	-	-	4.2	-	-	4.2

### 3 GREEN×EXPO 2027に期待すること【問16】

#### 【全体の状況】

GREEN×EXPO 2027に期待することを複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「地元でとれた産物や食を楽しむ市場」が47.9%で最も多く、次いで「世界中から集まった植物が見られること」が32.8%であった。（図表4-3-1）

図表4-3-1 GREEN×EXPO 2027に期待すること（複数回答）



図表4-3-2 GREEN×EXPO 2027に期待すること（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

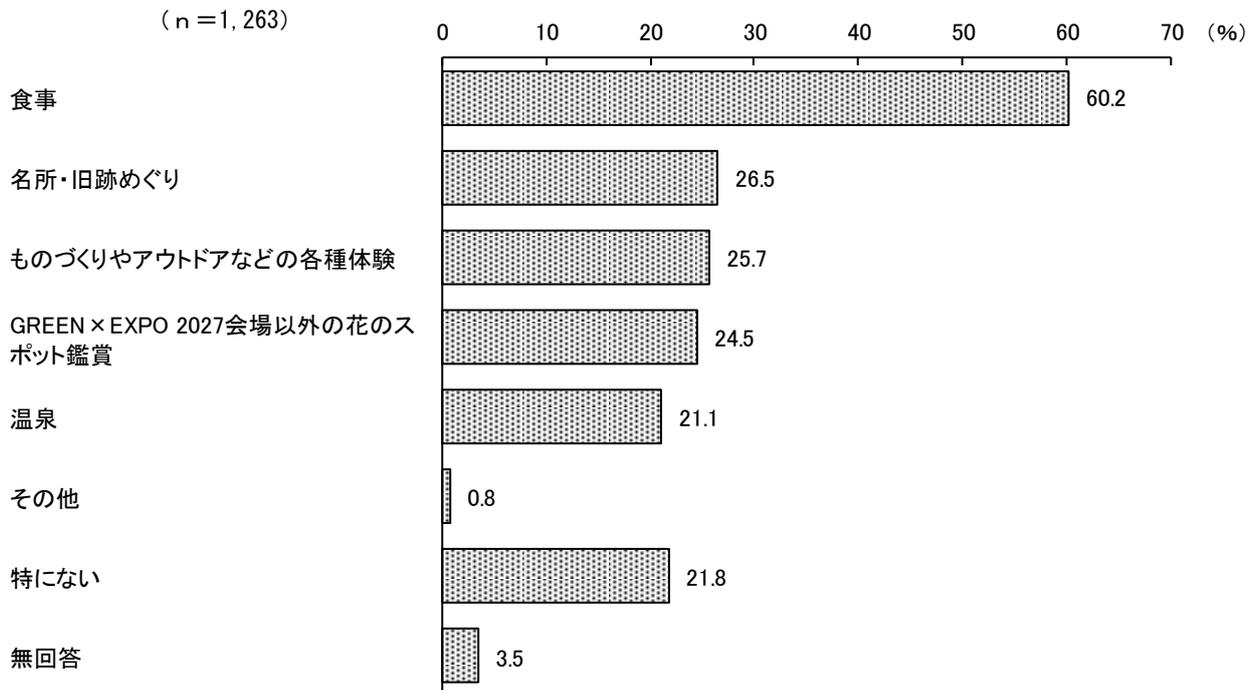
	n	場 地 元でとれた産物や食を楽しむ市	世界 中から集まった植物が見られること	花と 緑あふれる庭などの展示	農地 や里山など日本の昔ながらの風景	生物 多様性や脱炭素の取組みについての展示	農業 や花だん作りなどの体験企画への参加	仮想 現実やロボットなど最新技術の展示	ボラ ンティア参加	その 他	特 に な い	無 回 答
全 体	1,263	47.9	32.8	30.5	21.9	18.9	12.4	4.1	1.6	1.1	20.9	5.0
【地 域 別】												
横 浜	472	44.5	34.5	33.3	19.9	18.0	15.0	4.4	2.1	1.5	21.4	3.4
川 崎	172	50.6	34.9	27.3	19.2	21.5	11.6	1.7	2.3	0.6	20.9	4.7
相 模 原	89	55.1	30.3	32.6	32.6	15.7	18.0	3.4	1.1	-	16.9	3.4
横 須 賀 三 浦	119	49.6	34.5	30.3	26.9	16.0	9.2	4.2	0.8	3.4	22.7	4.2
県 央	99	50.5	40.4	34.3	23.2	22.2	6.1	8.1	-	-	17.2	6.1
湘 南	190	53.2	28.4	28.9	20.0	23.7	11.6	3.2	1.6	1.1	20.5	5.3
県 西	41	48.8	29.3	17.1	26.8	12.2	9.8	2.4	-	-	26.8	2.4
【性・年代別】												
男 性	517	42.9	30.8	25.3	24.6	19.3	10.1	3.9	1.7	1.0	25.5	3.9
女 性	645	53.8	36.6	35.7	20.0	19.1	14.6	4.2	1.6	1.2	16.7	4.0
男性18～29歳	27	25.9	29.6	40.7	14.8	7.4	7.4	3.7	3.7	-	33.3	-
30歳代	49	46.9	32.7	22.4	22.4	26.5	20.4	4.1	-	4.1	22.4	2.0
40歳代	92	42.4	39.1	29.3	15.2	21.7	14.1	3.3	2.2	1.1	21.7	4.3
50歳代	118	46.6	28.0	22.9	30.5	16.1	7.6	4.2	1.7	-	28.0	4.2
60歳代	116	45.7	23.3	19.0	25.0	22.4	10.3	5.2	1.7	1.7	26.7	2.6
70～74歳	55	43.6	30.9	29.1	32.7	21.8	1.8	1.8	-	-	27.3	1.8
75歳以上	60	35.0	36.7	28.3	25.0	13.3	8.3	3.3	3.3	-	21.7	10.0
女性18～29歳	31	35.5	32.3	35.5	19.4	22.6	6.5	3.2	3.2	3.2	25.8	-
30歳代	76	48.7	39.5	25.0	11.8	11.8	21.1	3.9	2.6	-	21.1	3.9
40歳代	123	50.4	30.1	29.3	18.7	15.4	19.5	2.4	0.8	1.6	20.3	3.3
50歳代	173	57.8	37.0	39.3	23.7	19.7	14.5	3.5	1.2	1.2	16.8	2.9
60歳代	108	61.1	36.1	39.8	18.5	23.1	15.7	2.8	2.8	1.9	11.1	3.7
70～74歳	61	57.4	37.7	42.6	14.8	27.9	6.6	4.9	-	1.6	16.4	6.6
75歳以上	72	50.0	45.8	37.5	29.2	16.7	8.3	11.1	1.4	-	9.7	8.3

#### 4 GREEN×EXPO 2027と一緒に楽しみたい観光のテーマ【問17】

##### 【全体の状況】

GREEN×EXPO 2027と一緒に楽しみたい観光のテーマを複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「食事」が60.2%で最も多く、次いで「名所・旧跡めぐり」が26.5%であった。（図表4-4-1）

図表4-4-1 GREEN×EXPO 2027と一緒に楽しみたい観光のテーマ（複数回答）



図表4-4-2 GREEN×EXPO 2027と一緒に楽しみたい観光のテーマ（複数回答）

—地域別、性・年代別

(%)

	n	食事	名所・旧跡めぐり	種ものづくりやアウトドアなどの各体験	会場以外の花のスポーツ鑑賞	温泉	その他	特にない	無回答
全体	1,263	60.2	26.5	25.7	24.5	21.1	0.8	21.8	3.5
【地域別】									
横浜	472	59.3	25.0	27.5	25.4	18.9	0.4	23.7	2.1
川崎	172	66.3	30.2	28.5	23.3	23.3	0.6	18.6	2.3
相模原	89	65.2	31.5	27.0	29.2	22.5	-	18.0	4.5
横須賀三浦	119	62.2	31.1	17.6	22.7	24.4	1.7	25.2	2.5
県央	99	60.6	26.3	26.3	27.3	19.2	2.0	19.2	5.1
湘南	190	61.1	24.2	24.2	21.6	24.2	0.5	21.1	2.1
県西	41	46.3	24.4	29.3	19.5	26.8	-	31.7	-
【性・年代別】									
男性	517	55.9	24.2	24.0	19.7	23.6	0.4	28.0	1.9
女性	645	65.9	28.8	28.1	28.2	20.0	0.9	17.2	2.6
男性18～29歳	27	63.0	22.2	22.2	3.7	40.7	-	33.3	-
30歳代	49	61.2	26.5	30.6	20.4	32.7	-	18.4	2.0
40歳代	92	64.1	25.0	29.3	17.4	28.3	-	25.0	1.1
50歳代	118	55.1	28.0	25.4	16.9	23.7	-	28.8	0.8
60歳代	116	53.4	22.4	18.1	19.0	23.3	0.9	31.9	0.9
70～74歳	55	47.3	16.4	27.3	40.0	7.3	-	30.9	-
75歳以上	60	50.0	25.0	16.7	18.3	16.7	1.7	26.7	10.0
女性18～29歳	31	71.0	19.4	32.3	25.8	32.3	-	16.1	-
30歳代	76	67.1	28.9	35.5	10.5	30.3	-	19.7	2.6
40歳代	123	66.7	26.8	37.4	19.5	20.3	0.8	16.3	2.4
50歳代	173	71.7	32.9	25.4	25.4	19.7	0.6	18.5	1.2
60歳代	108	64.8	26.9	23.1	38.0	16.7	3.7	15.7	2.8
70～74歳	61	62.3	21.3	24.6	34.4	13.1	-	18.0	8.2
75歳以上	72	52.8	36.1	19.4	50.0	15.3	-	13.9	2.8

## 第5章 スポーツ【問18～問21】

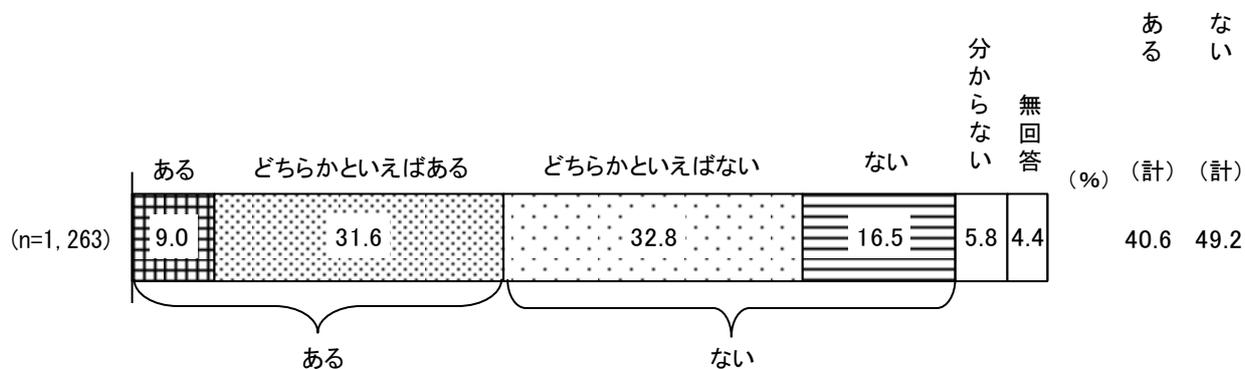
### 1 体力への自信の有無【問18】

#### 【全体の状況】

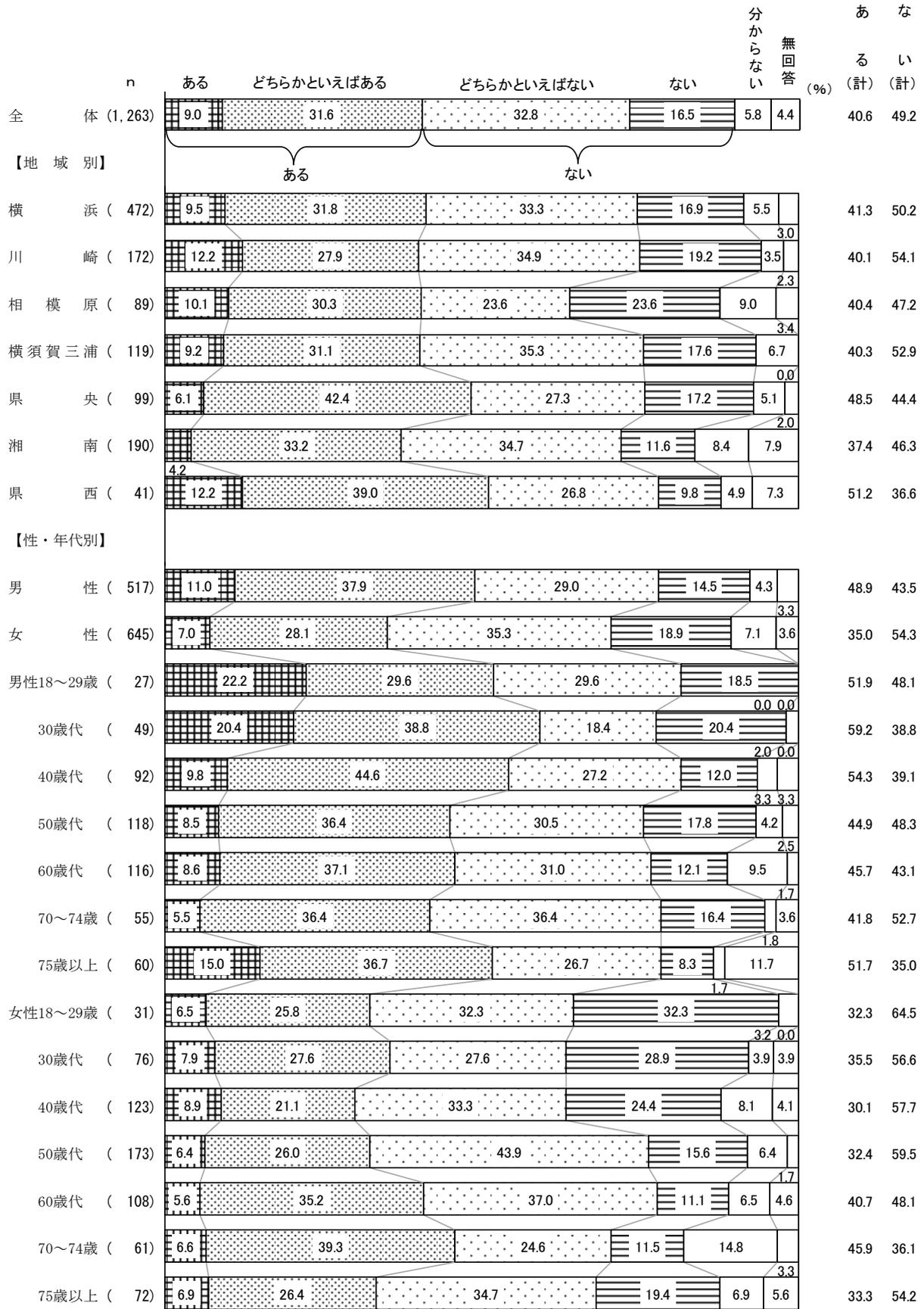
体力に自信があるか尋ねたところ、「ある」(9.0%)と「どちらかといえばある」(31.6%)を合わせた《ある》は40.6%であった。

一方、「ない」(16.5%)と「どちらかといえばない」(32.8%)を合わせた《ない》は49.2%であった。(図表5-1-1)

図表5-1-1 体力への自信の有無



図表5-1-2 体力への自信の有無—地域別、性・年代別

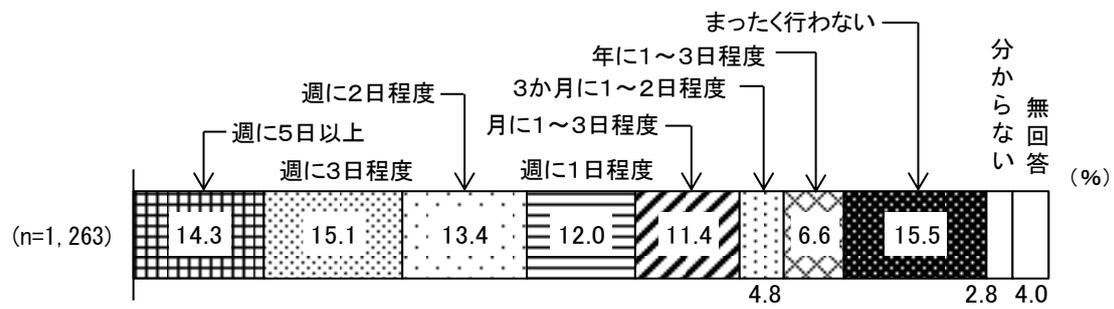


## 2 1年間のスポーツ実施日数【問19】

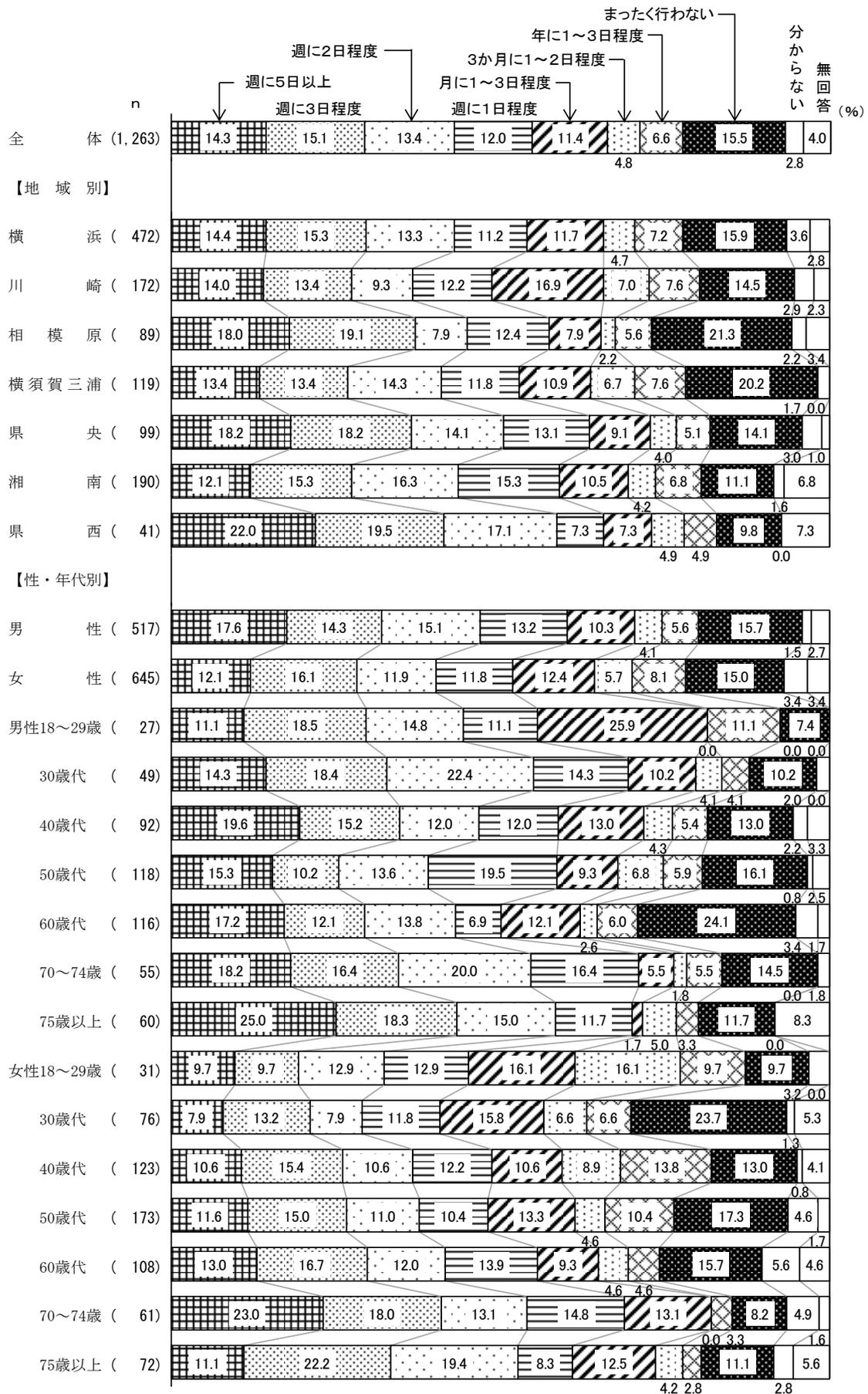
### 【全体の状況】

この1年間で1日に30分以上の運動やスポーツをした日数を尋ねたところ、「まったく行わない」が15.5%で最も多く、次いで「週に3日程度」が15.1%であった。(図表5-2-1)

図表5-2-1 1年間のスポーツ実施日数



図表5-2-2 1年間のスポーツ実施日数—地域別、性・年代別



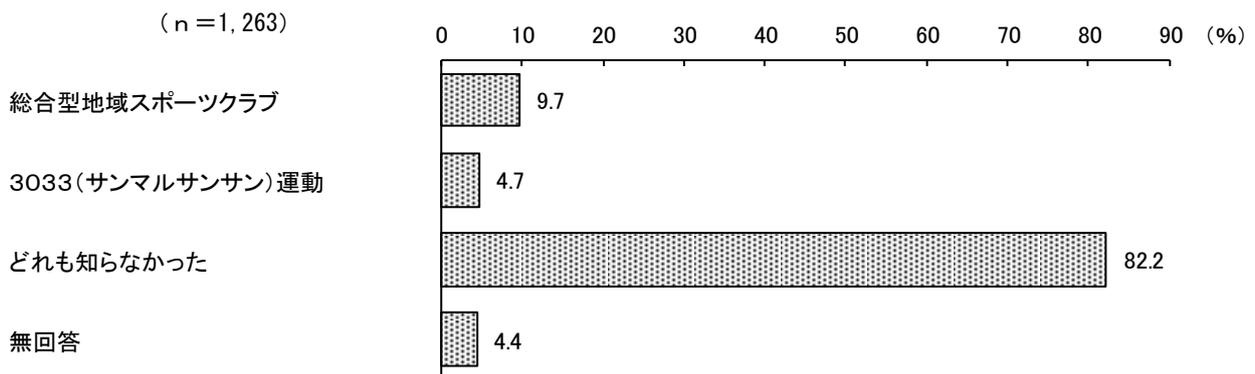
### 3 スポーツ推進に係る取組みの認知度【問20】

#### 【全体の状況】

スポーツ推進に係る取組みについて、知っているものを複数回答で尋ねたところ、「総合型地域スポーツクラブ」が9.7%、「3033（サンマルサンサン）運動」が4.7%であった。

一方、「どれも知らなかった」が82.2%であった。（図表5-3-1）

図表5-3-1 スポーツ推進に係る取組みの認知度（複数回答）



図表5-3-2 スポーツ推進に係る取組みの認知度（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)					
	n	総合型地域スポーツクラブ	3033（サンマルサンサン）運動	どれも知らなかった	無回答
全 体	1,263	9.7	4.7	82.2	4.4
【地 域 別】					
横 浜	472	10.6	4.2	82.8	3.2
川 崎	172	11.6	2.9	83.1	2.9
相 模 原	89	5.6	5.6	86.5	3.4
横 須 賀 三 浦	119	8.4	4.2	88.2	-
県 央	99	10.1	5.1	84.8	1.0
湘 南	190	8.9	6.3	78.9	7.4
県 西	41	12.2	4.9	78.0	7.3
【性・年代別】					
男 性	517	8.3	5.0	84.3	3.1
女 性	645	11.3	4.0	82.3	3.6
男性 18～29歳	27	11.1	-	88.9	-
30 歳 代	49	10.2	6.1	83.7	-
40 歳 代	92	9.8	5.4	81.5	3.3
50 歳 代	118	8.5	3.4	88.1	2.5
60 歳 代	116	6.0	6.0	86.2	2.6
70～74歳	55	1.8	5.5	90.9	1.8
75歳以上	60	13.3	6.7	70.0	10.0
女性 18～29歳	31	19.4	3.2	77.4	3.2
30 歳 代	76	2.6	-	93.4	3.9
40 歳 代	123	4.1	4.9	87.0	4.1
50 歳 代	173	15.6	2.9	81.5	1.7
60 歳 代	108	11.1	5.6	80.6	4.6
70～74歳	61	13.1	4.9	82.0	1.6
75歳以上	72	18.1	6.9	70.8	5.6

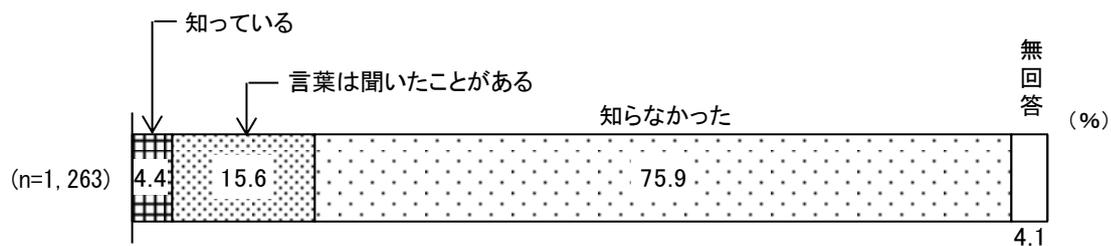
#### 4 「かながわパラスポーツ」の認知度【問21】

##### 【全体の状況】

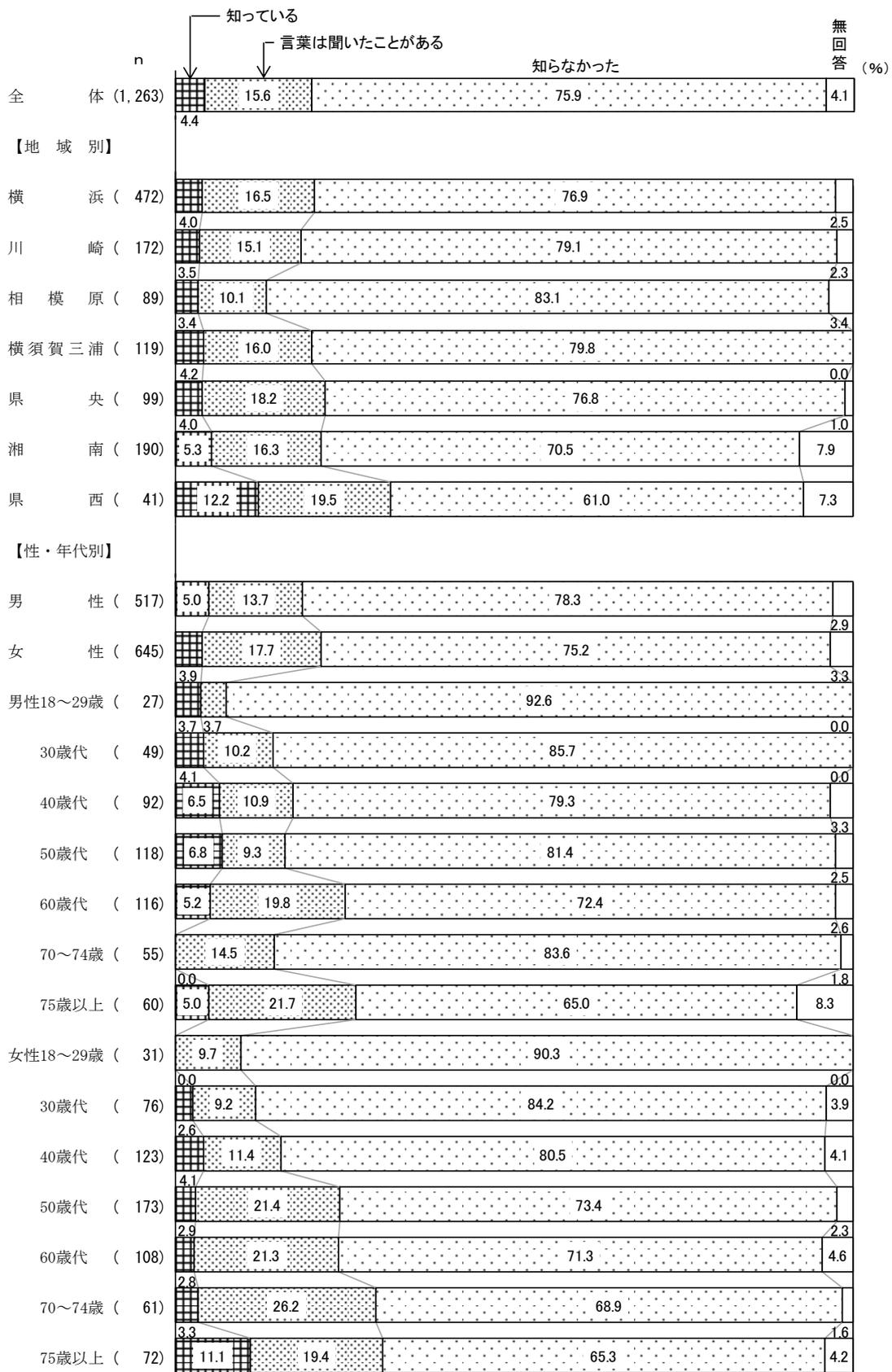
「かながわパラスポーツ」について知っているか尋ねたところ、「知っている」が4.4%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が15.6%であった。

一方、「知らなかった」が75.9%であった。(図表5-4-1)

図表5-4-1 「かながわパラスポーツ」の認知度



図表5-4-2 「かながわパラスポーツ」の認知度—地域別、性・年代別



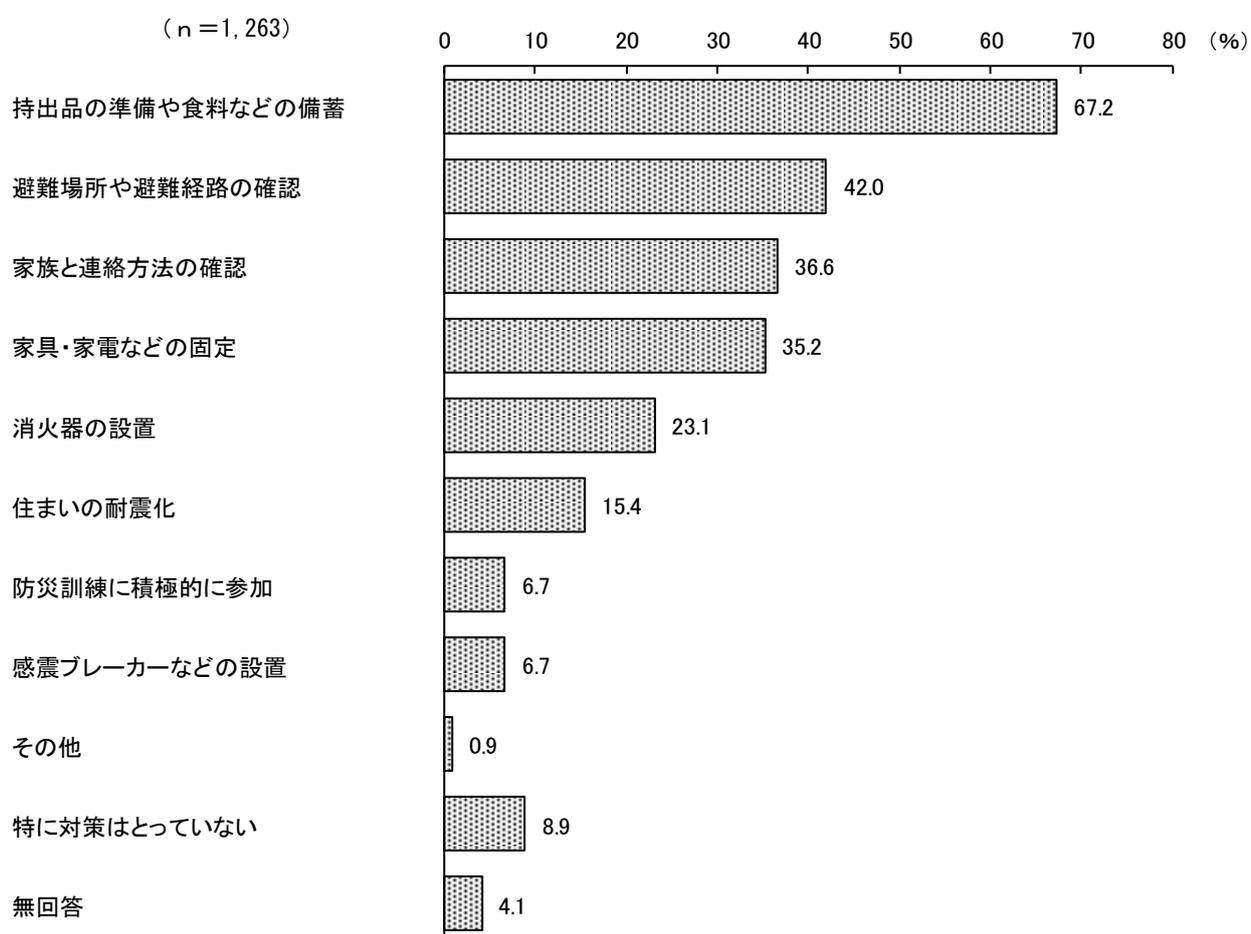
## 第6章 地震対策の取組み【問22～問25】

### 1 大きな地震に備えた対策【問22】

#### 【全体の状況】

県では、首都直下地震や南海トラフ地震、県西部地震の発生の切迫性が指摘されるなど、大規模地震に対する備えが重要な課題になっていることを説明した上で、家では、大きな地震に備えて、どのような対策をとっているか複数回答で尋ねたところ、「持出品の準備や食料などの備蓄」が67.2%で最も多く、次いで「避難場所や避難経路の確認」が42.0%であった。(図表6-1-1)

図表6-1-1 大きな地震に備えた対策（複数回答）



図表6-1-2 大きな地震に備えた対策（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

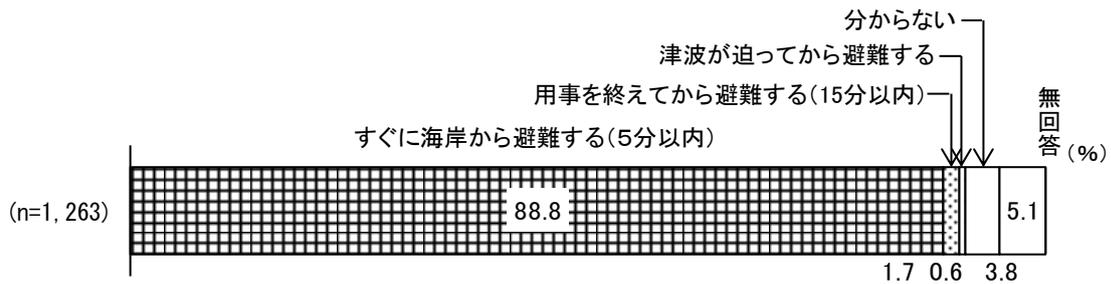
	n	持出品の準備や食料などの備蓄	避難場所や避難経路の確認	家族と連絡方法の確認	家具・家電などの固定	消火器の設置	住まいの耐震化	防災訓練に積極的に参加	感震ブレイカーなどの設置	その他	特に対策はとっていない	無回答
全 体	1,263	67.2	42.0	36.6	35.2	23.1	15.4	6.7	6.7	0.9	8.9	4.1
【地 域 別】												
横 浜	472	68.2	41.3	37.1	34.7	25.6	12.7	7.0	5.9	1.1	9.3	2.8
川 崎	172	66.3	41.3	33.1	38.4	19.2	14.0	4.7	5.2	1.2	9.9	1.7
相 模 原	89	60.7	39.3	34.8	28.1	19.1	15.7	10.1	3.4	1.1	11.2	4.5
横 須 賀 三 浦	119	77.3	36.1	41.2	34.5	29.4	10.9	6.7	9.2	0.8	6.7	-
県 央	99	62.6	48.5	33.3	40.4	24.2	19.2	6.1	8.1	-	10.1	2.0
湘 南	190	71.6	45.3	37.4	35.8	15.8	21.1	7.4	8.9	1.1	5.8	6.8
県 西	41	65.9	41.5	39.0	36.6	31.7	26.8	12.2	4.9	-	4.9	7.3
【性・年代別】												
男 性	517	62.9	39.1	33.7	36.8	23.6	17.6	7.2	7.5	0.8	10.6	2.7
女 性	645	72.6	44.5	39.7	34.9	22.9	13.6	6.8	5.7	1.1	6.7	3.6
男性18～29歳	27	59.3	37.0	29.6	33.3	14.8	14.8	-	3.7	-	11.1	-
30歳代	49	67.3	42.9	34.7	36.7	18.4	18.4	6.1	2.0	2.0	6.1	-
40歳代	92	58.7	41.3	35.9	29.3	14.1	16.3	4.3	4.3	-	15.2	3.3
50歳代	118	66.9	32.2	34.7	37.3	22.0	17.8	7.6	7.6	0.8	9.3	2.5
60歳代	116	61.2	32.8	35.3	35.3	32.8	20.7	7.8	7.8	-	11.2	1.7
70～74歳	55	60.0	47.3	23.6	34.5	21.8	20.0	9.1	5.5	-	9.1	1.8
75歳以上	60	65.0	51.7	35.0	53.3	33.3	11.7	11.7	20.0	3.3	10.0	8.3
女性18～29歳	31	71.0	22.6	35.5	22.6	3.2	3.2	-	-	-	22.6	-
30歳代	76	68.4	40.8	40.8	25.0	9.2	14.5	1.3	2.6	-	7.9	3.9
40歳代	123	78.0	43.1	41.5	26.0	12.2	14.6	7.3	4.9	0.8	6.5	4.9
50歳代	173	76.9	50.9	39.3	41.0	21.4	12.7	1.7	6.4	0.6	5.2	1.7
60歳代	108	70.4	44.4	39.8	35.2	30.6	13.9	10.2	4.6	3.7	6.5	4.6
70～74歳	61	77.0	50.8	41.0	37.7	39.3	14.8	9.8	13.1	1.6	-	3.3
75歳以上	72	58.3	40.3	37.5	47.2	43.1	16.7	19.4	6.9	-	8.3	5.6

## 2 海岸で地震による強い揺れを感じたときの行動【問23】

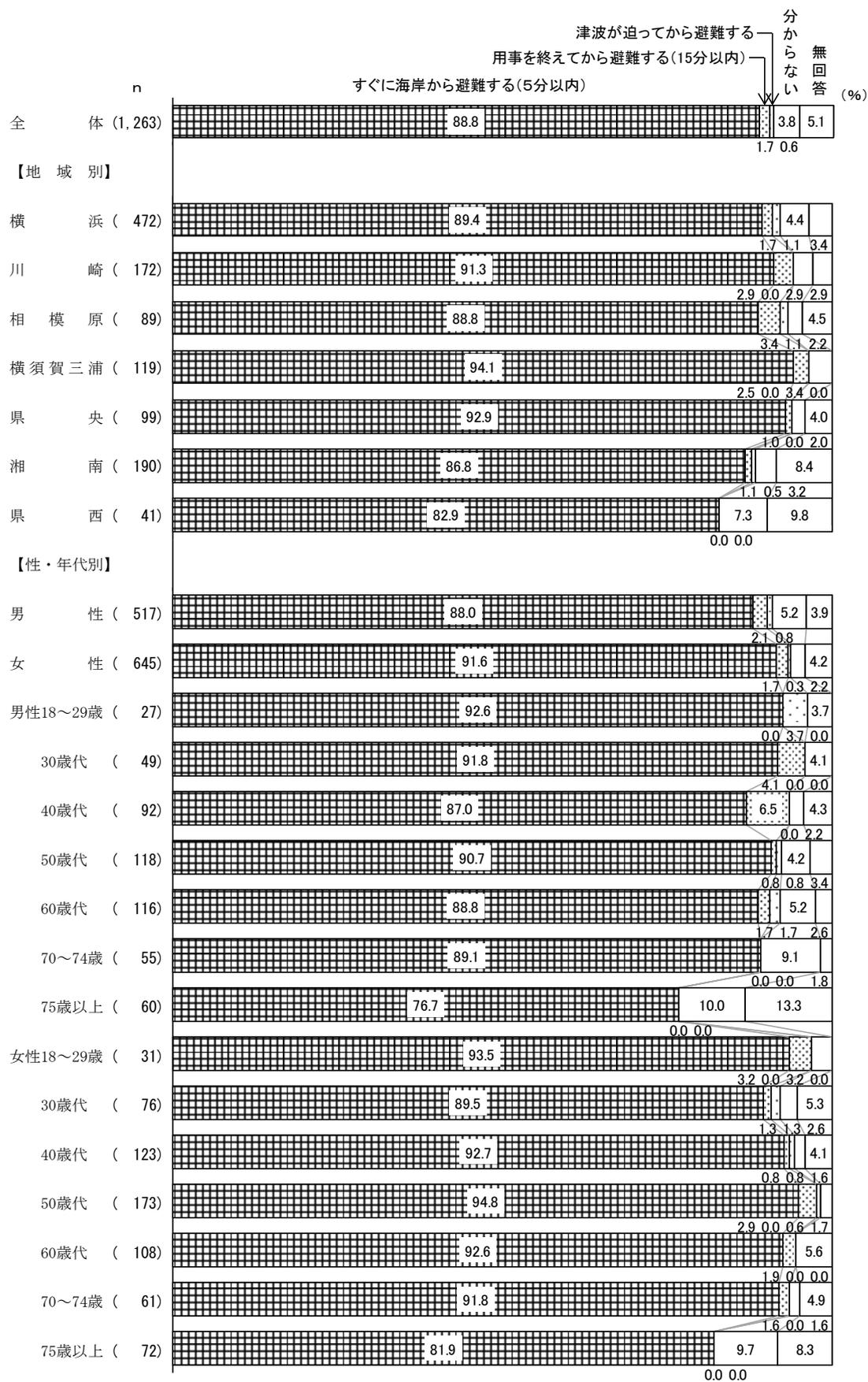
### 【全体の状況】

海岸や海岸近くで、地震による強い揺れや長い時間の揺れを感じたら、どのように行動するか尋ねたところ、「すぐに海岸から避難する（5分以内）」が88.8%で最も多く、次いで「用事を終えてから避難する（15分以内）」が1.7%であった。（図表6-2-1）

図表6-2-1 海岸で地震による強い揺れを感じたときの行動



図表6-2-2 海岸で地震による強い揺れを感じたときの行動—地域別、性・年代別



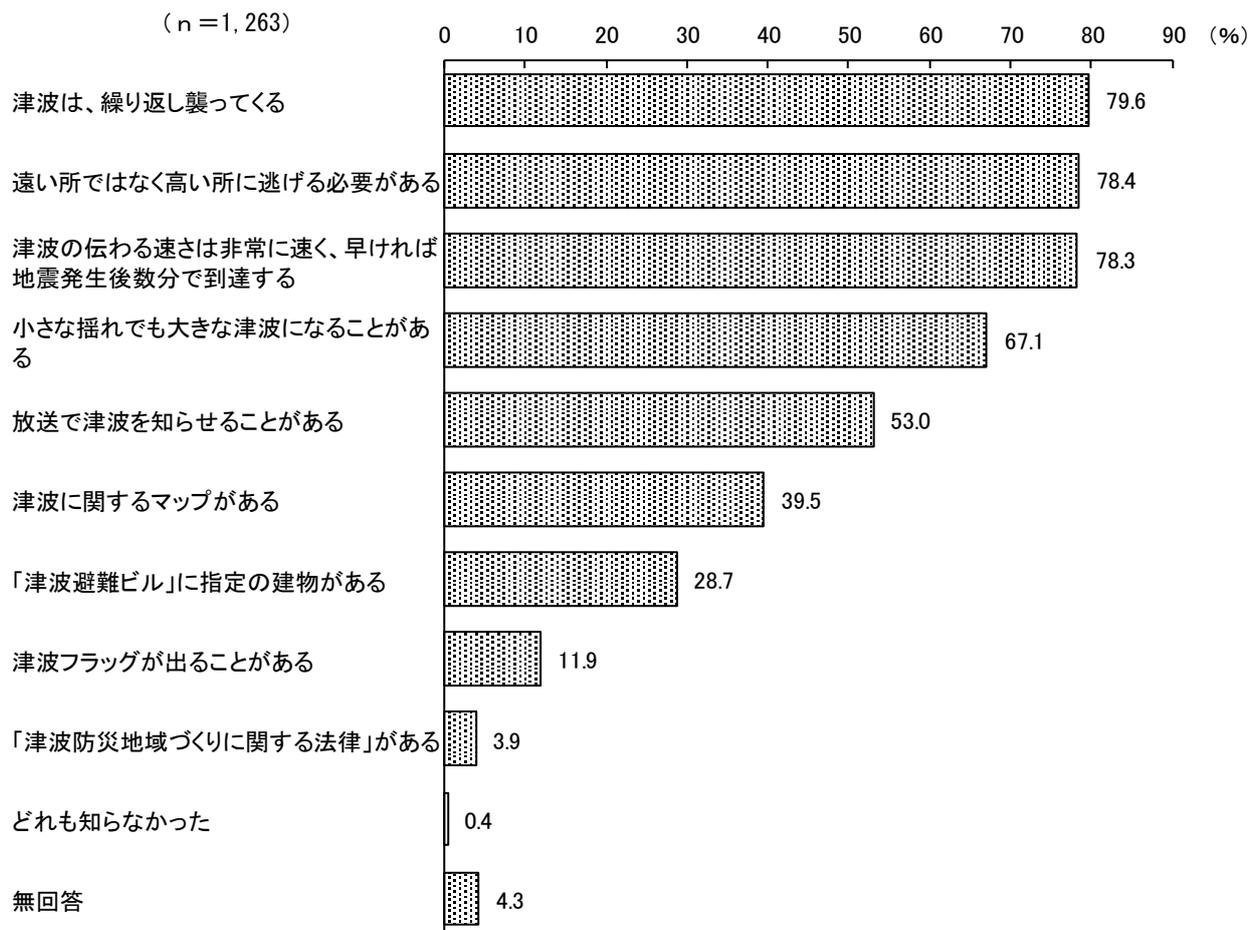
### 3 津波に対する知識や理解【問24】

#### 【全体の状況】

津波に対する知識や理解について複数回答で尋ねたところ、「津波は、繰り返し襲ってくる」が79.6%で最も多く、次いで「遠い所ではなく高い所に逃げる必要がある」が78.4%であった。

(図表6-3-1)

図表6-3-1 津波に対する知識や理解（複数回答）



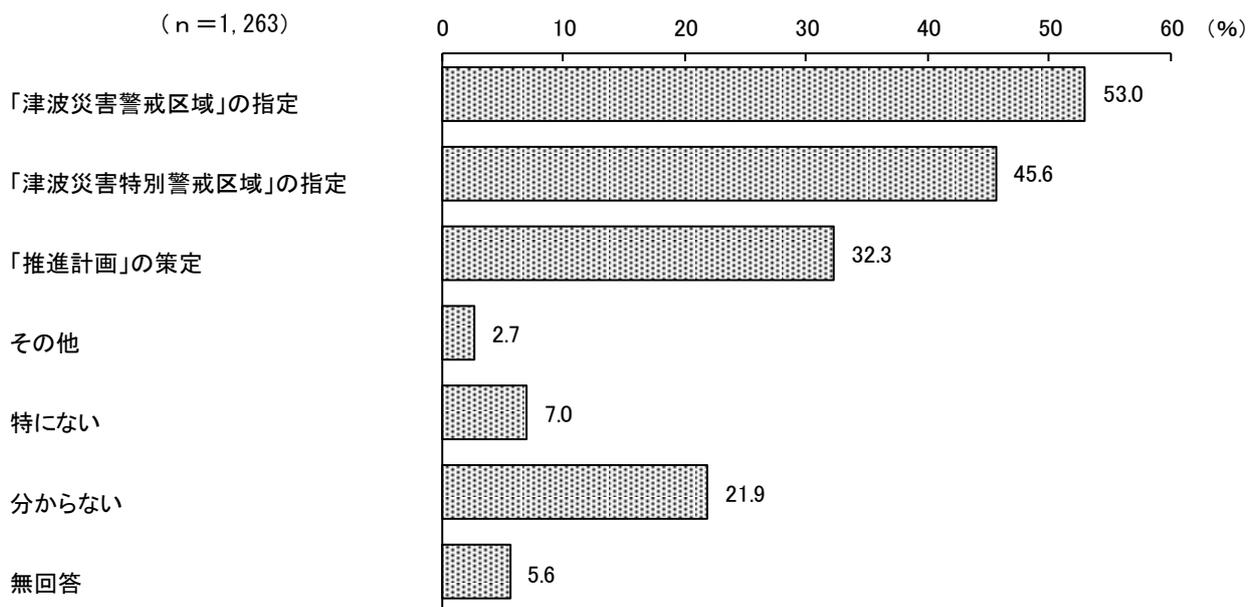


#### 4 津波に対して実施が望まれる制度【問25】

##### 【全体の状況】

津波に対する防災・減災の観点から実施が望まれる制度を複数回答で尋ねたところ、『津波災害警戒区域』の指定が53.0%で最も多く、次いで『津波災害特別警戒区域』の指定が45.6%であった。(図表6-4-1)

図表6-4-1 津波に対して実施が望まれる制度（複数回答）



図表6-4-2 津波に対して実施が望まれる制度（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	「津波災害警戒区域」の指定	「津波災害特別警戒区域」の指定	「推進計画」の策定	その他	特にない	分からない	無回答
全体	1,263	53.0	45.6	32.3	2.7	7.0	21.9	5.6
【地域別】								
横浜	472	50.2	44.3	33.1	3.0	6.4	25.2	4.4
川崎	172	57.0	46.5	35.5	7.0	4.7	20.3	4.1
相模原	89	49.4	48.3	29.2	1.1	16.9	21.3	4.5
横須賀三浦	119	61.3	58.0	33.6	0.8	8.4	17.6	-
県央	99	59.6	50.5	33.3	1.0	6.1	20.2	1.0
湘南	190	56.8	42.6	33.7	2.1	3.2	19.5	8.4
県西	41	46.3	39.0	17.1	-	12.2	26.8	9.8
【性・年代別】								
男性	517	53.8	45.8	30.4	2.9	8.1	20.7	4.3
女性	645	55.2	47.4	35.0	2.6	5.9	22.6	4.5
男性18～29歳	27	44.4	33.3	25.9	3.7	7.4	40.7	-
30歳代	49	67.3	42.9	36.7	4.1	2.0	22.4	-
40歳代	92	45.7	47.8	25.0	2.2	9.8	26.1	4.3
50歳代	118	61.0	46.6	30.5	5.1	5.9	19.5	3.4
60歳代	116	50.9	44.0	32.8	1.7	9.5	20.7	2.6
70～74歳	55	50.9	54.5	29.1	-	10.9	12.7	7.3
75歳以上	60	53.3	45.0	31.7	3.3	10.0	11.7	11.7
女性18～29歳	31	48.4	48.4	29.0	3.2	3.2	29.0	-
30歳代	76	50.0	48.7	28.9	1.3	6.6	28.9	3.9
40歳代	123	55.3	49.6	37.4	4.9	3.3	25.2	4.9
50歳代	173	57.8	51.4	36.4	2.9	3.5	23.1	2.3
60歳代	108	65.7	52.8	38.9	3.7	3.7	14.8	7.4
70～74歳	61	60.7	45.9	41.0	-	11.5	9.8	4.9
75歳以上	72	37.5	26.4	26.4	-	13.9	30.6	6.9

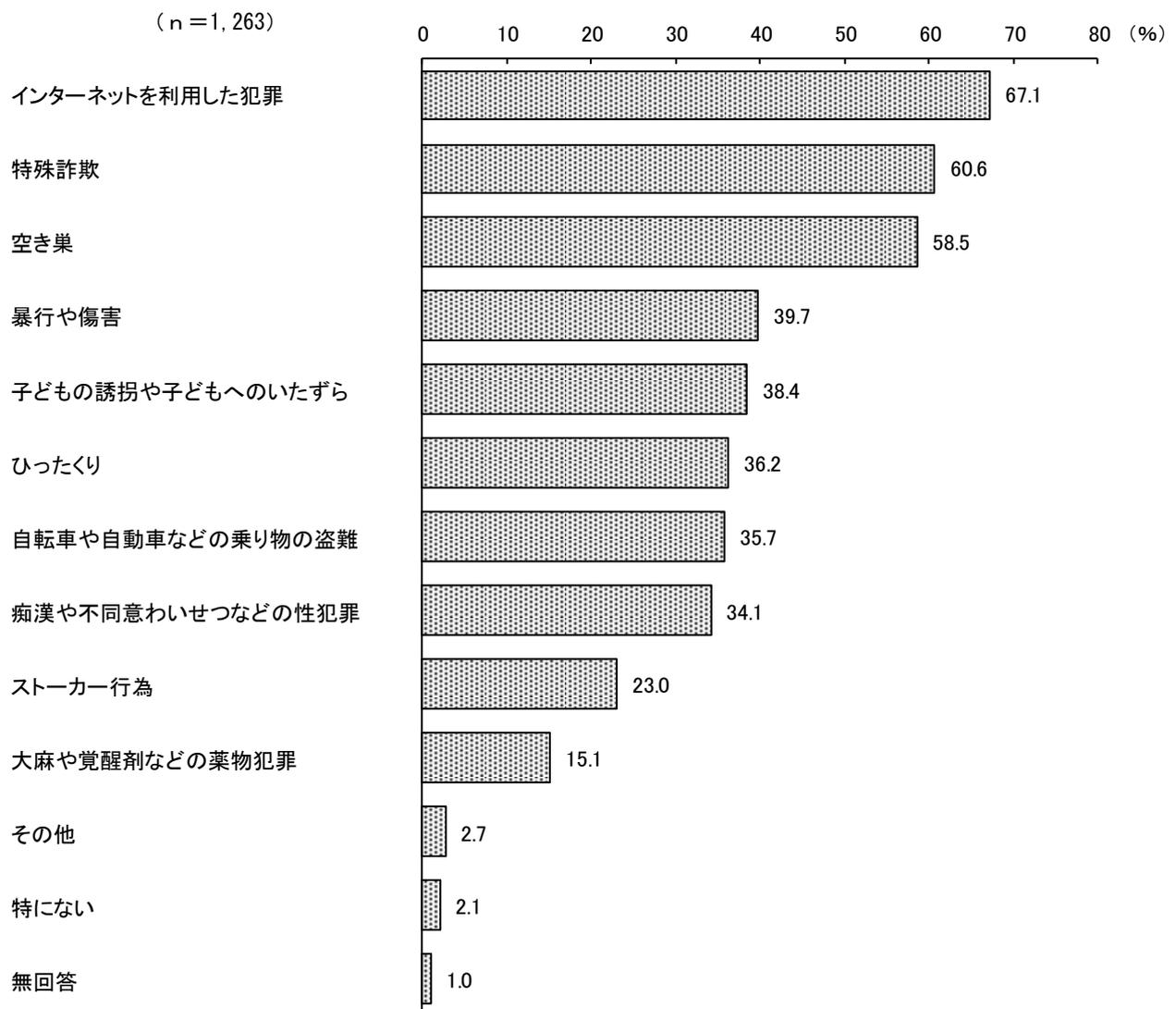
## 第7章 治安対策【問26～問28】

### 1 不安を感じる犯罪【問26】

#### 【全体の状況】

不安を感じる身近な犯罪を複数回答で尋ねたところ、「インターネットを利用した犯罪」が67.1%で最も多く、次いで「特殊詐欺」が60.6%であった。(図表7-1-1)

図表7-1-1 不安を感じる犯罪（複数回答）



図表7-1-2 不安に感じる犯罪（複数回答）—地域別、性・年代別

(%)

	n	インターネットを利用した犯罪	特殊詐欺	空き巣	暴行や傷害	子どもの誘拐や子どもへのいたずら	ひったくり	難自転車や自動車などの乗り物の盗	痴漢や不同意わいせつなどの性犯罪	ストーカー行為	大麻や覚醒剤などの薬物犯罪	その他	特にない	無回答
全体	1,263	67.1	60.6	58.5	39.7	38.4	36.2	35.7	34.1	23.0	15.1	2.7	2.1	1.0
【地域別】														
横浜	472	69.5	60.6	59.3	41.3	37.5	39.8	32.2	36.4	24.2	16.5	4.2	2.5	0.8
川崎	172	64.5	55.2	56.4	43.0	40.7	37.2	37.2	32.0	23.3	12.8	3.5	0.6	-
相模原	89	65.2	62.9	65.2	40.4	46.1	38.2	43.8	37.1	30.3	15.7	-	-	2.2
横須賀三浦	119	71.4	65.5	64.7	37.8	38.7	28.6	37.8	37.0	31.1	14.3	1.7	2.5	0.8
県央	99	61.6	62.6	51.5	36.4	41.4	38.4	34.3	28.3	20.2	9.1	2.0	6.1	-
湘南	190	66.3	60.5	58.4	35.8	36.8	31.6	40.5	31.6	15.3	15.8	0.5	2.1	-
県西	41	75.6	63.4	53.7	36.6	26.8	29.3	41.5	29.3	17.1	14.6	2.4	2.4	2.4
【性・年代別】														
男性	517	66.2	60.9	58.0	43.1	32.7	30.4	41.6	26.5	19.3	16.2	2.3	3.3	0.4
女性	645	68.8	60.8	59.8	36.9	43.7	41.2	32.1	40.3	26.4	13.6	2.9	1.2	0.6
男性18～29歳	27	74.1	33.3	63.0	63.0	33.3	18.5	33.3	44.4	44.4	11.1	7.4	3.7	-
30歳代	49	63.3	30.6	46.9	38.8	51.0	22.4	42.9	28.6	14.3	20.4	6.1	4.1	-
40歳代	92	65.2	65.2	58.7	48.9	56.5	31.5	53.3	35.9	26.1	15.2	1.1	-	-
50歳代	118	72.9	67.8	59.3	47.5	30.5	39.0	45.8	28.8	20.3	22.0	2.5	1.7	-
60歳代	116	71.6	66.4	61.2	43.1	20.7	25.9	44.8	21.6	15.5	16.4	0.9	3.4	0.9
70～74歳	55	58.2	69.1	56.4	38.2	18.2	32.7	29.1	21.8	14.5	10.9	-	3.6	1.8
75歳以上	60	50.0	60.0	56.7	25.0	21.7	30.0	23.3	11.7	11.7	10.0	3.3	10.0	-
女性18～29歳	31	64.5	41.9	35.5	48.4	38.7	32.3	16.1	54.8	64.5	19.4	-	3.2	-
30歳代	76	68.4	40.8	50.0	35.5	69.7	32.9	35.5	56.6	28.9	11.8	1.3	2.6	-
40歳代	123	74.0	47.2	62.6	45.5	61.8	35.8	39.8	53.7	30.1	18.7	4.9	-	-
50歳代	173	78.6	67.6	67.1	41.6	37.6	45.1	32.4	41.6	31.2	11.6	4.0	1.2	0.6
60歳代	108	74.1	73.1	63.9	25.0	34.3	45.4	31.5	25.9	13.9	14.8	1.9	0.9	-
70～74歳	61	55.7	65.6	55.7	29.5	29.5	41.0	32.8	26.2	14.8	9.8	4.9	1.6	1.6
75歳以上	72	41.7	73.6	55.6	31.9	29.2	47.2	22.2	25.0	18.1	11.1	-	1.4	2.8

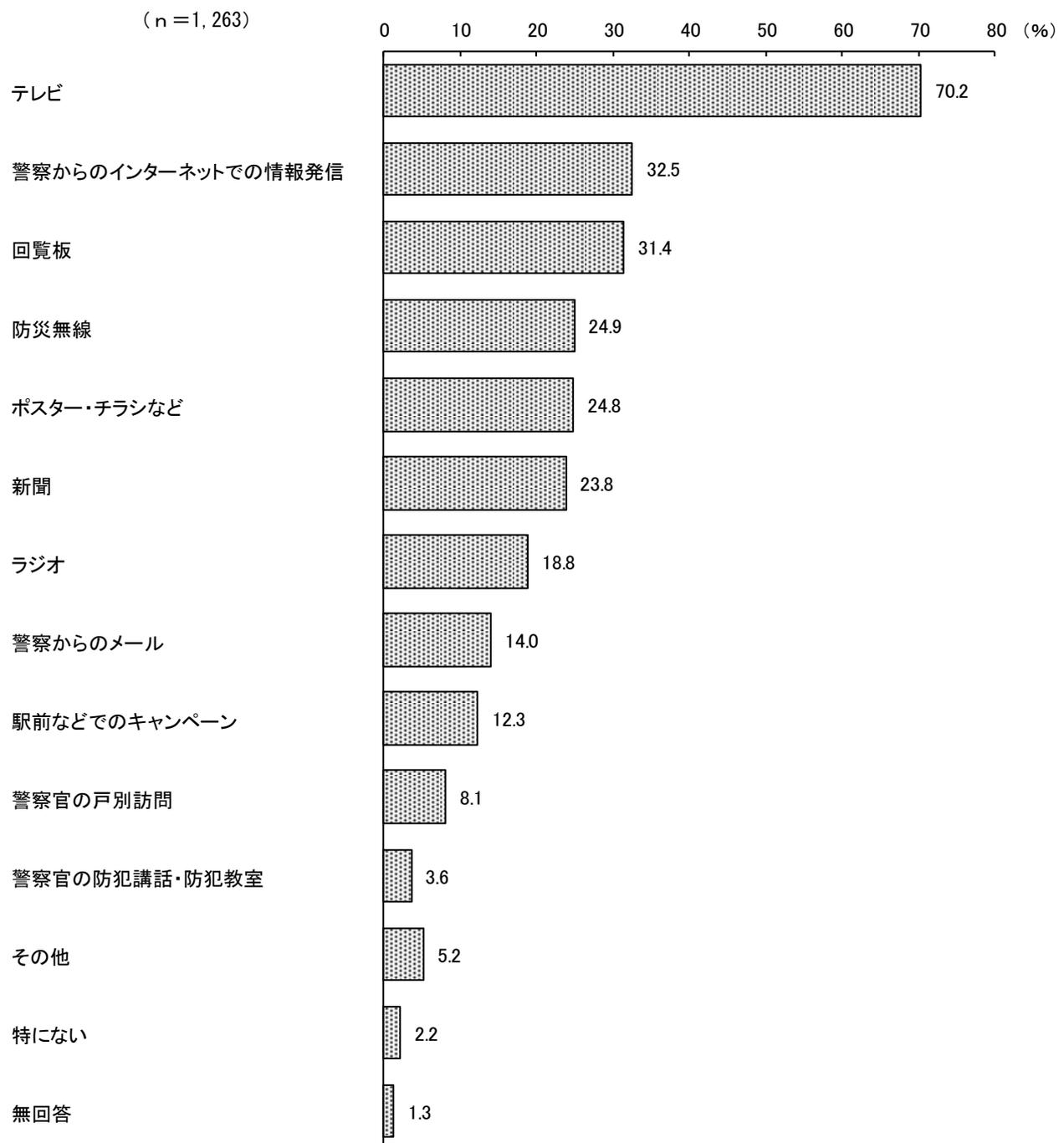
## 2 地域犯罪発生情報や防犯に役立つ情報を得やすい方法【問27】

### 【全体の状況】

地域の犯罪発生情報や防犯に役立つ情報について、得やすい方法を複数回答で尋ねたところ、「テレビ」が70.2%で最も多く、次いで「警察からのインターネットでの情報発信」が32.5%であった。

(図表7-2-1)

図表7-2-1 地域犯罪発生情報や防犯に役立つ情報を得やすい方法（複数回答）



図表7-2-2 地域犯罪発生情報や防犯に役立つ情報を得やすい方法（複数回答）—地域別、性・年代別

(96)

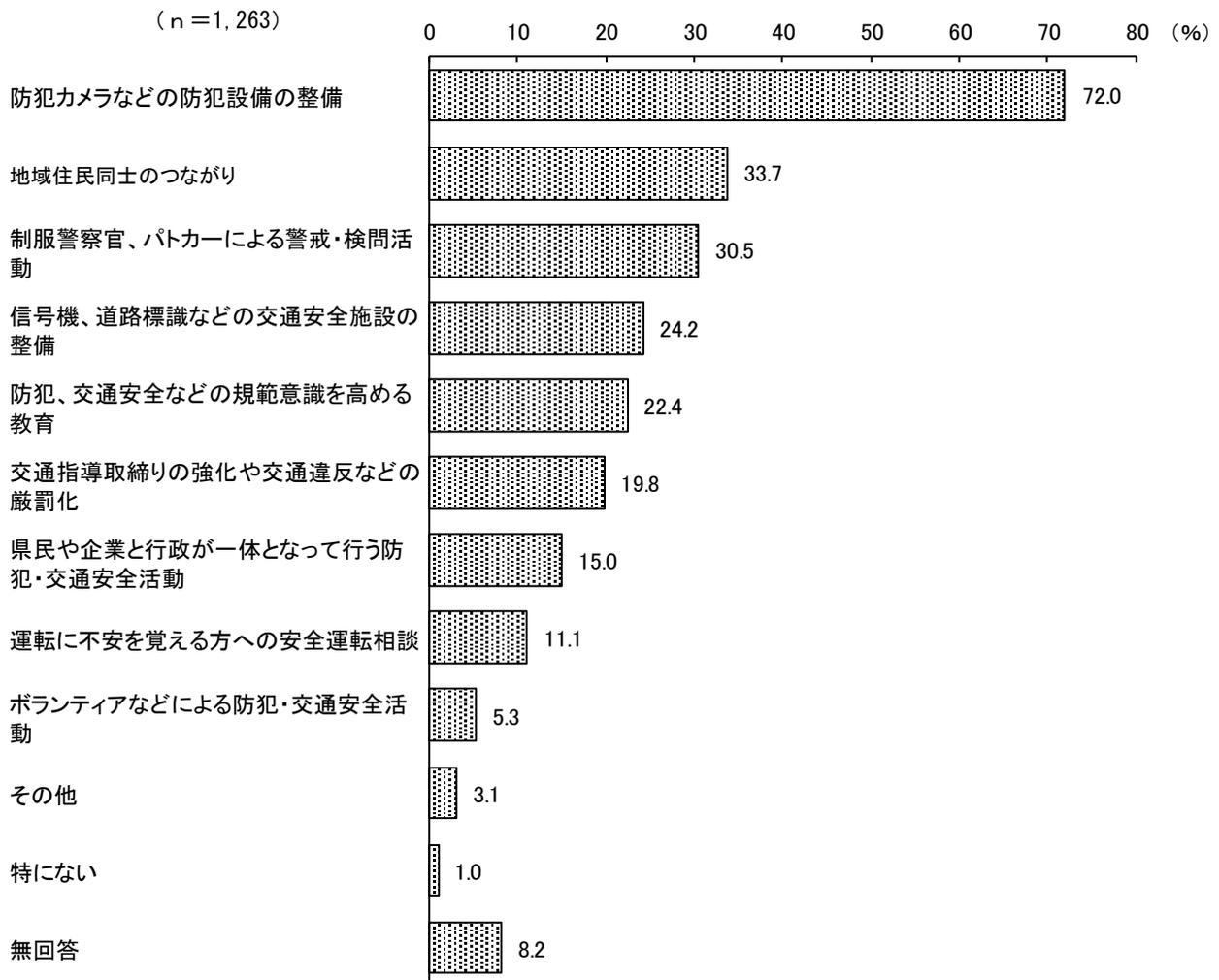
	n	テレビ	警察からのインターネットでの情報発信	回覧板	防災無線	ポスター・チラシなど	新聞	ラジオ	警察からのメール	駅前などでのキャンペーン	警察官の戸別訪問	警察官の防犯講話・防犯教室	その他	特にない	無回答	
全体	1,263	70.2	32.5	31.4	24.9	24.8	23.8	18.8	14.0	12.3	8.1	3.6	5.2	2.2	1.3	
【地域別】																
横浜	472	66.7	36.9	30.5	7.4	28.8	21.6	15.7	12.3	13.8	9.3	4.0	5.9	2.8	1.5	
川崎	172	70.3	36.6	22.7	19.2	28.5	21.5	14.5	16.9	12.2	4.1	3.5	8.7	2.3	-	
相模原	89	77.5	24.7	33.7	43.8	27.0	31.5	22.5	18.0	12.4	7.9	4.5	-	1.1	2.2	
横須賀三浦	119	68.9	34.5	37.8	37.8	17.6	24.4	20.2	10.9	10.9	8.4	5.0	6.7	1.7	0.8	
県央	99	71.7	26.3	31.3	43.4	21.2	22.2	24.2	21.2	13.1	8.1	2.0	4.0	2.0	-	
湘南	190	69.5	30.0	32.1	40.0	18.9	25.8	23.7	11.6	10.5	6.8	3.2	2.1	1.6	-	
県西	41	80.5	29.3	39.0	56.1	12.2	19.5	17.1	22.0	4.9	9.8	2.4	4.9	4.9	2.4	
【性・年代別】																
男性	517	68.1	34.8	28.6	25.9	23.8	23.6	22.8	13.2	12.4	8.5	3.7	4.4	2.7	0.8	
女性	645	71.0	32.9	33.2	24.5	25.1	23.1	15.0	15.5	11.9	7.1	3.7	5.7	2.0	0.8	
男性18～29歳	27	44.4	55.6	3.7	22.2	18.5	3.7	3.7	11.1	25.9	3.7	7.4	14.8	3.7	-	
30歳代	49	55.1	53.1	16.3	16.3	22.4	10.2	14.3	18.4	10.2	2.0	2.0	8.2	8.2	-	
40歳代	92	51.1	47.8	26.1	14.1	27.2	12.0	18.5	19.6	26.1	5.4	2.2	6.5	3.3	-	
50歳代	118	62.7	39.8	23.7	26.3	22.9	19.5	24.6	16.1	10.2	10.2	5.1	3.4	2.5	-	
60歳代	116	79.3	32.8	35.3	30.2	24.1	26.7	26.7	9.5	7.8	8.6	3.4	1.7	2.6	1.7	
70～74歳	55	85.5	10.9	49.1	32.7	29.1	40.0	23.6	9.1	7.3	14.5	-	-	-	1.8	
75歳以上	60	88.3	6.7	31.7	38.3	18.3	48.3	33.3	5.0	5.0	11.7	6.7	5.0	-	1.7	
女性18～29歳	31	48.4	64.5	9.7	6.5	19.4	-	-	12.9	9.7	-	3.2	16.1	3.2	-	
30歳代	76	67.1	27.6	23.7	18.4	30.3	9.2	7.9	15.8	21.1	5.3	3.9	5.3	5.3	1.3	
40歳代	123	65.0	37.4	30.9	20.3	25.2	10.6	13.0	23.6	12.2	7.3	5.7	12.2	1.6	-	
50歳代	173	68.2	42.2	24.9	27.7	25.4	18.5	13.3	22.0	15.6	5.8	3.5	3.5	2.3	0.6	
60歳代	108	70.4	30.6	38.9	28.7	23.1	27.8	20.4	5.6	11.1	4.6	2.8	4.6	1.9	-	
70～74歳	61	91.8	18.0	52.5	26.2	23.0	44.3	16.4	11.5	1.6	8.2	3.3	1.6	-	1.6	
75歳以上	72	84.7	11.1	52.8	30.6	26.4	55.6	27.8	5.6	4.2	16.7	2.8	1.4	-	2.8	

### 3 犯罪や交通事故がなく安心してくらすために重要だと思うもの【問28】

#### 【全体の状況】

犯罪や交通事故がなく、より安心してくらすために重要だと思うものを複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「防犯カメラなどの防犯設備の整備」が72.0%で最も多く、次いで「地域住民同士のつながり」が33.7%であった。（図表7-3-1）

図表7-3-1 犯罪や交通事故がなく安心してくらすために重要だと思うもの（複数回答）



図表7-3-2 犯罪や交通事故がなく安心してくらすために重要だと思うもの（複数回答）

—地域別、性・年代別

(%)

	n	防犯カメラなどの防犯設備の整備	地域住民同士のつながり	制服警察官、パトカーによる警戒・検問活動	信号機、道路標識などの交通安全施設の整備	防犯、交通安全などの規範意識を高める教育	交通指導取締りの強化や交通違反などの厳罰化	県民や企業と行政が一体となって行う防犯・交通安全活動	運転に不安を覚える方への安全運転相談	ボランティアなどによる防犯・交通安全活動	その他	特になし	無回答
全体	1,263	72.0	33.7	30.5	24.2	22.4	19.8	15.0	11.1	5.3	3.1	1.0	8.2
【地域別】													
横浜	472	71.2	30.3	33.5	21.8	25.4	21.2	13.6	12.3	5.3	3.0	1.5	7.2
川崎	172	71.5	30.2	27.3	26.2	28.5	25.0	16.9	11.0	6.4	1.7	1.7	7.0
相模原	89	73.0	41.6	27.0	24.7	20.2	21.3	18.0	12.4	6.7	3.4	-	7.9
横須賀三浦	119	70.6	31.1	32.8	28.6	14.3	14.3	14.3	9.2	4.2	5.9	0.8	10.9
県央	99	73.7	40.4	28.3	26.3	17.2	18.2	15.2	10.1	6.1	4.0	-	5.1
湘南	190	75.3	36.8	32.1	24.2	25.8	16.8	14.2	11.6	4.2	2.1	-	7.9
県西	41	68.3	39.0	17.1	31.7	17.1	14.6	22.0	4.9	9.8	2.4	-	7.3
【性・年代別】													
男性	517	72.9	34.0	31.9	27.5	20.5	20.5	17.2	7.4	6.6	3.3	1.4	5.6
女性	645	71.2	33.2	29.8	22.2	25.7	19.2	13.6	14.7	4.8	2.9	0.6	8.8
男性18～29歳	27	74.1	37.0	37.0	29.6	40.7	18.5	11.1	7.4	7.4	7.4	-	-
30歳代	49	73.5	26.5	22.4	28.6	22.4	36.7	24.5	8.2	2.0	4.1	-	2.0
40歳代	92	70.7	29.3	39.1	20.7	23.9	23.9	19.6	5.4	10.9	3.3	2.2	3.3
50歳代	118	72.0	33.1	39.0	28.0	22.0	16.9	16.1	11.0	7.6	5.1	-	4.2
60歳代	116	78.4	37.1	27.6	30.2	21.6	14.7	14.7	9.5	4.3	2.6	2.6	5.2
70～74歳	55	74.5	36.4	27.3	29.1	7.3	23.6	18.2	5.5	1.8	1.8	1.8	9.1
75歳以上	60	65.0	40.0	25.0	28.3	11.7	18.3	16.7	-	10.0	-	1.7	15.0
女性18～29歳	31	67.7	19.4	29.0	29.0	22.6	19.4	25.8	16.1	12.9	-	-	3.2
30歳代	76	71.1	26.3	35.5	15.8	31.6	21.1	18.4	17.1	7.9	1.3	1.3	6.6
40歳代	123	66.7	24.4	37.4	24.4	27.6	18.7	15.4	17.1	5.7	6.5	1.6	8.9
50歳代	173	74.6	32.4	32.4	22.0	27.2	19.1	15.6	15.6	2.9	3.5	-	6.9
60歳代	108	70.4	33.3	19.4	23.1	27.8	18.5	11.1	15.7	3.7	2.8	-	12.0
70～74歳	61	72.1	54.1	24.6	18.0	19.7	21.3	3.3	9.8	1.6	-	1.6	13.1
75歳以上	72	72.2	45.8	23.6	25.0	16.7	18.1	8.3	8.3	5.6	1.4	-	9.7

## 第8章 地域社会との関わり【問29】

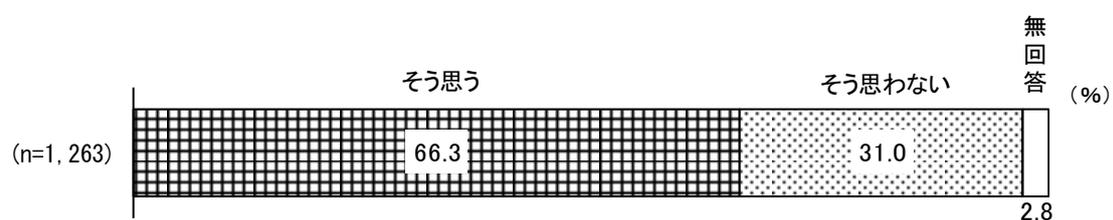
### 1 地域社会との関わりを大切にする意識【問29】

#### 【全体の状況】

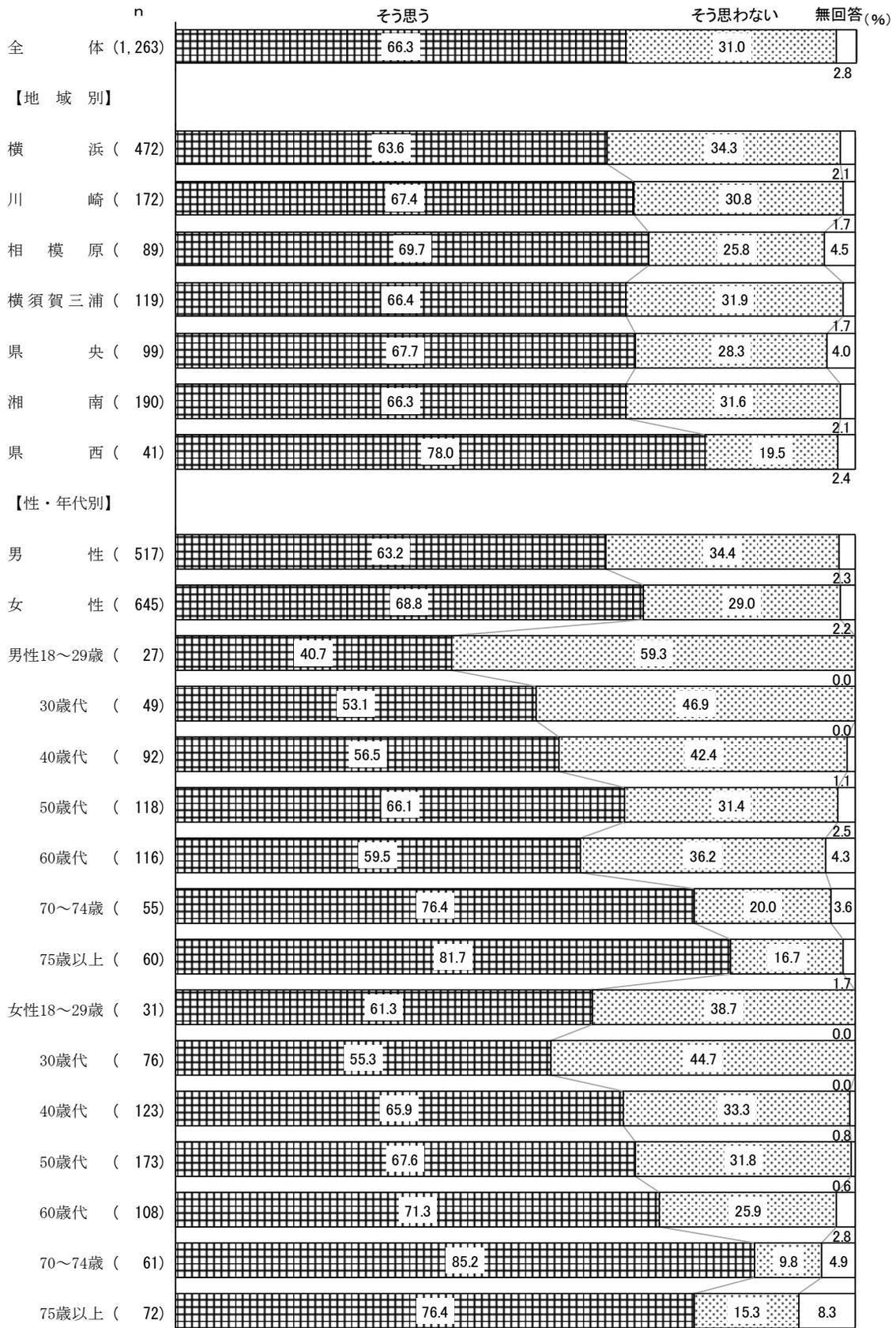
長い人生を充実させるため、コミュニティなど、地域社会との関わりを大切にしているか尋ねたところ、「そう思う」が66.3%であった。

一方、「そう思わない」が31.0%であった。(図表8-1-1)

図表8-1-1 地域社会との関わりを大切にする意識



図表8-1-2 地域社会との関わりを大切にする意識－地域別、性・年代別



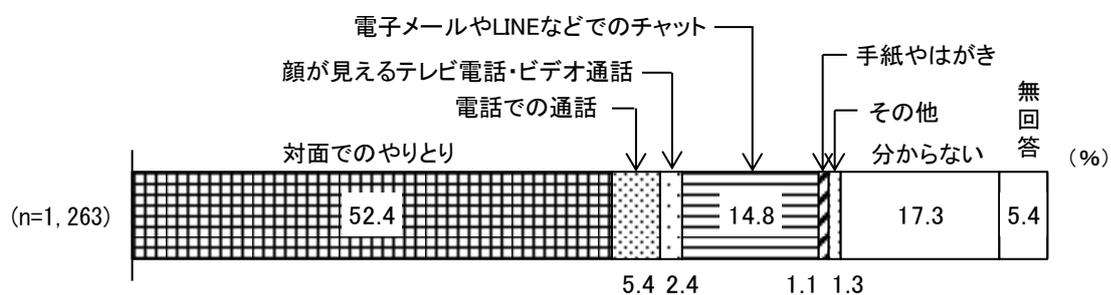
## 第9章 地域コミュニティ【問30～問30-1-2】

### 1 地域コミュニティにおけるコミュニケーション【問30】

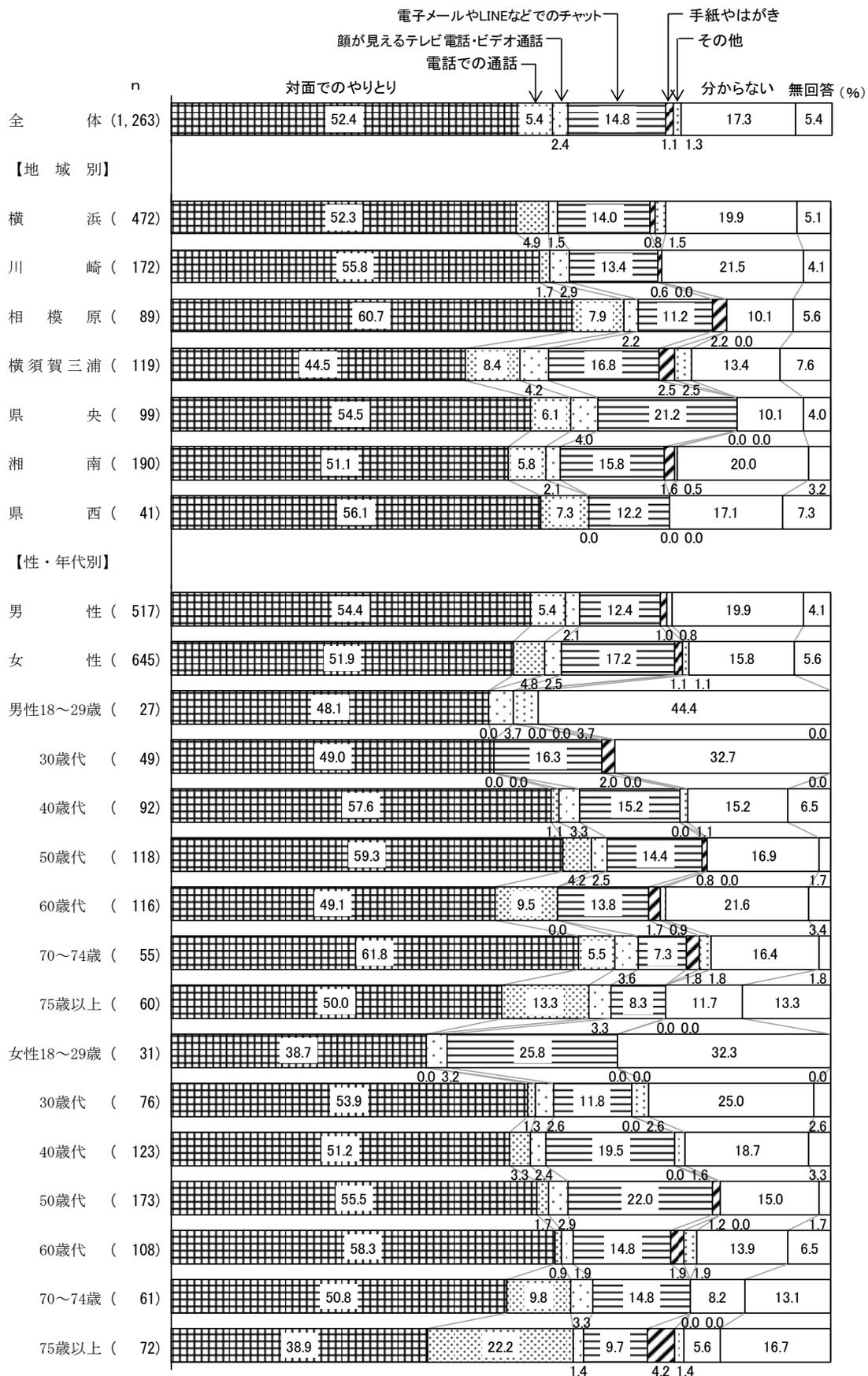
#### 【全体の状況】

新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行した現在の、地域住民とのコミュニティにおける主なコミュニケーション手段を尋ねたところ、「対面でのやりとり」が52.4%で最も多く、次いで「電子メールやLINEなどでのチャット」が14.8%であった。（図表9-1-1）

図表9-1-1 地域コミュニティにおけるコミュニケーション



図表9-1-2 地域コミュニティにおけるコミュニケーション—地域別、性・年代別



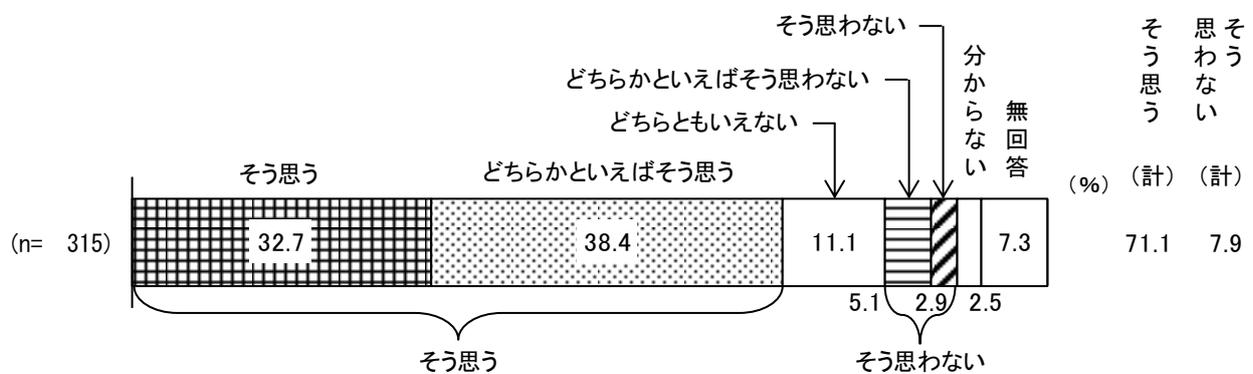
## 2 地域コミュニティにおけるコミュニケーションの取りやすさ【問30-1】

### 【全体の状況】

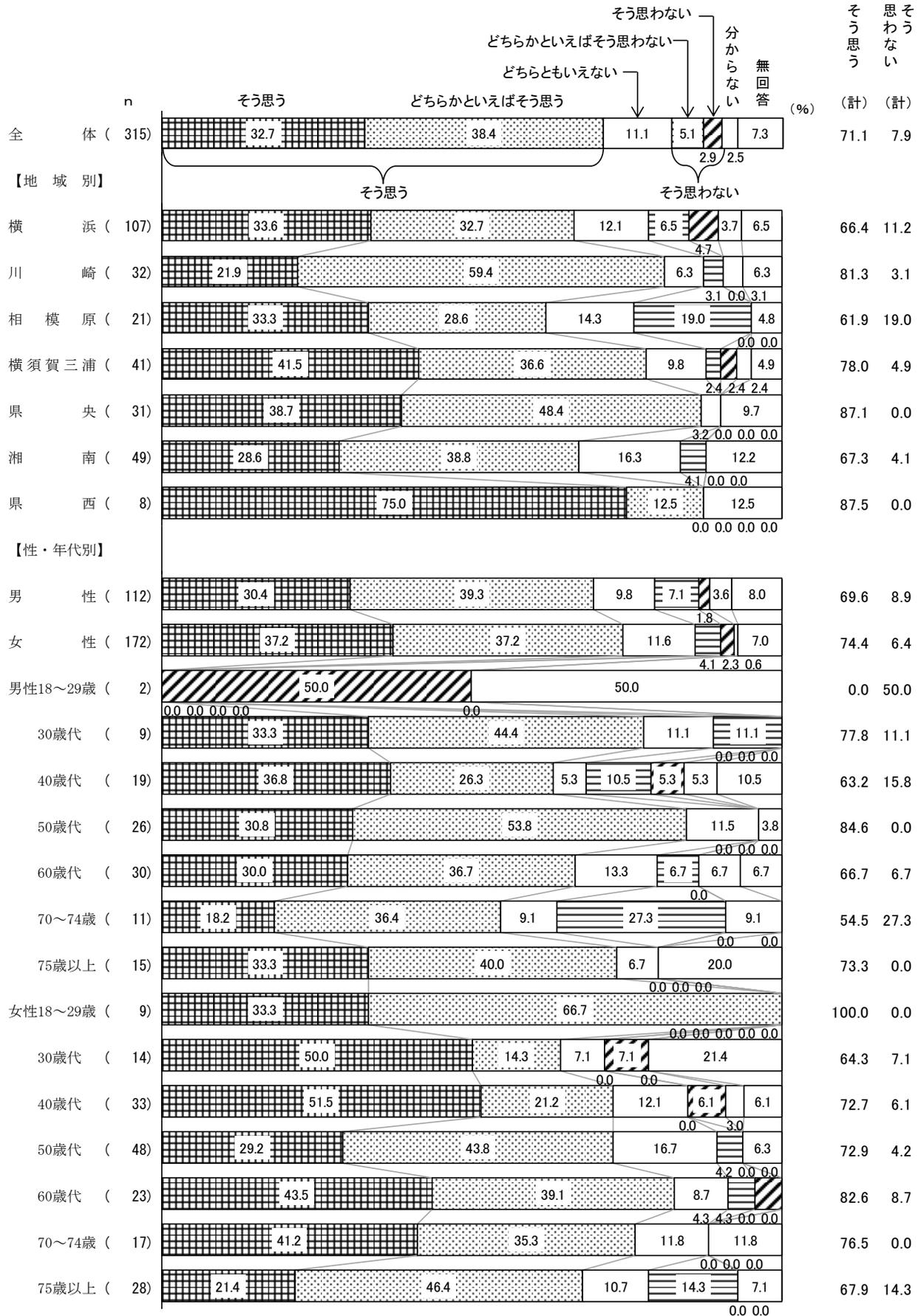
地域コミュニティにおけるコミュニケーション（問30）で、「電話での通話」、「顔が見えるテレビ電話・ビデオ通話」、「電子メールやLINEなどでのチャット」、「手紙やはがき」、「その他」のいずれかを回答した315人に、これらのコミュニケーションは取りやすいと思うか尋ねたところ、「そう思う」（32.7%）と「どちらかといえばそう思う」（38.4%）を合わせた《そう思う》は71.1%であった。

一方、「そう思わない」（2.9%）と「どちらかといえばそう思わない」（5.1%）を合わせた《そう思わない》は7.9%であった。（図表9-2-1）

図表9-2-1 地域コミュニティにおけるコミュニケーションの取りやすさ



図表9-2-2 地域コミュニティにおけるコミュニケーションの取りやすさー地域別、性・年代別



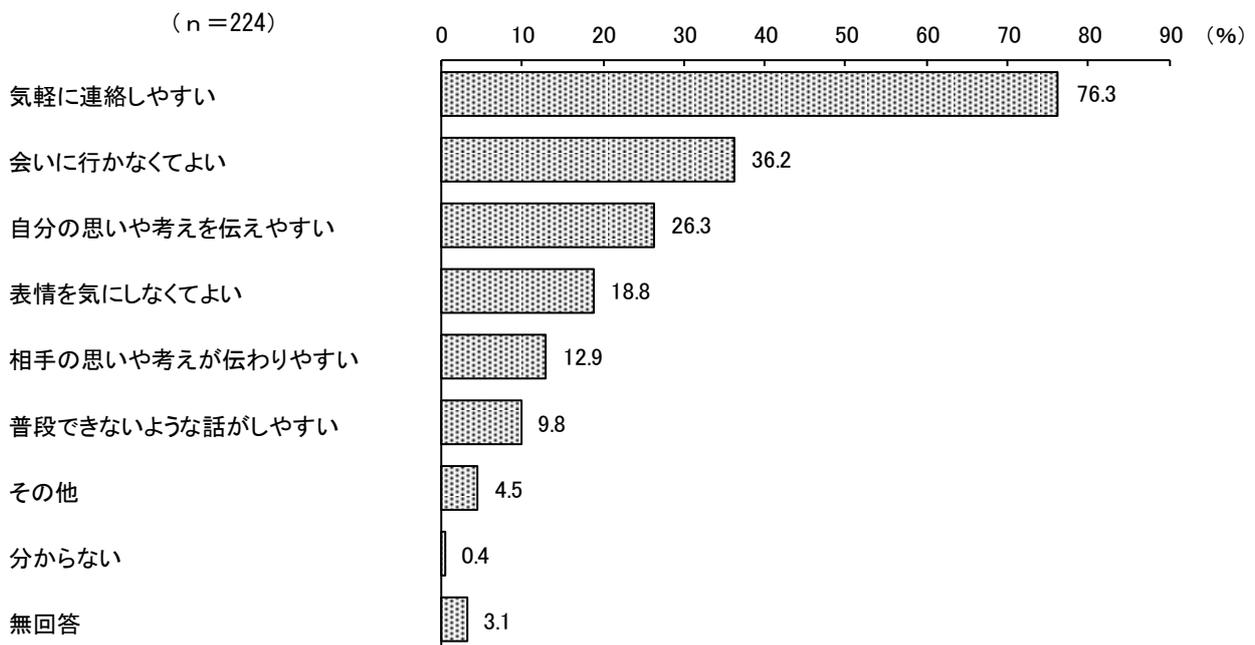
### 3 地域コミュニティにおけるコミュニケーションが取りやすい理由【問30-1-1】

#### 【全体の状況】

地域コミュニティにおけるコミュニケーションの取りやすさ（問 30-1）で、「そう思う」または、「どちらかといえばそう思う」と回答した 224 人に、その理由を複数回答で尋ねたところ、「気軽に連絡しやすい」が 76.3%で最も多く、次いで「会いに行かなくてよい」が 36.2%であった。

（図表 9-3-1）

図表9-3-1 地域コミュニティにおけるコミュニケーションが取りやすい理由（複数回答）



図表9-3-2 地域コミュニティにおけるコミュニケーションが取りやすい理由（複数回答）

－地域別、性・年代別

（サンプル数が少ないため参考）

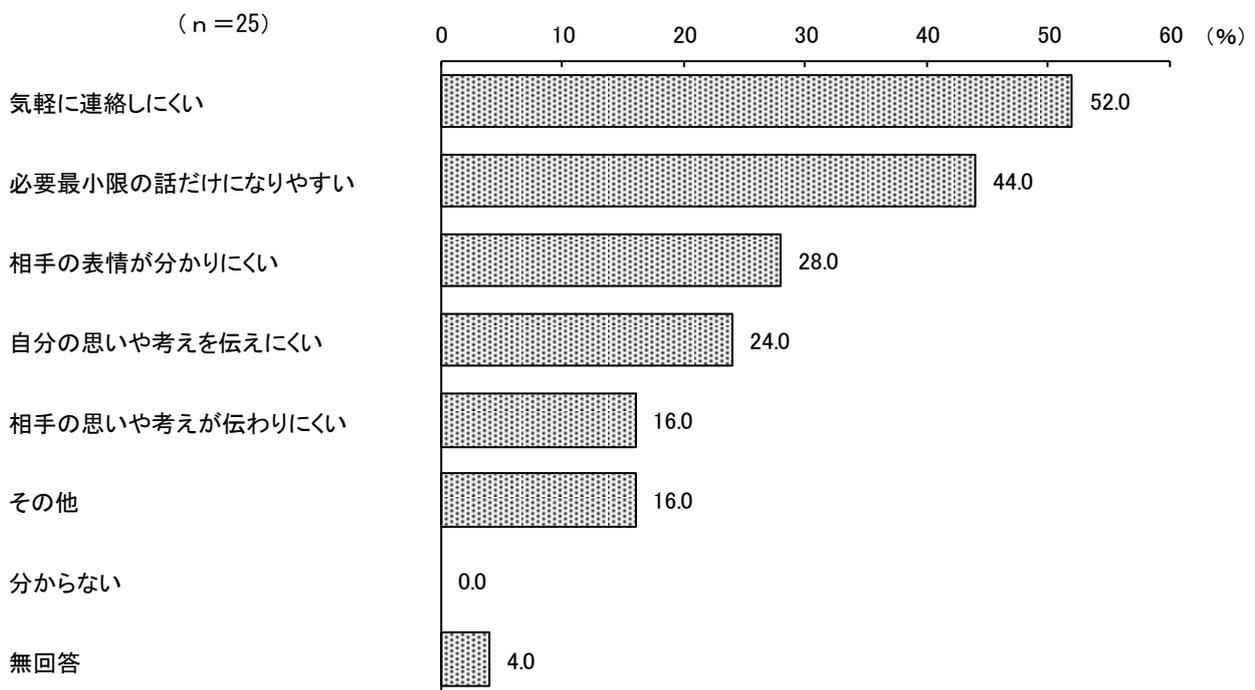
		(%)								
	n	気軽に連絡しやすい	会いに行かなくてよい	自分の思いや考えを伝えやすい	表情を気にしなくてよい	相手の思いや考えが伝わりやすい	普段できないような話がしやすい	その他	分からない	無回答
全 体	224	76.3	36.2	26.3	18.8	12.9	9.8	4.5	0.4	3.1
【地 域 別】										
横 浜	71	80.3	38.0	28.2	18.3	11.3	7.0	2.8	-	1.4
川 崎	26	73.1	26.9	15.4	15.4	7.7	19.2	15.4	-	7.7
相 模 原	13	84.6	46.2	23.1	7.7	15.4	23.1	-	-	7.7
横 須 賀 三 浦	32	65.6	31.3	28.1	25.0	12.5	3.1	3.1	3.1	3.1
県 央	27	81.5	40.7	29.6	25.9	22.2	7.4	7.4	-	3.7
湘 南	33	75.8	51.5	24.2	18.2	12.1	15.2	-	-	3.0
県 西	7	85.7	-	14.3	-	14.3	-	-	-	-
【性・年代別】										
男 性	78	67.9	32.1	24.4	26.9	10.3	15.4	3.8	-	1.3
女 性	128	82.0	40.6	26.6	14.1	14.8	7.0	4.7	0.8	4.7
男性18～29歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
30歳代	7	57.1	57.1	-	14.3	-	-	14.3	-	14.3
40歳代	12	75.0	33.3	25.0	-	8.3	25.0	8.3	-	-
50歳代	22	72.7	31.8	9.1	27.3	9.1	9.1	4.5	-	-
60歳代	20	65.0	25.0	25.0	30.0	20.0	5.0	-	-	-
70～74歳	6	33.3	50.0	33.3	33.3	-	33.3	-	-	-
75歳以上	11	81.8	18.2	63.6	54.5	9.1	36.4	-	-	-
女性18～29歳	9	88.9	33.3	11.1	22.2	-	11.1	-	-	11.1
30歳代	9	88.9	33.3	22.2	-	11.1	-	22.2	-	-
40歳代	24	79.2	45.8	33.3	8.3	8.3	8.3	-	4.2	4.2
50歳代	35	91.4	42.9	14.3	14.3	5.7	8.6	-	-	2.9
60歳代	19	68.4	31.6	26.3	21.1	21.1	10.5	15.8	-	5.3
70～74歳	13	92.3	53.8	38.5	15.4	30.8	-	-	-	-
75歳以上	19	68.4	36.8	42.1	15.8	31.6	5.3	5.3	-	10.5

#### 4 地域コミュニティにおけるコミュニケーションが取りにくい理由【問30-1-2】

##### 【全体の状況】

地域コミュニティにおけるコミュニケーションの取りやすさ（問30-1）で、「そう思わない」または、「どちらかといえばそう思わない」と回答した25人に、その理由を複数回答で尋ねたところ、「気軽に連絡しにくい」が52.0%で最も多く、次いで「必要最小限の話だけになりやすい」が44.0%であった。（図表9-4-1）

図表9-4-1 地域コミュニティにおけるコミュニケーションが取りにくい理由（複数回答）



図表9-4-2 地域コミュニティにおけるコミュニケーションが取りにくい理由（複数回答）

－地域別、性・年代別

（サンプル数が少ないため参考）

		（％）							
	n	気軽に連絡しにくい	必要最小限の話だけになりやすい	相手の表情が分かりにくい	自分の思いや考えを伝えるにくい	相手の思いや考えが伝わりにくい	その他	分からない	無回答
全体	25	52.0	44.0	28.0	24.0	16.0	16.0	-	4.0
【地域別】									
横浜	12	50.0	25.0	50.0	16.7	16.7	33.3	-	8.3
川崎	1	-	100.0	-	-	100.0	-	-	-
相模原	4	75.0	75.0	25.0	25.0	-	-	-	-
横須賀三浦	2	50.0	50.0	-	100.0	-	-	-	-
県央	-	-	-	-	-	-	-	-	-
湘南	2	50.0	50.0	-	50.0	50.0	-	-	-
県西	-	-	-	-	-	-	-	-	-
【性・年代別】									
男性	10	40.0	40.0	30.0	20.0	20.0	20.0	-	10.0
女性	11	63.6	45.5	36.4	36.4	18.2	18.2	-	-
男性18～29歳	1	100.0	-	-	-	-	100.0	-	-
30歳代	1	-	-	100.0	-	-	-	-	-
40歳代	3	66.7	-	-	33.3	-	33.3	-	-
50歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	-
60歳代	2	-	100.0	50.0	50.0	100.0	-	-	-
70～74歳	3	33.3	66.7	33.3	-	-	-	-	33.3
75歳以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-
女性18～29歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-
30歳代	1	-	-	-	-	-	100.0	-	-
40歳代	2	50.0	-	50.0	50.0	50.0	50.0	-	-
50歳代	2	100.0	50.0	50.0	-	-	-	-	-
60歳代	2	50.0	50.0	-	100.0	50.0	-	-	-
70～74歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-
75歳以上	4	75.0	75.0	50.0	25.0	-	-	-	-

## 第10章 子どもの貧困対策【問31～問33】

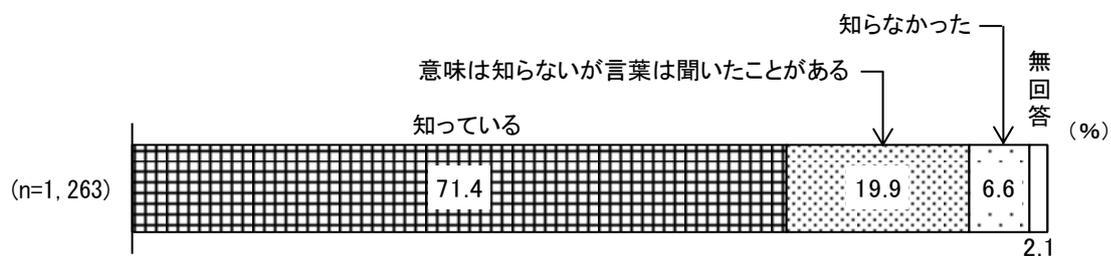
### 1 「子どもの貧困」の認知度【問31】

#### 【全体の状況】

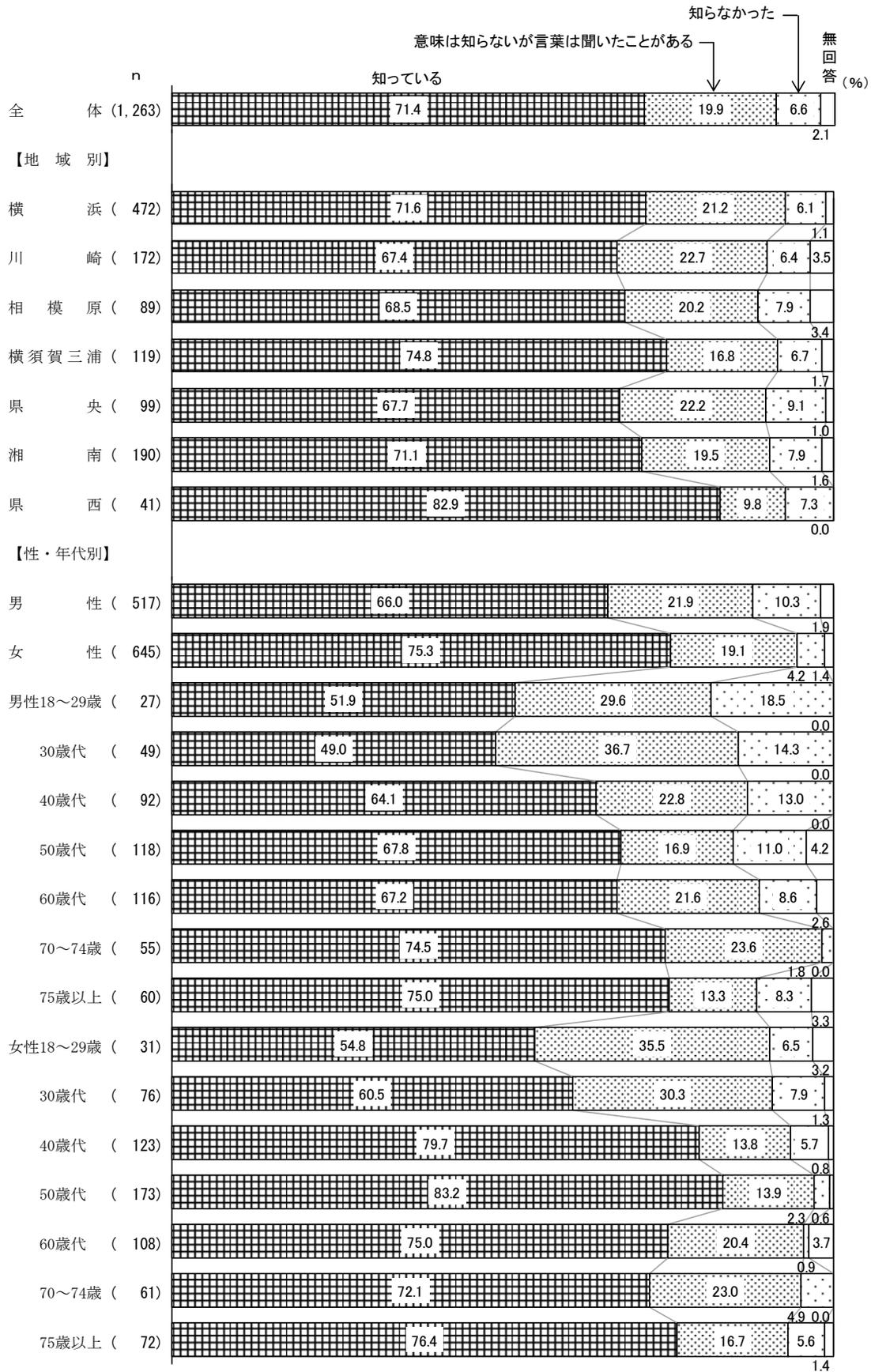
「子どもの貧困」という言葉の意味を知っているか尋ねたところ、「知っている」が71.4%であった。また、「意味は知らないが言葉は聞いたことがある」が19.9%であった。

一方、「知らなかった」が6.6%であった。(図表10-1-1)

図表10-1-1 「子どもの貧困」の認知度



図表10-1-2 「子どもの貧困」の認知度—地域別、性・年代別



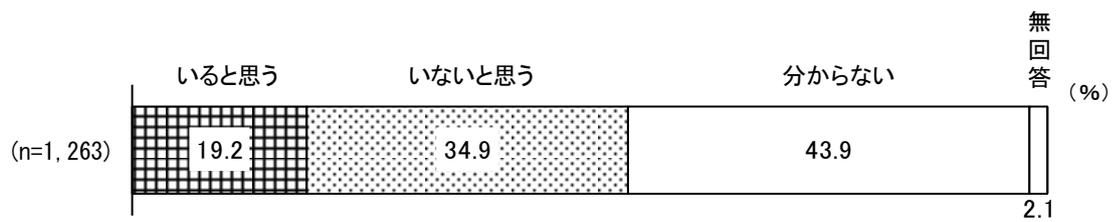
## 2 身近に支援が必要な子どもはいると思うか【問32】

### 【全体の状況】

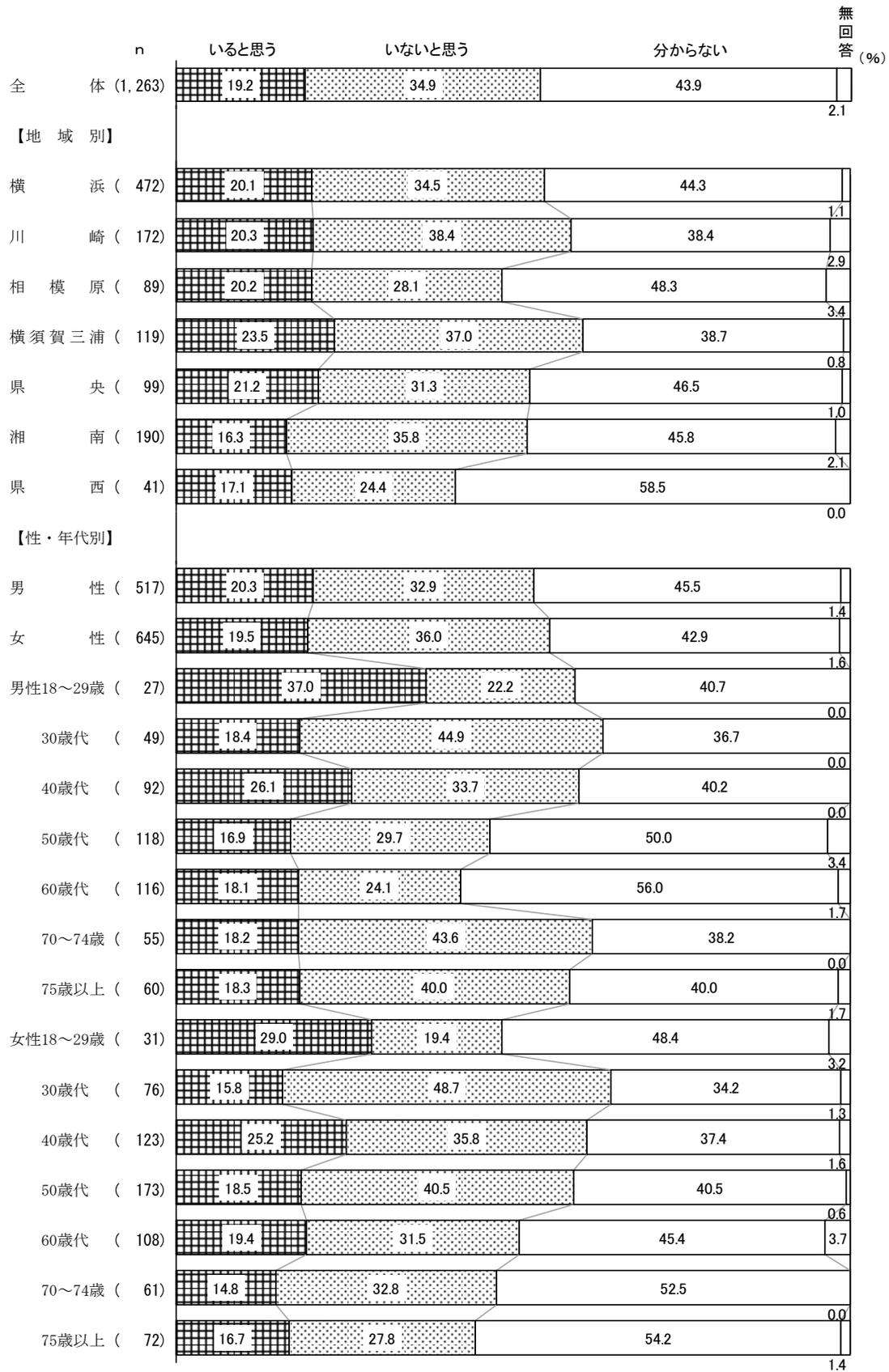
近所や職場、親戚などの身近に、経済的に苦しく行政などによる支援が必要な17歳以下の子どもはいると思うか尋ねたところ、「いると思う」が19.2%であった。

一方、「いないと思う」が34.9%であった。(図表10-2-1)

図表10-2-1 身近に支援が必要な子どもはいると思うか



図表10-2-2 身近に支援が必要な子どもはいると思うかー地域別、性・年代別

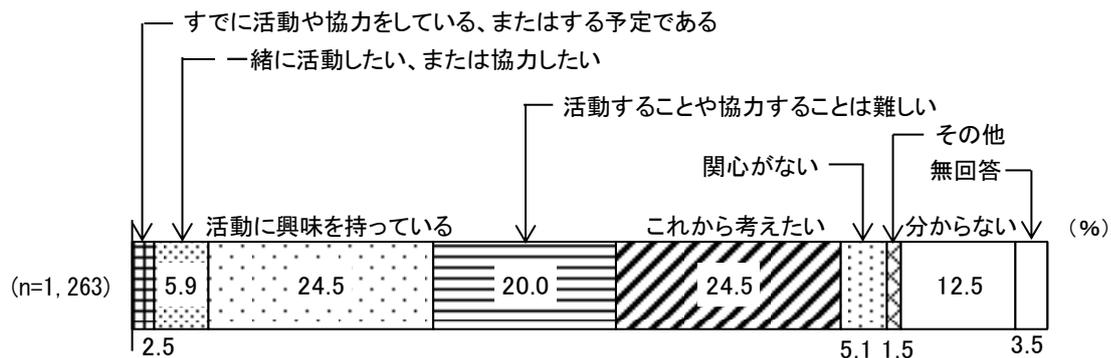


### 3 困難な環境にある子どもへの地域の支援活動に対する考え方【問33】

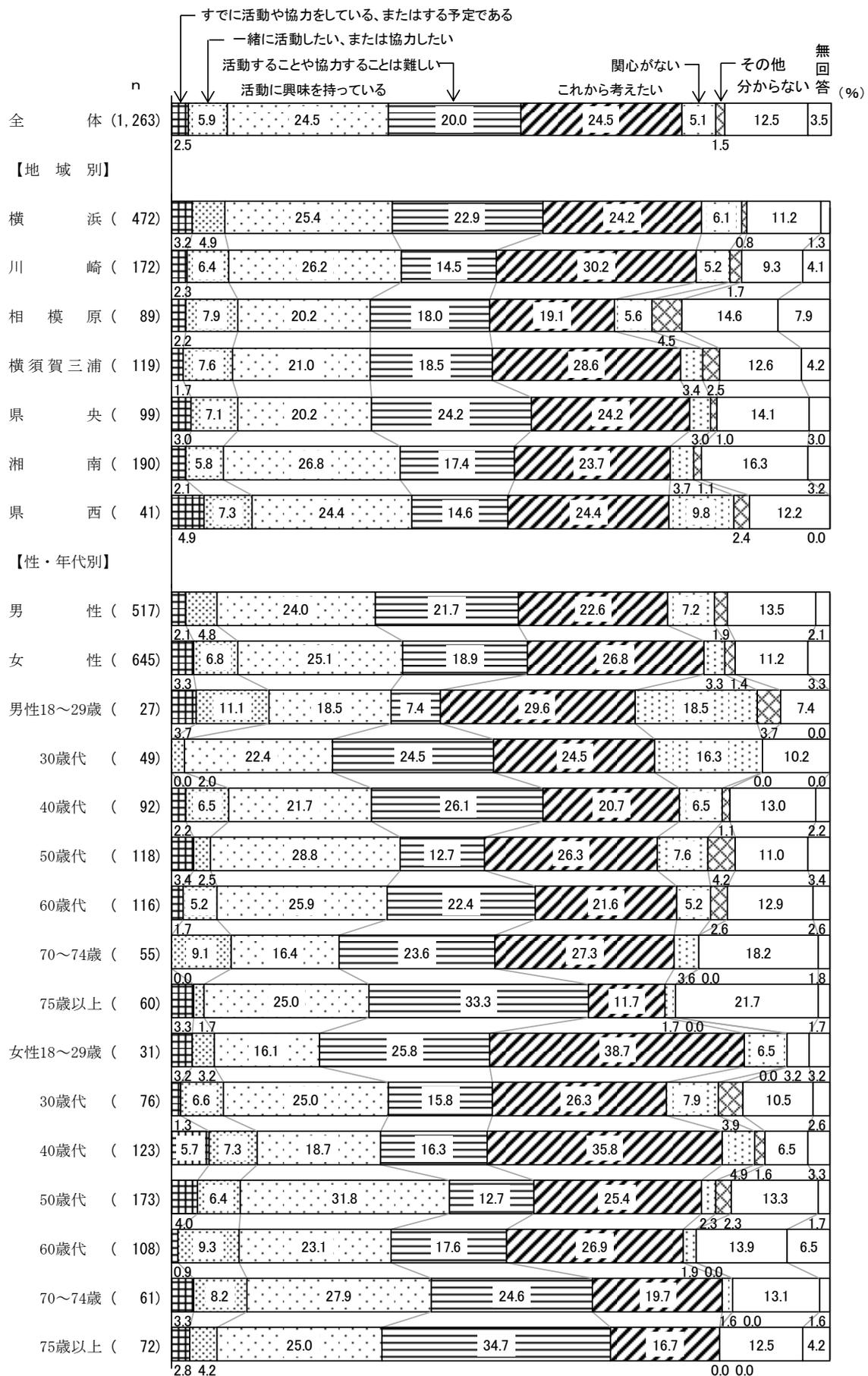
#### 【全体の状況】

貧困などの困難な環境にある子どもを地域で支援する活動について、どのように考えているか尋ねたところ、「活動に興味を持っている」と「これから考えたい」がそれぞれ24.5%で最も多く、次いで「活動することや協力することは難しい」が20.0%であった。(図表10-3-1)

図表10-3-1 困難な環境にある子どもへの地域の支援活動に対する考え方



図表10-3-2 困難な環境にある子どもへの地域の支援活動に対する考え方—地域別、性・年代別



## 第11章 里親制度【問34～問35】

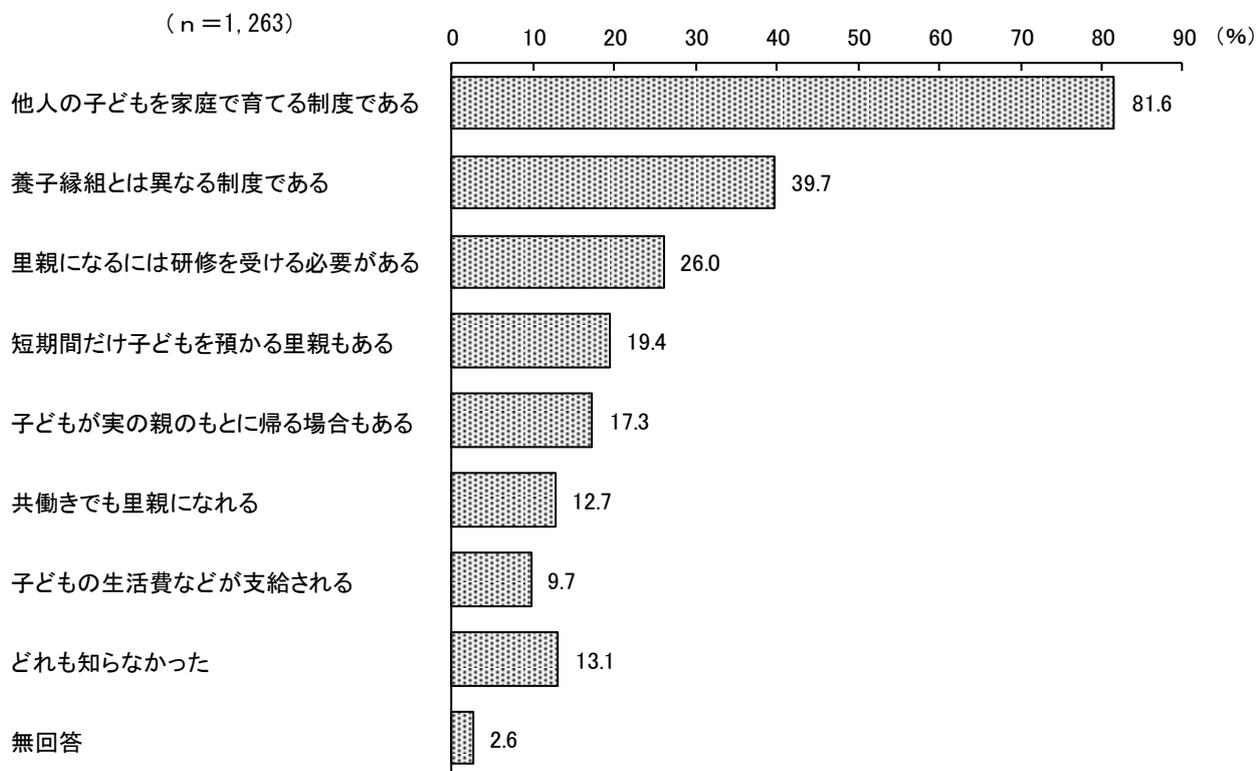
### 1 里親制度に対する知識や理解【問34】

#### 【全体の状況】

里親制度について知っていることを複数回答で尋ねたところ、「他人の子どもを家庭で育てる制度である」が81.6%で最も多く、次いで「養子縁組とは異なる制度である」が39.7%であった。

(図表 11-1-1)

図表11-1-1 里親制度に対する知識や理解（複数回答）



図表11-1-2 里親制度に対する知識や理解（複数回答）－地域別、性・年代別

		(%)								
	n	他人の子どもを家庭で育てる制度である	養子縁組とは異なる制度である	里親になるには研修を受ける必要がある	短期間だけ子どもを預かる里親もある	子どもが実の親のもとに帰る場合もある	共働きでも里親になれる	子どもの生活費などが支給される	どれも知らなかった	無回答
全体	1,263	81.6	39.7	26.0	19.4	17.3	12.7	9.7	13.1	2.6
【地域別】										
横浜	472	78.2	37.3	22.2	18.9	17.6	13.1	9.1	16.9	1.9
川崎	172	83.7	45.9	31.4	19.8	19.2	14.0	9.9	9.9	2.9
相模原	89	79.8	42.7	31.5	22.5	15.7	14.6	7.9	11.2	3.4
横須賀三浦	119	83.2	37.0	28.6	18.5	15.1	10.9	6.7	16.0	0.8
県央	99	83.8	47.5	21.2	16.2	19.2	11.1	12.1	8.1	2.0
湘南	190	84.7	36.8	29.5	19.5	15.3	12.1	10.0	11.6	2.1
県西	41	85.4	36.6	26.8	24.4	17.1	17.1	7.3	12.2	2.4
【性・年代別】										
男性	517	73.1	33.8	14.1	13.2	12.4	11.8	5.6	21.3	2.1
女性	645	88.4	44.5	35.5	24.2	20.8	13.6	11.5	7.3	1.9
男性18～29歳	27	59.3	11.1	14.8	7.4	18.5	11.1	3.7	40.7	-
30歳代	49	63.3	32.7	14.3	6.1	12.2	16.3	4.1	32.7	-
40歳代	92	70.7	32.6	9.8	10.9	16.3	14.1	5.4	22.8	1.1
50歳代	118	76.3	37.3	16.9	8.5	14.4	11.9	5.1	17.8	3.4
60歳代	116	78.4	32.8	13.8	14.7	10.3	8.6	6.9	17.2	1.7
70～74歳	55	70.9	45.5	16.4	18.2	9.1	14.5	3.6	21.8	1.8
75歳以上	60	76.7	31.7	13.3	26.7	6.7	8.3	8.3	15.0	5.0
女性18～29歳	31	71.0	32.3	25.8	9.7	16.1	6.5	9.7	22.6	3.2
30歳代	76	89.5	35.5	39.5	14.5	21.1	7.9	9.2	9.2	1.3
40歳代	123	84.6	39.0	43.9	22.0	22.8	14.6	12.2	9.8	1.6
50歳代	173	89.6	50.9	36.4	29.5	25.4	17.3	14.5	7.5	0.6
60歳代	108	91.7	46.3	26.9	25.0	17.6	13.0	8.3	4.6	2.8
70～74歳	61	93.4	59.0	31.1	29.5	13.1	9.8	11.5	-	3.3
75歳以上	72	88.9	38.9	36.1	26.4	19.4	15.3	11.1	4.2	2.8

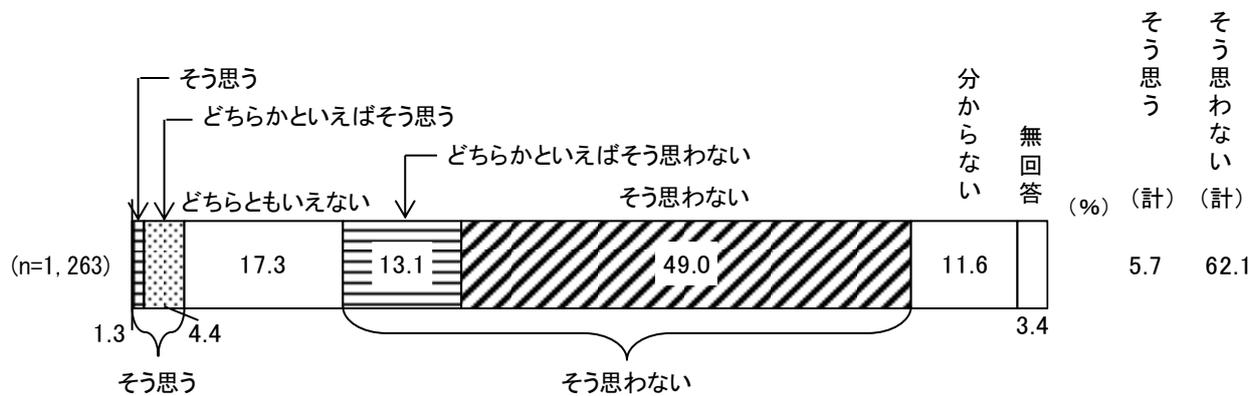
## 2 里親になってみたいと思うか【問35】

### 【全体の状況】

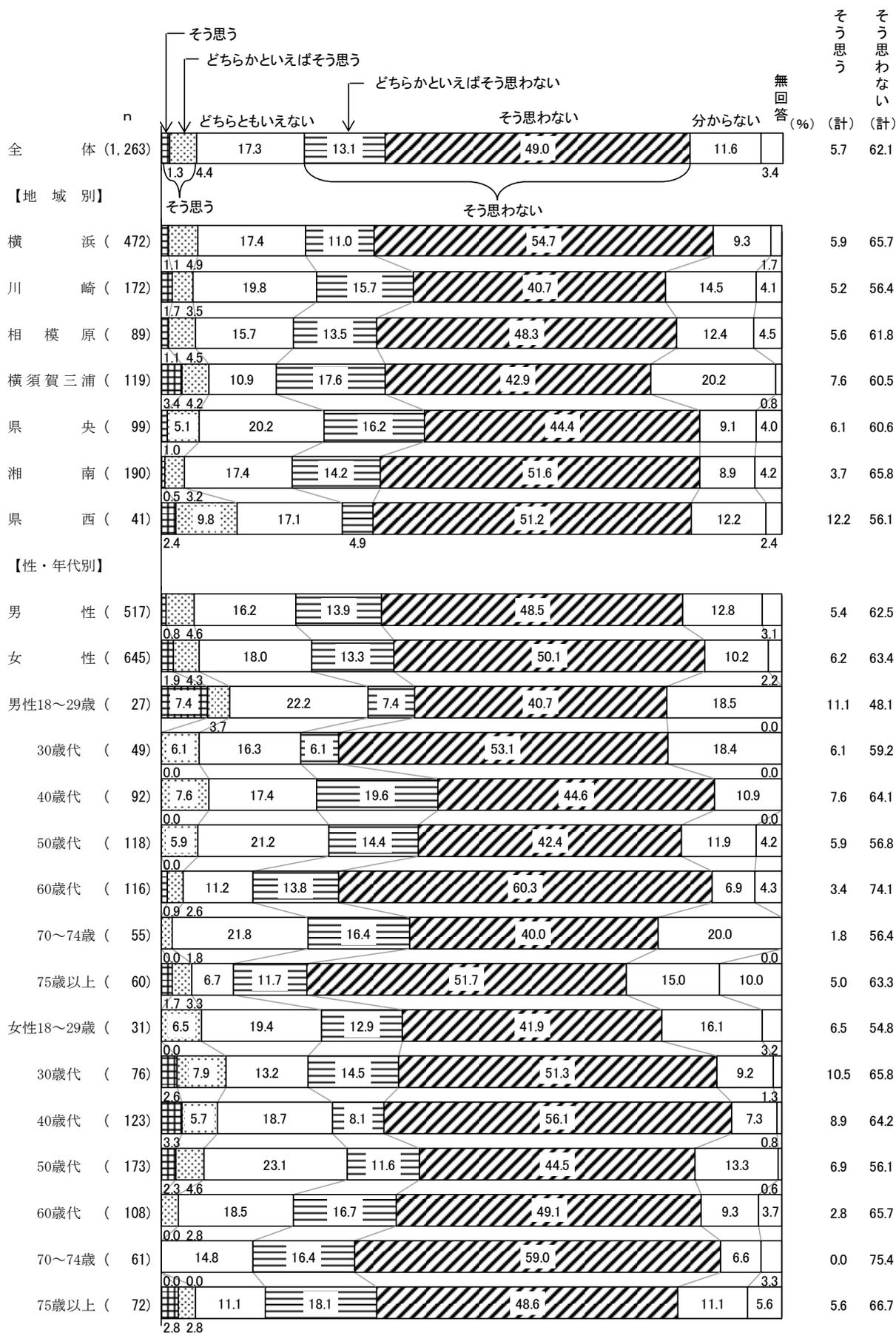
里親になってみたいと思うか尋ねたところ、「そう思う」(1.3%)と「どちらかといえばそう思う」(4.4%)を合わせた《そう思う》は5.7%であった。

一方、「そう思わない」(49.0%)と「どちらかといえばそう思わない」(13.1%)を合わせた《そう思わない》は62.1%であった。(図表11-2-1)

図表11-2-1 里親になってみたいと思うか



図表11-2-2 里親になってみたいと思うかー地域別、性・年代別



## 第12章 とともに生きる社会かながわ【問36～問42】

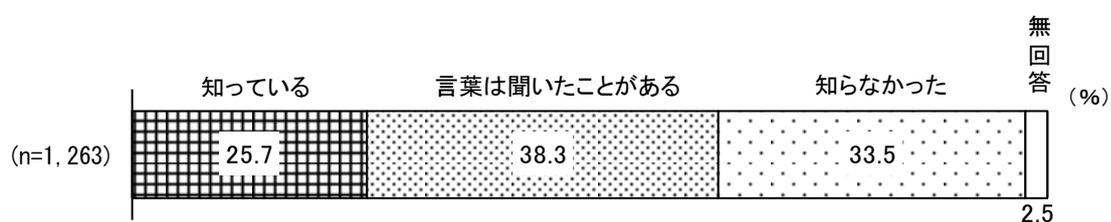
### 1 共生社会（ともに生きる社会）という考え方の認知度【問36】

#### 【全体の状況】

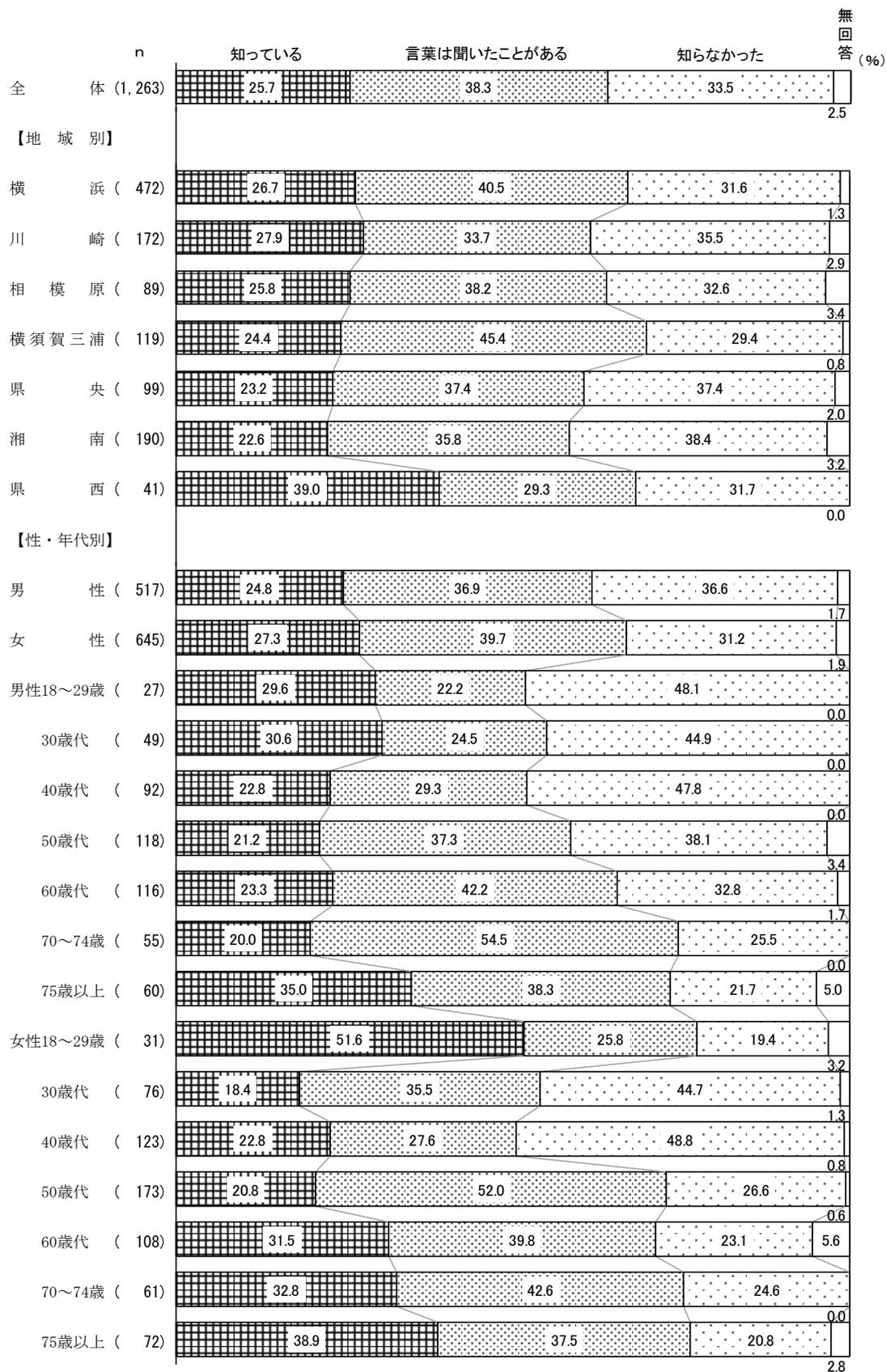
共生社会（ともに生きる社会）という考え方を知っているか尋ねたところ、「知っている」が25.7%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が38.3%であった。

一方、「知らなかった」が33.5%であった。（図表12-1-1）

図表12-1-1 共生社会（ともに生きる社会）という考え方の認知度



図表12-1-2 共生社会（ともに生きる社会）という考え方の認知度—地域別、性・年代別



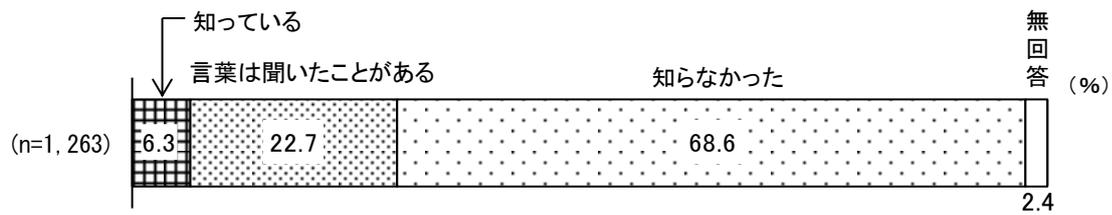
## 2 「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度【問37】

### 【全体の状況】

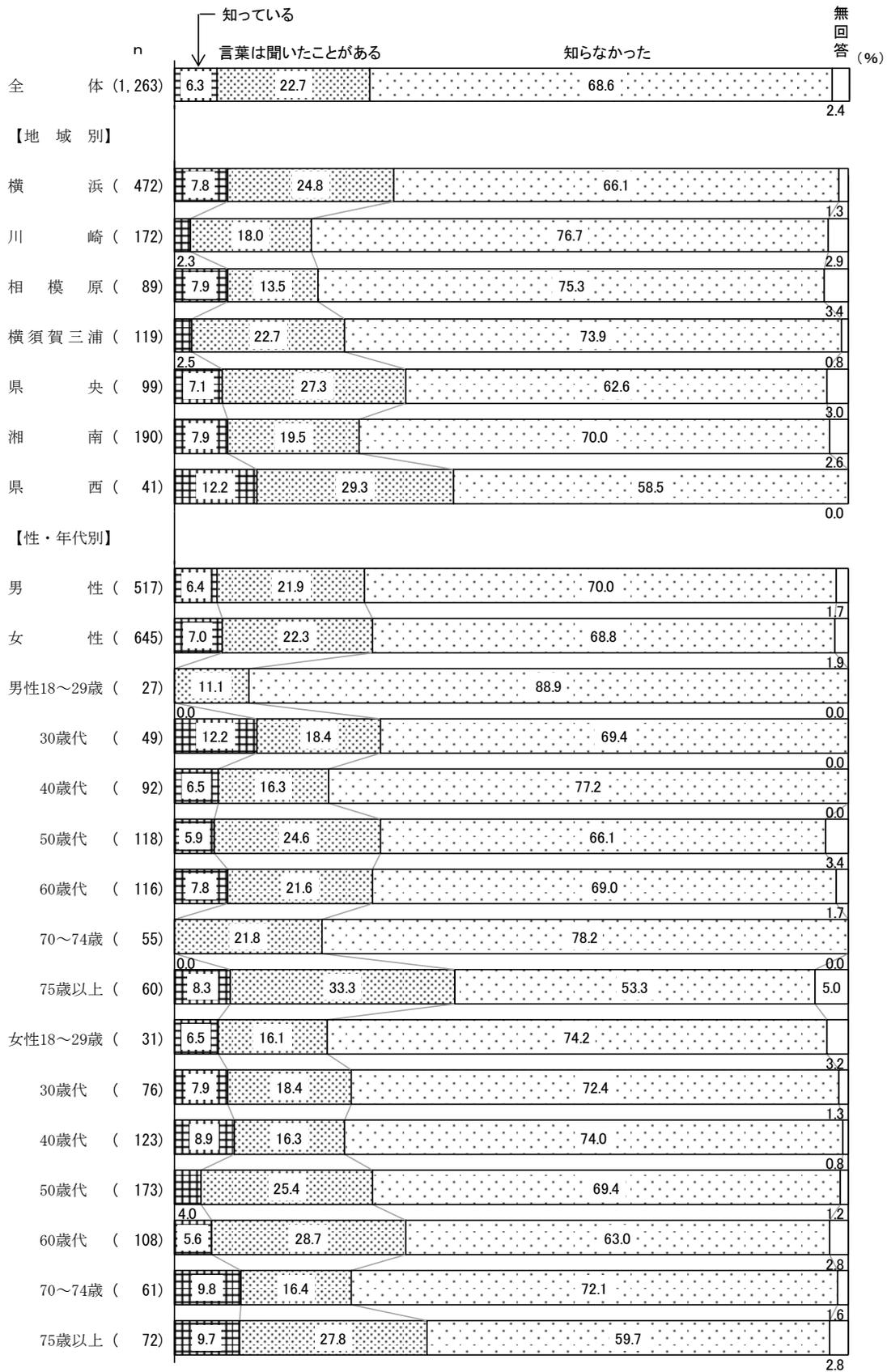
「ともに生きる社会かながわ憲章」を知っているか尋ねたところ、「知っている」が6.3%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が22.7%であった。

一方、「知らなかった」が68.6%であった。(図表12-2-1)

図表12-2-1 「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度



図表12-2-2 「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度—地域別、性・年代別



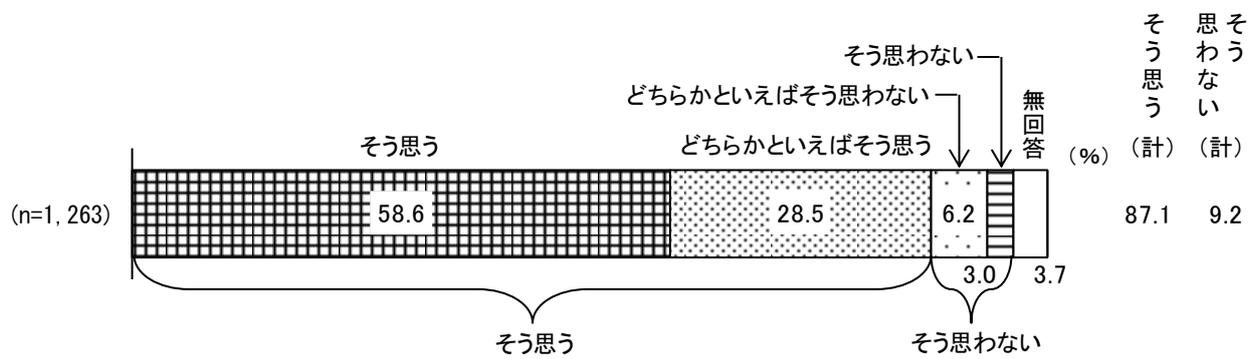
### 3 障がいのある人が身近で普通に生活しているのが当たり前だという考え方【問38】

#### 【全体の状況】

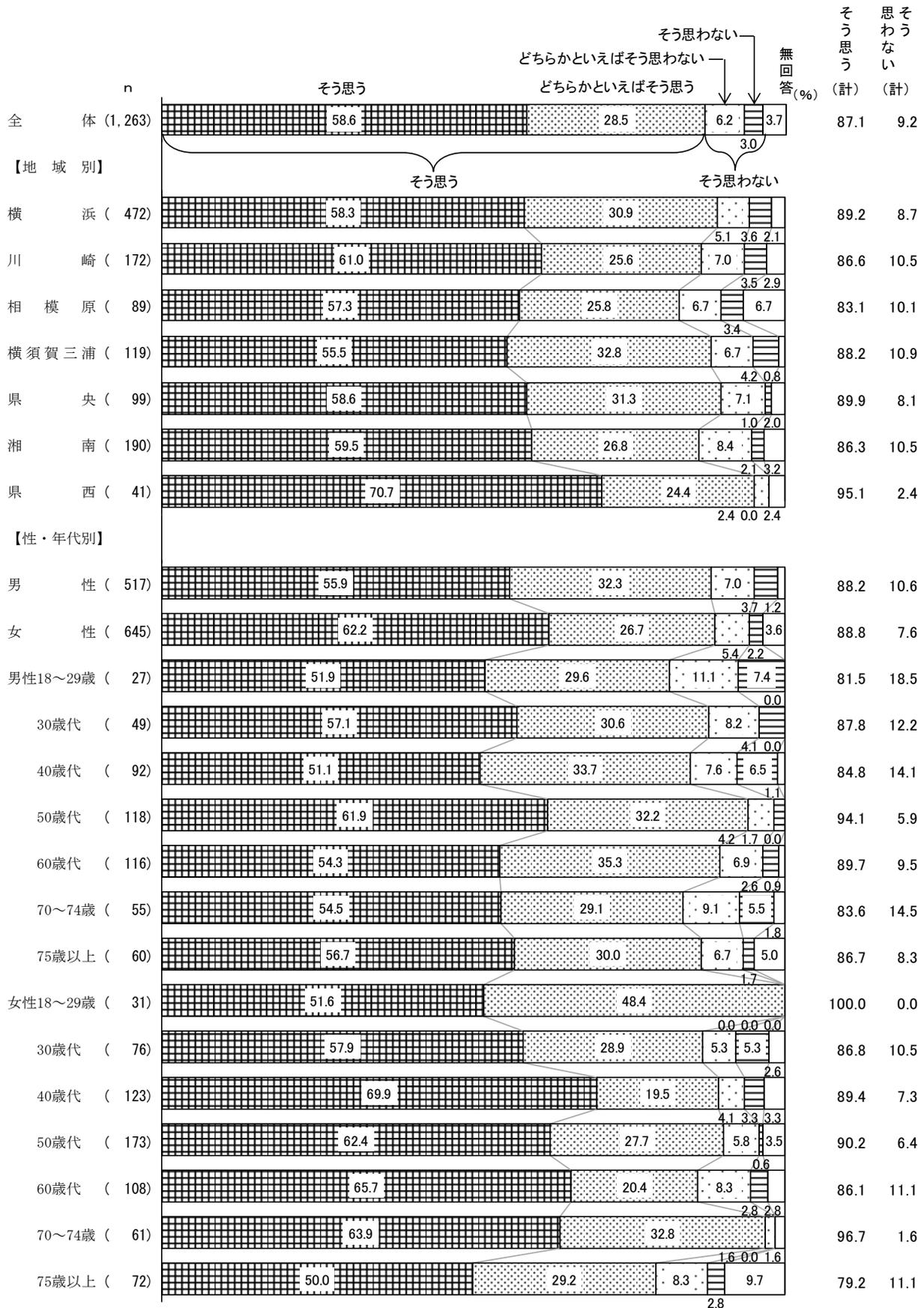
障がいのある人が身近で普通に生活しているのが当たり前だという考え方についてどう思うか尋ねたところ、「そう思う」(58.6%)と「どちらかといえばそう思う」(28.5%)を合わせた《そう思う》は87.1%であった。

一方、「そう思わない」(3.0%)と「どちらかといえばそう思わない」(6.2%)を合わせた《そう思わない》は9.2%であった。(図表 12-3-1)

図表12-3-1 障がいのある人が身近で普通に生活しているのが当たり前だという考え方



図表12-3-2 障がいのある人が身近で普通に生活しているのが当たり前だという考え方  
—地域別、性・年代別



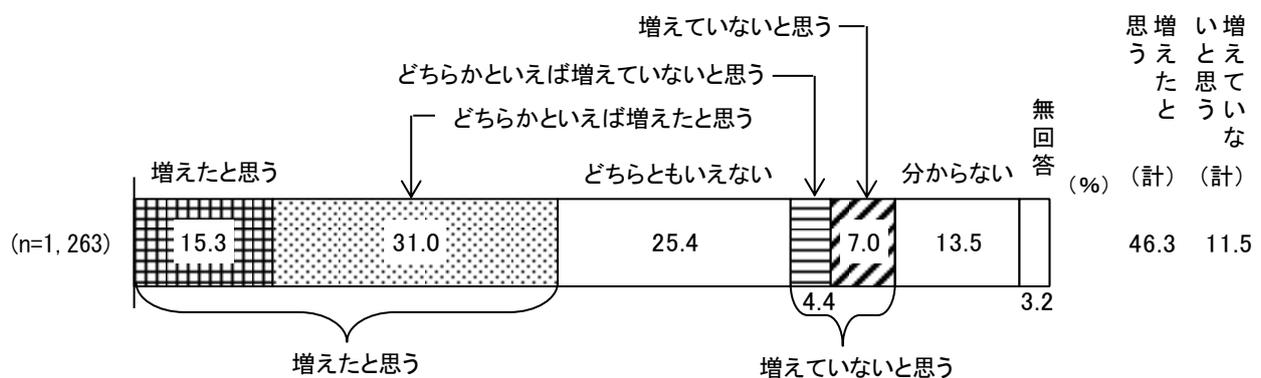
#### 4 障がい者に配慮した行動をとる人【問39】

##### 【全体の状況】

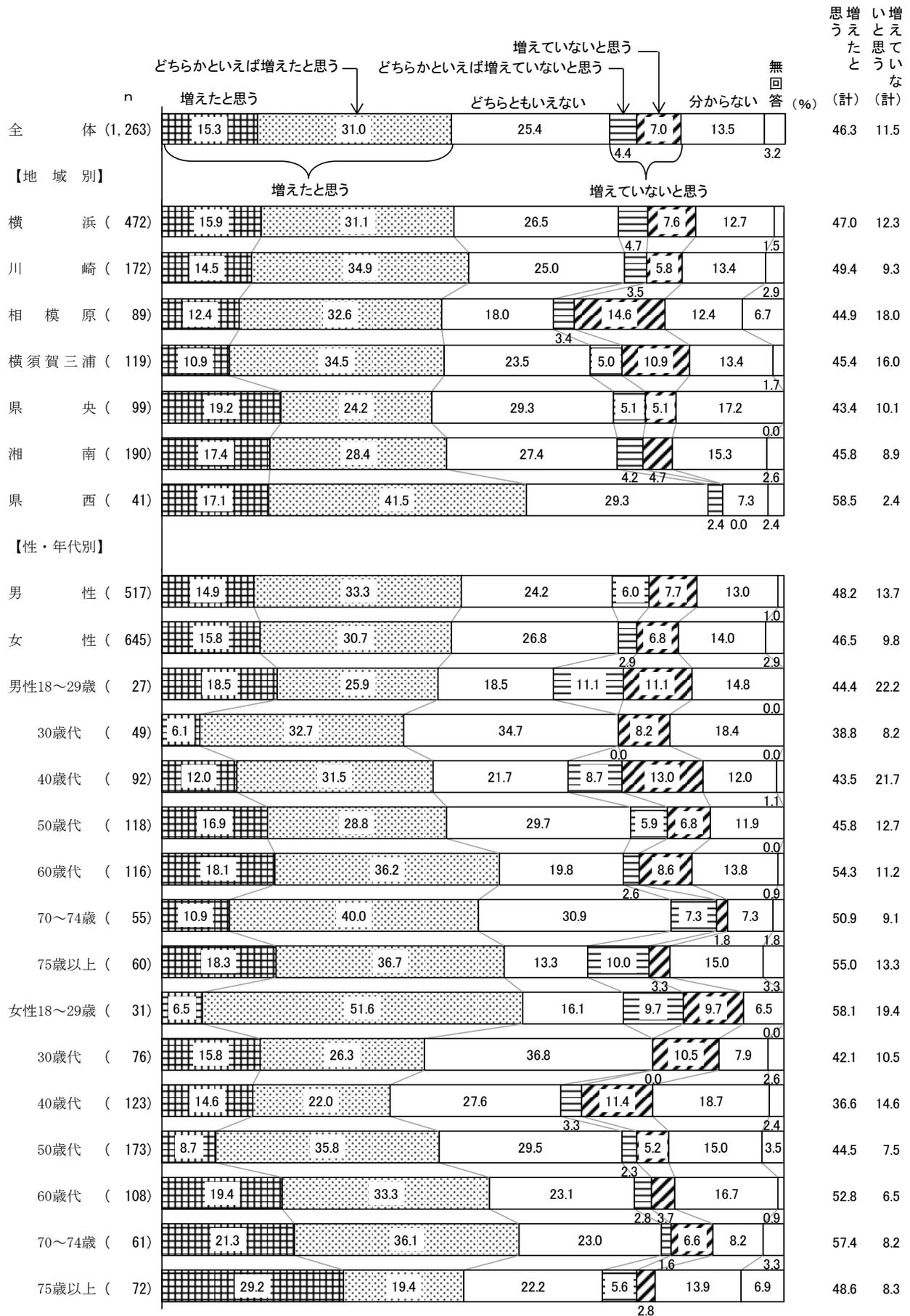
5年前と比べて障がい者に配慮した行動をとる人が増えたと思うか尋ねたところ、「増えたと思う」(15.3%)と「どちらかといえば増えたと思う」(31.0%)を合わせた《増えたと思う》は46.3%であった。

一方、「増えていないと思う」(7.0%)と「どちらかといえば増えていないと思う」(4.4%)を合わせた《増えていないと思う》は11.5%であった。(図表12-4-1)

図表12-4-1 障がい者に配慮した行動をとる人



図表12-4-2 障がい者に配慮した行動をとる人—地域別、性・年代別



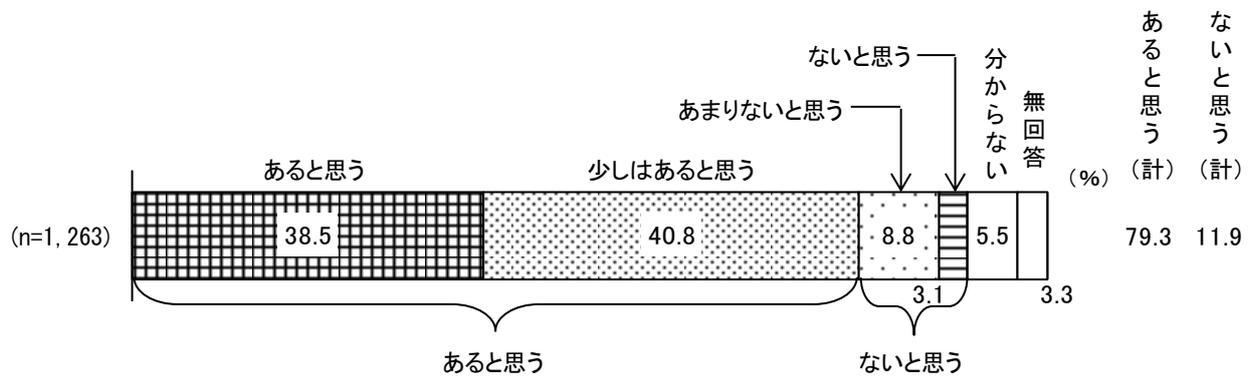
## 5 障がい者への差別・偏見の有無【問40】

### 【全体の状況】

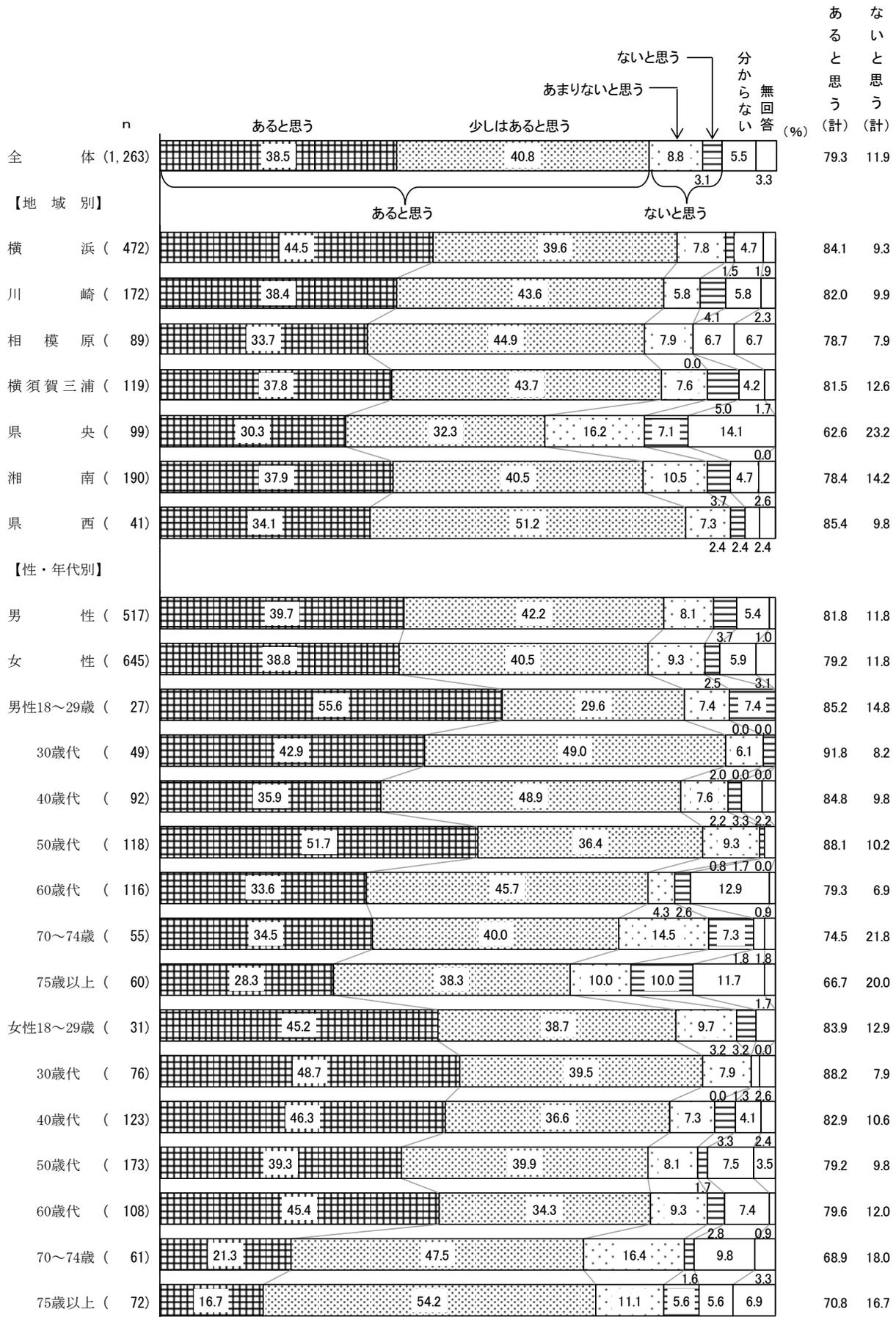
障がい者に対して、障がいを理由とする差別や偏見があると思うか尋ねたところ、「あると思う」(38.5%)と「少しはあると思う」(40.8%)を合わせた《あると思う》は79.3%であった。

一方、「ないと思う」(3.1%)と「あまりないと思う」(8.8%)を合わせた《ないと思う》は11.9%であった。(図表12-5-1)

図表12-5-1 障がい者への差別・偏見の有無



図表12-5-2 障がい者への差別・偏見の有無—地域別、性・年代別



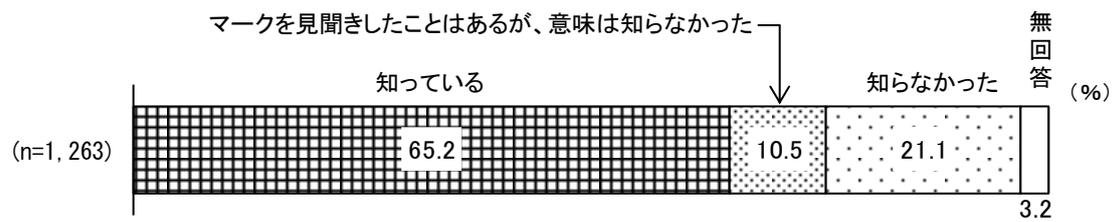
## 6 「ヘルプマーク」の認知度【問41】

### 【全体の状況】

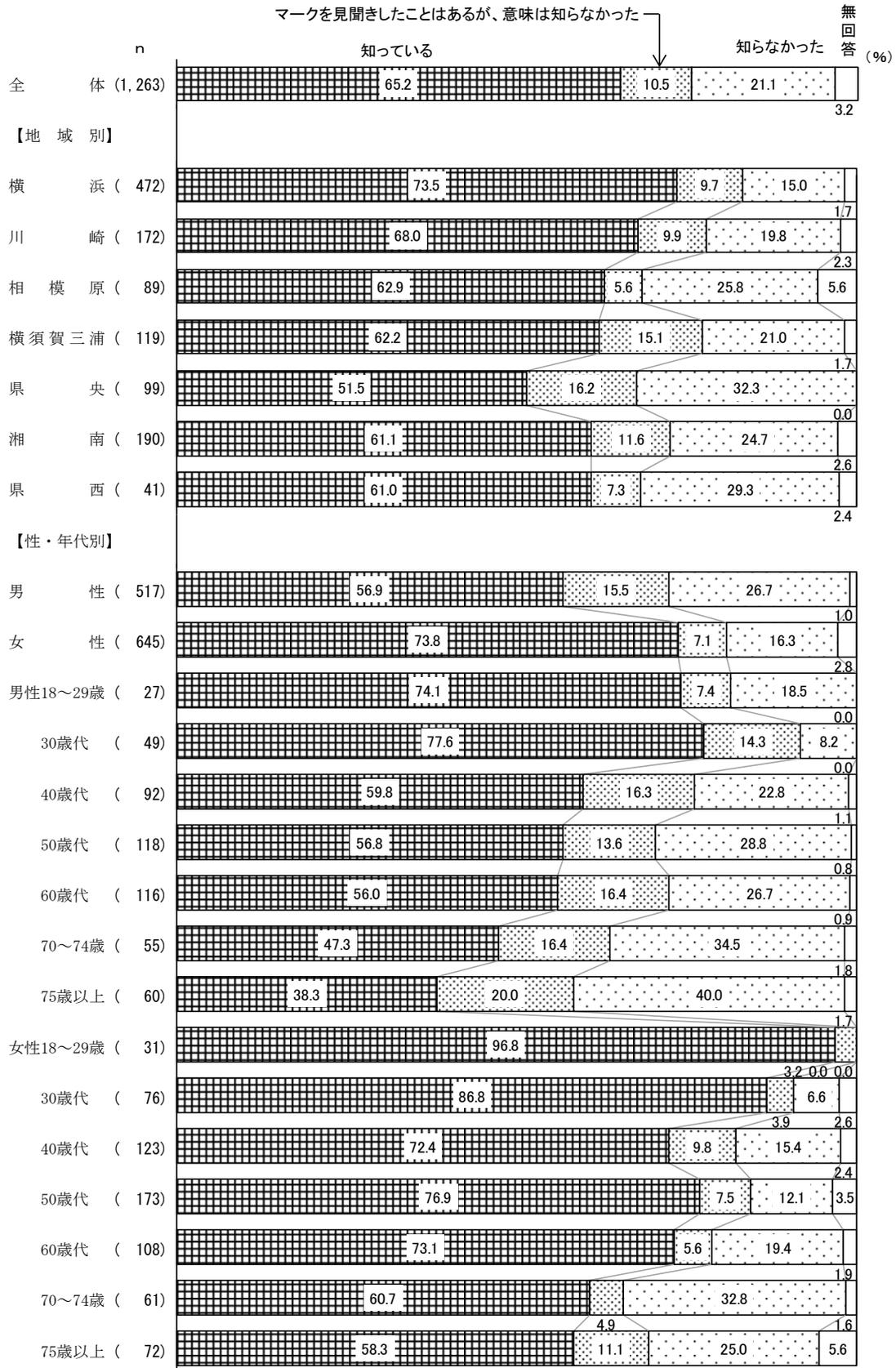
「ヘルプマーク」を知っているか尋ねたところ、「知っている」が65.2%であった。また、「マークを見聞きしたことはあるが、意味は知らなかった」が10.5%であった。

一方、「知らなかった」が21.1%であった。(図表 12-6-1)

図表12-6-1 「ヘルプマーク」の認知度



図表12-6-2 「ヘルプマーク」の認知度—地域別、性・年代別

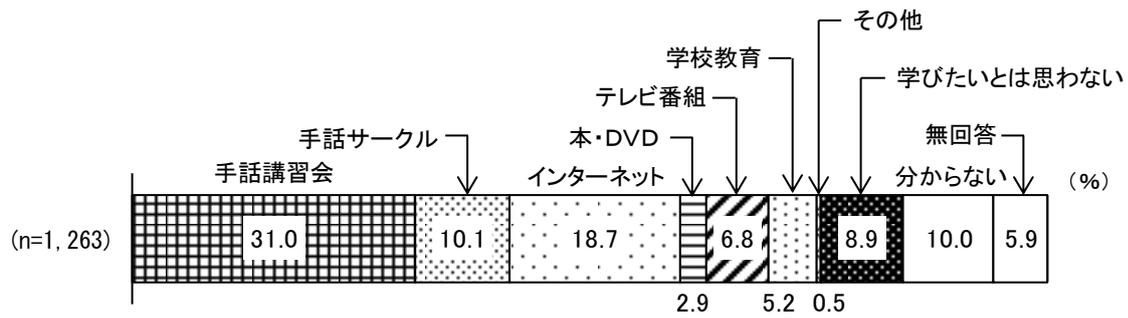


## 7 希望する手話の学習方法【問42】

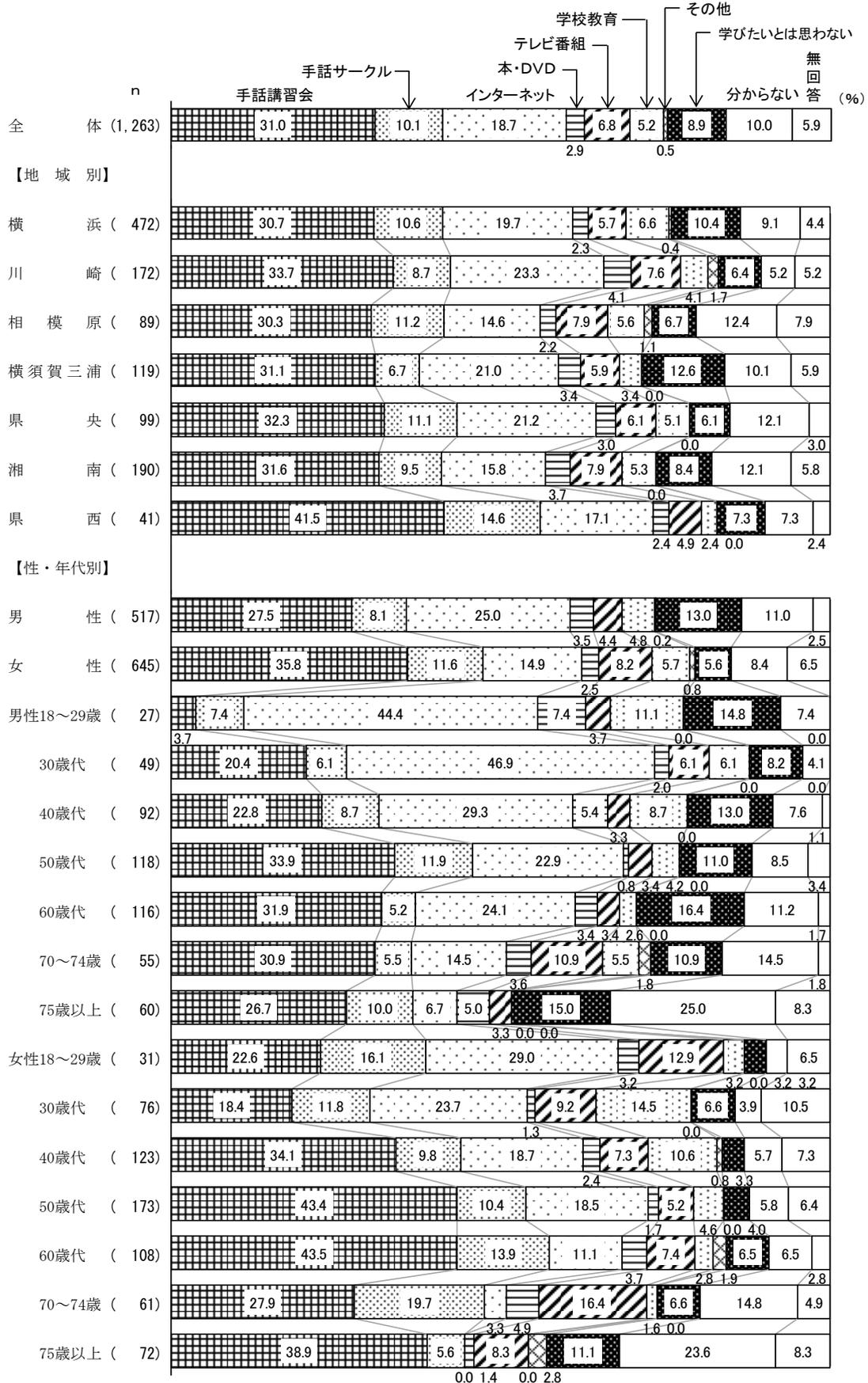
### 【全体の状況】

手話を学ぶ場合、どのような方法で学びたいか尋ねたところ、「手話講習会」が31.0%で最も多く、次いで「インターネット」が18.7%であった。(図表12-7-1)

図表12-7-1 希望する手話の学習方法



図表12-7-2 希望する手話の学習方法—地域別、性・年代別



## 第13章 かながわの広報【問43～問45】

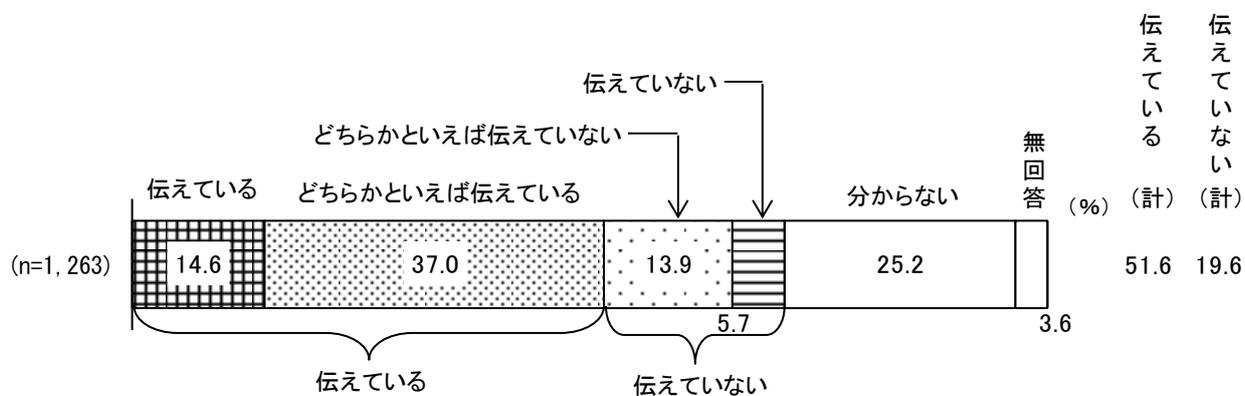
### 1 県の広報の達成度【問43】

#### 【全体の状況】

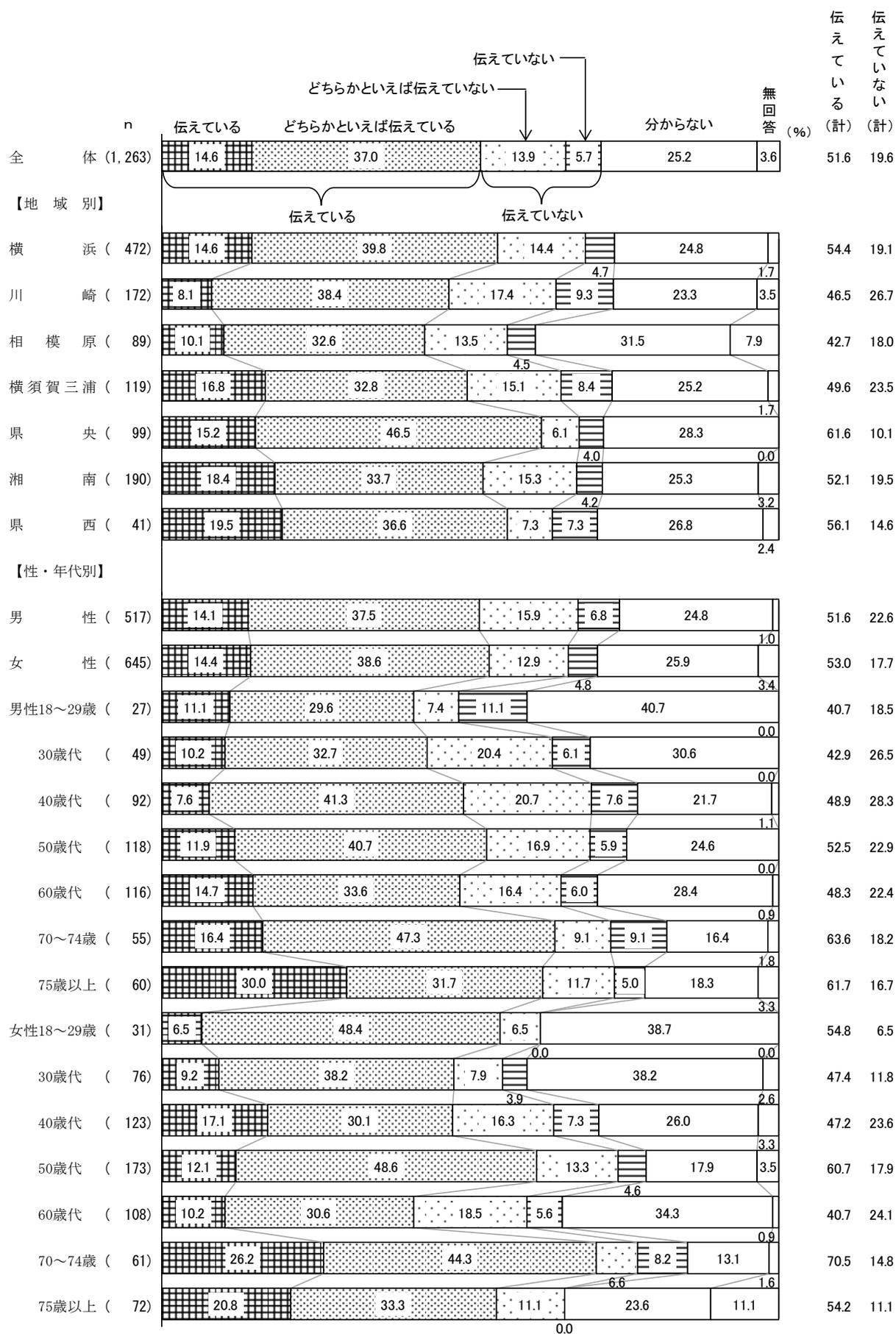
県が県政情報を伝えていると思うか尋ねたところ、「伝えている」(14.6%)と「どちらかといえば伝えている」(37.0%)を合わせた《伝えている》は51.6%であった。

一方、「伝えていない」(5.7%)と「どちらかといえば伝えていない」(13.9%)を合わせた《伝えていない》は19.6%であった。(図表13-1-1)

図表13-1-1 県の広報の達成度



図表13-1-2 県の広報の達成度—地域別、性・年代別



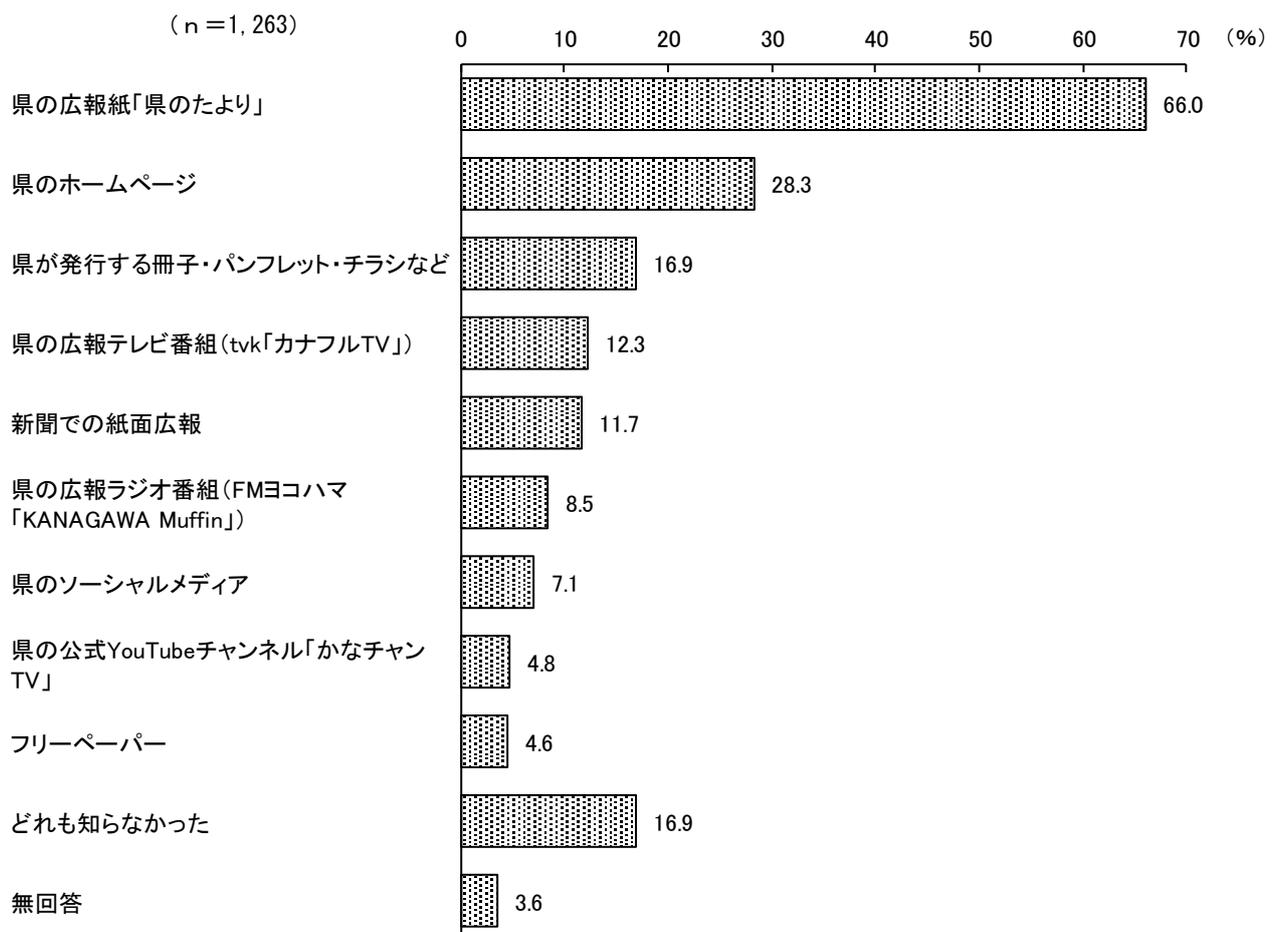
## 2 県の広報媒体の認知度【問44】

### 【全体の状況】

県が県政情報を伝えている広報媒体について、知っているものを複数回答で尋ねたところ、「県の広報紙『県のたより』」が66.0%で最も多く、次いで「県のホームページ」が28.3%であった。

(図表 13-2-1)

図表13-2-1 県の広報媒体の認知度（複数回答）



図表13-2-2 県の広報媒体の認知度（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

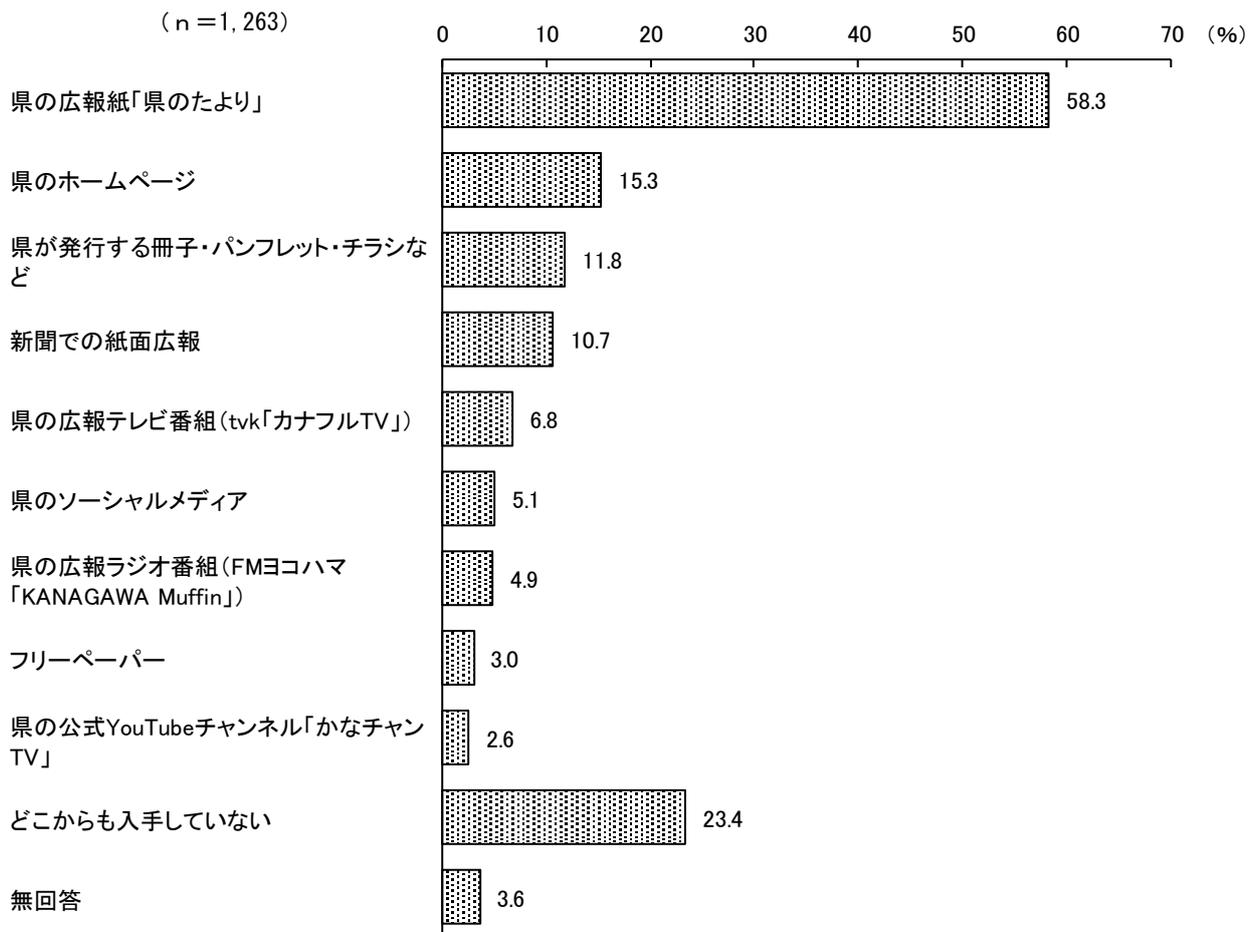
	n	県の 広報紙「 県のたより」	県の ホーム ページ	県が 発行する 冊子・ パンフ レット	県の 広報テ レビ番 組（tv k「カ ナフル TV」）	新聞 での紙 面広報	県 の 広 報 ラ ジ オ 番 組 （ F M ヨ コ ハ M u f f i n ）	県 の ソ ー シ ヤ ル メ デ ィ ア	県 の 公 式 Y o u T u b e チ ャ ン ネ ル 「 か な チ ャ ン T V 」	フ リ ー ペ ー パ ー	ど れ も 知 ら な か つ た	無 回 答
全 体	1,263	66.0	28.3	16.9	12.3	11.7	8.5	7.1	4.8	4.6	16.9	3.6
【地 域 別】												
横 浜	472	69.3	28.2	18.4	12.3	11.4	6.6	8.7	4.0	4.4	15.7	1.5
川 崎	172	65.1	37.2	17.4	10.5	10.5	5.8	8.7	4.7	9.9	16.3	4.7
相 模 原	89	55.1	23.6	13.5	13.5	10.1	13.5	3.4	4.5	1.1	21.3	6.7
横 須 賀 三 浦	119	70.6	26.9	17.6	10.9	13.4	8.4	8.4	5.0	1.7	18.5	0.8
県 央	99	62.6	28.3	24.2	16.2	14.1	14.1	7.1	7.1	4.0	15.2	-
湘 南	190	64.2	25.8	11.1	11.6	8.9	10.0	5.3	5.8	5.3	18.4	4.2
県 西	41	65.9	24.4	14.6	14.6	19.5	12.2	2.4	2.4	-	22.0	2.4
【性・年代別】												
男 性	517	62.9	32.3	17.4	16.1	12.0	10.6	8.9	6.0	4.6	20.9	1.4
女 性	645	68.8	25.9	16.9	9.5	11.3	7.1	6.0	3.7	4.7	14.1	3.3
男性18～29歳	27	11.1	33.3	7.4	7.4	11.1	7.4	25.9	3.7	7.4	44.4	-
30歳代	49	36.7	36.7	16.3	12.2	6.1	14.3	18.4	4.1	4.1	42.9	-
40歳代	92	57.6	33.7	13.0	16.3	5.4	9.8	15.2	7.6	8.7	19.6	2.2
50歳代	118	61.9	32.2	14.4	21.2	10.2	13.6	9.3	6.8	5.1	20.3	-
60歳代	116	74.1	35.3	19.0	12.9	15.5	12.9	2.6	6.0	3.4	15.5	0.9
70～74歳	55	76.4	30.9	29.1	14.5	14.5	5.5	1.8	1.8	1.8	14.5	3.6
75歳以上	60	83.3	21.7	21.7	20.0	21.7	5.0	1.7	8.3	1.7	11.7	3.3
女性18～29歳	31	25.8	32.3	25.8	9.7	9.7	6.5	12.9	3.2	12.9	35.5	-
30歳代	76	39.5	30.3	13.2	5.3	10.5	6.6	10.5	1.3	3.9	31.6	2.6
40歳代	123	52.8	26.0	14.6	6.5	4.9	7.3	7.3	2.4	4.1	22.0	3.3
50歳代	173	75.7	35.8	13.9	10.4	5.2	7.5	7.5	3.5	4.6	9.2	3.5
60歳代	108	86.1	28.7	18.5	7.4	15.7	8.3	1.9	7.4	4.6	6.5	1.9
70～74歳	61	88.5	8.2	16.4	11.5	19.7	4.9	1.6	6.6	3.3	3.3	3.3
75歳以上	72	86.1	5.6	26.4	18.1	25.0	6.9	2.8	1.4	4.2	5.6	6.9

### 3 県政情報の入手先【問45】

#### 【全体の状況】

県政情報をどこから入手しているか複数回答で尋ねたところ、「県の広報紙『県のたより』」が58.3%で最も多く、次いで「県のホームページ」が15.3%であった。(図表 13-3-1)

図表13-3-1 県政情報の入手先（複数回答）



図表13-3-2 県政情報の入手先（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	県の広報紙「県のたより」	県のホームページ	県が発行する冊子・パンフレット・チラシなど	新聞での紙面広報	県の広報テレビ番組（tvk「カナフルTV」）	県のソーシャルメディア	県マ→KANAGAWA Muffin）	県の広報ラジオ番組（FMヨコハ）	フリーペーパー	県の公式YouTubeチャンネル「かなちゃんTV」	どこからも入手していない	無回答
全体	1,263	58.3	15.3	11.8	10.7	6.8	5.1	4.9	3.0	2.6	23.4	3.6	
【地域別】													
横浜	472	63.6	14.4	11.9	8.7	5.7	6.1	3.8	2.5	1.9	21.8	1.7	
川崎	172	57.0	23.3	14.5	9.3	5.8	7.6	2.9	5.2	3.5	21.5	4.1	
相模原	89	42.7	11.2	5.6	9.0	7.9	2.2	6.7	1.1	1.1	32.6	6.7	
横須賀三浦	119	64.7	16.0	15.1	11.8	5.0	5.9	4.2	0.8	4.2	21.8	1.7	
県央	99	53.5	19.2	17.2	16.2	12.1	4.0	8.1	5.1	3.0	21.2	-	
湘南	190	55.8	11.6	6.8	9.5	6.8	3.2	7.4	4.2	2.6	27.4	3.7	
県西	41	61.0	9.8	9.8	17.1	7.3	2.4	2.4	-	-	26.8	4.9	
【性・年代別】													
男性	517	55.3	19.3	10.8	11.0	8.3	4.6	7.4	2.9	2.9	27.1	1.7	
女性	645	62.2	12.4	12.6	9.5	5.1	5.7	2.9	3.3	2.2	20.9	3.1	
男性18～29歳	27	7.4	11.1	3.7	7.4	3.7	11.1	3.7	3.7	3.7	70.4	-	
30歳代	49	28.6	14.3	10.2	2.0	8.2	12.2	6.1	6.1	2.0	49.0	-	
40歳代	92	48.9	16.3	7.6	4.3	6.5	8.7	8.7	5.4	3.3	28.3	2.2	
50歳代	118	53.4	22.0	7.6	7.6	6.8	4.2	11.0	0.8	2.5	30.5	-	
60歳代	116	64.7	26.7	12.1	14.7	8.6	1.7	9.5	3.4	2.6	18.1	1.7	
70～74歳	55	70.9	16.4	20.0	18.2	9.1	-	1.8	1.8	1.8	18.2	3.6	
75歳以上	60	80.0	15.0	15.0	23.3	15.0	-	1.7	-	5.0	6.7	5.0	
女性18～29歳	31	12.9	12.9	12.9	6.5	3.2	16.1	-	3.2	3.2	51.6	-	
30歳代	76	35.5	13.2	5.3	2.6	3.9	9.2	2.6	2.6	-	40.8	2.6	
40歳代	123	48.0	11.4	11.4	2.4	1.6	8.1	4.1	3.3	0.8	30.9	3.3	
50歳代	173	63.6	20.2	11.6	4.0	5.2	5.8	2.9	5.2	1.2	17.9	3.5	
60歳代	108	82.4	10.2	13.0	12.0	0.9	1.9	2.8	3.7	4.6	10.2	1.9	
70～74歳	61	83.6	8.2	14.8	21.3	13.1	1.6	4.9	-	4.9	3.3	3.3	
75歳以上	72	83.3	1.4	22.2	29.2	12.5	2.8	1.4	1.4	2.8	8.3	5.6	

第IV部 調査票と単純集計結果



調査期間 令和6年9月6日～10月1日  
 標本設計数 3,000 有効回収数(率) 1,263 (42.1%)  
 ※「n」は、質問に対する回答者の総数を表す。  
 「-」は、回答者が皆無であることを示す。  
 ※ 比率(%)の数値は小数第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがある。

# 令和6年度(2024年)神奈川県『県民ニーズ調査』(第1回課題調査) 調査票

この調査は、県民の皆様のご意見やお考えをお聴きし、今後の県の施策を検討する基礎資料とするものです。日ごろのお考えを率直にお聴かせください。



神奈川県PR  
 キャラクター  
 かながわ  
 キンタロウ

【テーマ】

- |                |                 |
|----------------|-----------------|
| 1 食の安全・安心      | 8 地域社会との関わり     |
| 2 食・食育         | 9 地域コミュニティ      |
| 3 かながわの農林水産業   | 10 子どもの貧困対策     |
| 4 2027年国際園芸博覧会 | 11 里親制度         |
| 5 スポーツ         | 12 ともに生きる社会かながわ |
| 6 地震対策の取組み     | 13 かながわの広報      |
| 7 治安対策         |                 |

◆ 記入上の留意事項

- この調査のご回答は、**封筒のあて名のご本人様**にお願いいたします。
- この調査は無記名式です。お名前やご住所の**記入は不要**です。
- お答えは、直接、この調査票の**あてはまる番号を○**で囲んでください。
- ご記入いただく筆記用具の種類や色の指定はありません。
- 分かる質問だけお答えいただければ結構です。

ご記入いただいた調査票は、同封の**返送用封筒**に入れ、  
**10月1日(火)まで**にご投函ください。  
 (切手の貼り付け、お名前やご住所の記入は不要です)



※インターネットからもご回答いただけます！  
 (左記二次元コードから回答画面へ)

インターネットからご回答された方は、調査票の郵送は不要です。

【お問い合わせ先】

神奈川県 政策局 政策部 情報公開広聴課 広聴グループ

○ お問い合わせフォーム



二次元コードから送信

※10月1日まで受付

○ 電話 (045)210-3672

※ 受付時間 月～金 8:30～17:15

(12:00～13:00を除く／土日祝日は閉庁)

## 1 食の安全・安心

問1 食品を購入する際に、確認している表示内容がありますか。(〇はいくつでも) (n=1,263) (%)

1 期限表示(消費期限や賞味期限)	90.8	6 保存方法	41.3
2 原産地や原産国	73.5	7 遺伝子組換え食品に関する事項	24.2
3 アレルギー表示	12.0	8 その他	3.3
4 原材料名	36.8	9 確認している表示内容はない	1.1
5 食品添加物(保存料や着色料など)	36.3		(無回答 3.3)

問2 食中毒を予防する上で重要なことがらについて、知っていたことを選んでください。

(〇はいくつでも) (n=1,263) (%)

1 食品を購入したら寄り道せずに帰宅する	51.7
2 食品を保存するときは、冷凍庫や冷蔵庫を活用する	92.2
3 調理や食事前によく手を洗う	82.7
4 生肉や生魚を扱った調理器具は、使用後に消毒する	62.0
5 調理した食品はすぐに食べるようにし、残った食品は速やかに適切な温度で保存する	79.7
6 生肉は、食中毒を起こす細菌がついていることがあるので、よく加熱する	78.2
7 どれも知らなかった	0.2
	(無回答 3.2)

問3 調理や食事前によく手を洗う、生肉はよく加熱するなど、食品を安全に食べるために必要な知識を持っていると思いますか。(〇は1つ) (n=1,263) (%)

1 持っていると思う	45.6	4 持っていないと思う	0.4
2 ある程度持っていると思う	43.9	5 分からない	0.8
3 あまり持っていないと思う	5.5		(無回答 3.8)

## 2 食・食育

問4 「食育」※に関心がありますか。(〇は1つ) (n=1,263) (%)

1 関心がある	30.5	4 関心がない	3.6
2 どちらかといえば関心がある	41.3	5 分からない	5.4
3 どちらかといえば関心がない	15.4		(無回答 3.7)

※ 食育とは、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てることをいいます。

問5 いただきます・ごちそうさまのあいさつ、はしの持ち方、料理の並べ方など、食事のマナーを正しくできていると思いますか。(〇は1つ) (n=1,263) (%)

1 できていると思う	31.1	4 できていないと思う	5.0
2 どちらかといえばできていると思う	48.5	5 分からない	2.0
3 どちらかといえばできていないと思う	10.0		(無回答 3.4)

問6 ゆっくりよく噛んで食べていますか。 (○は1つ) (n=1,263) (%)

1 食べている	15.9	4 食べていない	9.6
2 どちらかといえば食べている	38.5	5 分からない	1.0
3 どちらかといえば食べていない	31.7		(無回答 3.3)

問7 食べ物を無駄にしないよう食べ残しや買いすぎなどに気をつけていますか。

(○は1つ) (n=1,263) (%)

1 気をつけている	43.1	4 気をつけていない	1.0
2 ある程度気をつけている	47.5	5 分からない	0.8
3 あまり気をつけていない	4.3		(無回答 3.3)

問8 歯と口の健康を保つために、かかりつけ歯科医を決めていますか。 (○は1つ) (n=1,263) (%)

1 決めている	73.3	3 分からない	0.8
2 決めていない	21.8		(無回答 4.1)

**【複数人でお住まいの方のみお答えください】**

問9 朝食・夕食を同居の方と一緒に食べていますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

**【朝食】**

(n=978) (%)

1 ほとんど毎日	44.2	3 週に2~3日	12.2	5 ほとんど食べない	27.4
2 週に4~5日	5.0	4 週に1日程度	7.2		(無回答 4.1)

**【夕食】**

(n=978) (%)

1 ほとんど毎日	60.0	3 週に2~3日	13.8	5 ほとんど食べない	8.0
2 週に4~5日	9.7	4 週に1日程度	4.3		(無回答 4.2)

**【一人暮らしの方のみお答えください】**

問10 昼食・夕食を仲間や友人など、複数と一緒に食べていますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

**【昼食】**

(n=197) (%)

1 ほとんど毎日	6.1	3 週に2~3日	7.1	5 ほとんど食べない	61.9
2 週に4~5日	9.1	4 週に1日程度	12.7		(無回答 3.0)

**【夕食】**

(n=197) (%)

1 ほとんど毎日	1.5	3 週に2~3日	4.6	5 ほとんど食べない	71.6
2 週に4~5日	2.5	4 週に1日程度	16.8		(無回答 3.0)

### 3 かながわの農林水産業

問 11 県の農業に特にどのような役割を期待しますか。(○は1つ) (n=1,263) (%)

1 食料の安定供給	26.8	6 美しい風景や文化の継承	2.1
2 安全・安心な食料の供給	37.3	7 働く場の提供	0.5
3 価格の安い食料の供給	8.6	8 その他	0.2
4 災害時の避難場所など安全な空間の提供	3.0	9 分からない	2.2
5 自然や土とふれあう場・学習の場の提供	2.4		(無回答 16.8)

問 12 県内の農林水産業を活性化する上で、「地産地消」※の取組みを重要だと思いませんか。

(○は1つ) (n=1,263) (%)

1 重要だと思う	56.1	4 重要だと思わない	1.9
2 どちらかといえば重要だと思う	32.9	5 分からない	4.6
3 どちらかといえば重要だと思わない	2.6		(無回答 2.0)

※ 地産地消とは、地域の需要に即した生産を行い、その産物を地域で消費するための取組みのことをいいます。

問 13 「かながわブランド」※という言葉の意味について知っていますか。(○は1つ) (n=1,263) (%)

1 知っている	24.4	3 知らなかった	26.4
2 言葉は聞いたことがある	47.3		(無回答 1.8)

※ かながわブランドとは、県と生産者団体で構成する「かながわブランド振興協議会」が登録する、組織的な生産・出荷基準によって品質を確保するなどの要件を満たした農林水産物やその加工品のことをいいます。

問 14 環境に配慮した農林水産物や食品※を選ぶよう心掛けていますか。(○は1つ) (n=1,263) (%)

1 心掛けている	14.1	4 心掛けていない	14.3
2 どちらかといえば心掛けている	42.3	5 分からない	8.2
3 どちらかといえば心掛けていない	19.1		(無回答 2.0)

※ 環境に配慮した農林水産物や食品とは、近隣の地域で生産されたものや、有機JASマークなど環境への配慮に関する表示のあるもの、過剰包装ではないものなどのことをいいます。

## 4 2027年国際園芸博覧会

問 15 2027年3月から9月に横浜市で「国際園芸博覧会（正式略称：GREEN×EXPO 2027※）」が開催されることを知っていますか。（○は1つ）（n=1,263）（%）

1 知っている	23.0	3 知らなかった	63.8
2 言葉は聞いたことがある	11.0		（無回答 2.1）

※ GREEN×EXPO 2027 とは、横浜市で開催される、1都3県初の万国博覧会のことをいいます。日本での最上位クラスの国際園芸博覧会の開催は1990年「大阪花の万博」以来37年ぶり2回目となります。

### 【問15で1、2を選んだ方へ】

問 15-1 GREEN×EXPO 2027を知ったきっかけは何ですか。（○はいくつでも）（n=430）（%）

1 チラシ・パンフレット	24.7	7 イベント	5.6
2 ポスター・看板・横断幕など	49.5	8 植物園・公園など	10.0
3 SNS（X（Twitter）、Facebook、Instagramなど）	5.6	9 家族や知人などから聞いた	9.5
4 ウェブサイト（ホームページなど）	7.2	10 その他	4.7
5 広報誌（県のたよりなど）	35.6	11 分からない、覚えていない	1.9
6 テレビ・ラジオ	13.0		（無回答 0.2）

### 【全員の方がお答えください】

問 16 GREEN×EXPO 2027に何を期待しますか。（○は3つまで）（n=1,263）（%）

1 世界中から集まった植物が見られること	32.8	6 生物多様性や脱炭素の取組みについての展示	18.9
2 農地や里山など日本の昔ながらの風景	21.9	7 仮想現実※やロボットなど最新技術の展示	4.1
3 農業や花だん作りなどの体験企画への参加	12.4	8 ボランティア参加	1.6
4 地元でとれた産物や食を楽しむ市場	47.9	9 その他	1.1
5 花と緑あふれる庭などの展示	30.5	10 特にない	20.9
			（無回答 5.0）

※ 仮想現実とは、コンピューターの中に作られた仮想的な世界を、あたかも現実のように体験できる技術のことをいいます。

問 17 GREEN×EXPO 2027と一緒に楽しみたい観光のテーマは何ですか。

（○は3つまで）（n=1,263）（%）

1 食事	60.2	5 ものづくりやアウトドアなどの各種体験	25.7
2 温泉	21.1	6 その他	0.8
3 GREEN×EXPO 2027 会場以外の花のスポット鑑賞	24.5	7 特にない	21.8
4 名所・旧跡めぐり	26.5		（無回答 3.5）

## 5 スポーツ

問 18 体力に自信はありますか。 (○は1つ) (n=1,263) (%)

1 ある	9.0	3 どちらかといえばない	32.8	5 分からない	5.8
2 どちらかといえばある	31.6	4 ない	16.5	(無回答)	4.4

問 19 この1年間で1日に30分以上の運動やスポーツ※をした日数はどのくらいになりますか。

(○は1つ) (n=1,263) (%)

1 週に5日以上	14.3	6 3か月に1～2日程度	4.8
2 週に3日程度	15.1	7 年に1～3日程度	6.6
3 週に2日程度	13.4	8 まったく行わない	15.5
4 週に1日程度	12.0	9 分からない	2.8
5 月に1～3日程度	11.4	(無回答)	4.0

※ 1回10分程度の運動やスポーツを合計して30分でも構いません。また、レクリエーションとして行う身体活動やウォーキングなどの軽度の運動も含まれます。

問 20 スポーツ推進に係る取組みについて、知っているものを選んでください。

(○はいくつでも) (n=1,263) (%)

1 3033 (サンマルサンサン) 運動 (※1)	4.7	3 どれも知らなかった	82.2
2 総合型地域スポーツクラブ (※2)	9.7	(無回答)	4.4

※1 **3033 (サンマルサンサン) 運動**とは、運動やスポーツを1日30分、週3回、3か月間継続して行い、くらしの一部として習慣化する取組みのことをいいます。

※2 **総合型地域スポーツクラブ**とは、地域住民によって自主的・主体的に運営され、子どもから高齢者まで(多世代)、様々なスポーツを愛好する人々が(多種目)、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる(多志向)スポーツクラブのことをいいます。

問 21 「かながわパラスポーツ」※について知っていますか。

(○は1つ) (n=1,263) (%)

1 知っている	4.4	3 知らなかった	75.9
2 言葉は聞いたことがある	15.6	(無回答)	4.1

※ **かながわパラスポーツ**とは、すべての人が自分の運動機能を活かして同じように楽しみながらスポーツをする、観る、支えることをいいます。

## 6 地震対策の取組み

問 22 家では、大きな地震に備えて、どのような対策をとっていますか。

(○はいくつでも) (n=1,263) (%)

1 持出品の準備や食料などの備蓄	67.2	6 防災訓練に積極的に参加	6.7
2 住まいの耐震化	15.4	7 感震ブレーカー※などの設置	6.7
3 家具・家電などの固定	35.2	8 消火器の設置	23.1
4 避難場所や避難経路の確認	42.0	9 その他	0.9
5 家族と連絡方法の確認	36.6	10 特に対策はとっていない	8.9
(無回答 4.1)			

県では、首都直下地震や南海トラフ地震、県西部地震の発生の切迫性が指摘されるなど、大規模地震に対する備えが重要な課題となっています。

※ 感震ブレーカーとは、揺れを感知して電気を止める器具のことをいいます。

問 23 海岸や海岸近くで、地震による強い揺れや長い時間の揺れを感じたら、どのように行動しますか。

(○は1つ) (n=1,263) (%)

1 すぐに海岸から避難する(5分以内)	88.8	3 津波が迫ってから避難する	0.6
2 用事を終えてから避難する(15分以内)	1.7	4 分からない	3.8
(無回答 5.1)			

問 24 津波について、知っていたことを選んでください。

(○はいくつでも) (n=1,263) (%)

1 小さな揺れでも大きな津波になることがある	67.1	6 遠い所ではなく高い所に逃げる必要がある	78.4
2 津波の伝わる速さは非常に速く、早ければ地震発生後数分で到達する(※1)	78.3	7 津波フラッグ(※3)が出ることもある	11.9
3 津波は、繰り返し襲ってくる	79.6	8 放送で津波を知らせることがある	53.0
4 「津波避難ビル」に指定の建物がある	28.7	9 「津波防災地域づくりに関する法律」がある	3.9
5 津波に関するマップ(※2)がある	39.5	10 どれも知らなかった	0.4
(無回答 4.3)			

※1 津波は海が深いほど速く伝わり、沖合いではジェット機と同様の速さで伝わります。

※2 津波に関するマップとは、津波の浸水範囲や避難情報などが記載されている、津波浸水予測図マップや津波ハザードマップなどのことをいいます。

※3 津波フラッグとは、津波警報・注意報などが発表された際、避難を呼びかけるために海岸に出される赤と白の格子模様の旗のことをいいます。

問 25 津波に対する防災・減災の観点から、実施が望まれるものはありますか。

(○はいくつでも) (n=1,263) (%)

1 「津波災害警戒区域」(※1)の指定	53.0	4 その他	2.7
2 「津波災害特別警戒区域」(※2)の指定	45.6	5 特になし	7.0
3 「推進計画」(※3)の策定	32.3	6 分からない	21.9
(無回答 5.6)			

※1 津波災害警戒区域とは、津波発生時に住民などに危害が生じる恐れがある区域のことをいいます。

※2 津波災害特別警戒区域とは、津波災害警戒区域のうち、住民などに著しい危害が生じる恐れがある区域のことをいいます。

※3 推進計画とは、津波防災地域づくりを推進するために市町村が作成する計画のことをいいます。

## 7 治安対策

問 26 不安を感じる身近な犯罪は何ですか。 (〇はいくつでも) (n=1,263) (%)

1 ひったくり	36.2	7 暴行や傷害	39.7
2 特殊詐欺	60.6	8 自転車や自動車などの乗り物の盗難	35.7
3 空き巣	58.5	9 インターネットを利用した犯罪※	67.1
4 子どもの誘拐や子どもへのいたづら	38.4	10 大麻や覚醒剤などの薬物犯罪	15.1
5 痴漢や不同意わいせつなどの性犯罪	34.1	11 その他	2.7
6 ストーカー行為	23.0	12 特にない	2.1
(無回答 1.0)			

※ インターネットを利用した犯罪とは、コンピューターへの不正アクセス、詐欺、ネットポルノ、児童買春などのことをいいます。

問 27 地域犯罪発生情報や防犯に役立つ情報について、得やすいのはどのような方法ですか。

(〇はいくつでも) (n=1,263) (%)

1 テレビ	70.2	8 警察からのインターネットでの情報発信※	32.5
2 ラジオ	18.8	9 警察からのメール	14.0
3 新聞	23.8	10 警察官の防犯講話・防犯教室	3.6
4 ポスター・チラシなど	24.8	11 警察官の戸別訪問	8.1
5 回覧板	31.4	12 その他	5.2
6 防災無線	24.9	13 特にない	2.2
7 駅前などでのキャンペーン	12.3	(無回答 1.3)	

※ 警察からのインターネットでの情報発信とは、警察のホームページ、X (Twitter)、「Yahoo! 防災速報」、神奈川県警察公式 YouTube などのことをいいます。

問 28 犯罪や交通事故がなく、より安心してくらすために重要だと思うものは何ですか。

(〇は3つまで) (n=1,263) (%)

1 防犯カメラなどの防犯設備の整備	72.0
2 地域住民同士のつながり	33.7
3 県民や企業と行政が一体となっ行う防犯・交通安全活動	15.0
4 防犯、交通安全などの規範意識を高める教育	22.4
5 ボランティアなどによる防犯・交通安全活動	5.3
6 信号機、道路標識などの交通安全施設の整備	24.2
7 交通指導取締りの強化や交通違反などの厳罰化	19.8
8 制服警察官、パトカーによる警戒・検問活動	30.5
9 運転に不安を覚える方への安全運転相談	11.1
10 その他	3.1
11 特にない	1.0
(無回答 8.2)	

## 8 地域社会との関わり

問 29 長い人生を充実させるため、コミュニティなど、地域社会との関わりを大切にしていますか。  
(○は1つ) (n=1,263) (%)

1  そう思う	66.3	2  そう思わない	31.0	(無回答 2.8)
---------	------	-----------	------	-----------

## 9 地域コミュニティ

問 30 新型コロナウイルス感染症が5類感染症(※1)へ移行した現在、地域住民とのコミュニティにおける主なコミュニケーション手段は何ですか。  
(○は1つ) (n=1,263) (%)

1 対面でのやりとり	52.4	5 手紙やはがき	1.1
2 電話での通話	5.4	6 その他	1.3
3 顔が見えるテレビ電話・ビデオ通話	2.4	7 分からない	17.3
4 電子メールやLINEなどでのチャット(※2)	14.8	(無回答 5.4)	

※1 5類感染症とは、感染症法が定める感染症の5類型のうちの1つで、国が発生動向の調査を行い、必要な情報を提供することにより発生・まん延を防止すべき感染症のことをいいます。

※2 チャットとは、インターネットを介して文字などを送信してリアルタイムに会話するしくみのことをいいます。

### 【問 30 で2～6を選んだ方へ】

問 30-1 このようなコミュニケーションは取りやすいと思いますか。(○は1つ) (n=315) (%)

1  そう思う	32.7	4 どちらかといえばそう思わない	5.1
2 どちらかといえばそう思う	38.4	5  そう思わない	2.9
3 どちらともいえない	11.1	6 分からない	2.5
		(無回答 7.3)	

### 【問 30-1 で1、2を選んだ方へ】

問 30-1-1 その理由は何ですか。(○はいくつでも) (n=224) (%)

1 表情を気にしなくてよい	18.8	5 気軽に連絡しやすい	76.3
2 普段できないような話がしやすい	9.8	6 会いに行かなくてよい	36.2
3 自分の思いや考えを伝えやすい	26.3	7 その他	4.5
4 相手の思いや考えが伝わりやすい	12.9	8 分からない	0.4
		(無回答 3.1)	

### 【問 30-1 で4、5を選んだ方へ】

問 30-1-2 その理由は何ですか。(○はいくつでも) (n=25) (%)

1 相手の表情が分かりにくい	28.0	5 気軽に連絡しにくい	52.0
2 必要最小限の話だけになりやすい	44.0	6 その他	16.0
3 自分の思いや考えを伝えにくい	24.0	7 分からない	—
4 相手の思いや考えが伝わりにくい	16.0	(無回答 4.0)	

## 10 子どもの貧困対策

問 31 「子どもの貧困」※という言葉の意味を知っていますか。 (○は1つ) (n=1,263) (%)

1 知っている	71.4	3 知らなかった	6.6
2 意味は知らないが言葉は聞いたことがある	19.9	(無回答)	2.1

※ **子どもの貧困**とは、17歳以下の子どもが平均的な生活水準の半分以下の世帯でくらしている状態のことをいいます。

問 32 現在、近所や職場、親戚などの身近に、経済的に苦しく行政などによる支援※が必要な17歳以下の子どもはいると思いますか。 (○は1つ) (n=1,263) (%)

1 いると思う	19.2	3 分からない	43.9
2 いないと思う	34.9	(無回答)	2.1

※ **行政などによる支援**とは、経済的な支援のほか、相談支援や就労の支援などのことをいいます。

問 33 貧困などの困難な環境にある子どもを地域で支援する活動※について、どのように考えていますか。 (○は1つ) (n=1,263) (%)

1 すでに活動や協力をしている、またはする予定である	2.5
2 一緒に活動したい、または協力したい	5.9
3 活動に興味を持っている	24.5
4 活動することや協力することは難しい	20.0
5 これから考えたい	24.5
6 関心がない	5.1
7 その他	1.5
8 分からない	12.5
(無回答)	3.5

※ **地域で支援する活動**とは、食事や学習の支援、居場所の提供などのことをいいます。

## 11 里親制度

問 34 里親制度について知っていることを選んでください。(〇はいくつでも) (n=1,263) (%)

1 他人の子どもを家庭で育てる制度である	81.6	5 短期間だけ子どもを預かる里親もある	19.4
2 養子縁組とは異なる制度である	39.7	6 子どもの生活費などが支給される	9.7
3 共働きでも里親になれる	12.7	7 子どもが実の親のもとに帰る場合もある	17.3
4 里親になるには研修を受ける必要がある	26.0	8 どれも知らなかった	13.1

(無回答 2.6)

問 35 里親になってみたいと思いますか。(〇は1つ) (n=1,263) (%)

1 そう思う	1.3	4 どちらかといえばそう思わない	13.1
2 どちらかといえばそう思う	4.4	5 そう思わない	49.0
3 どちらともいえない	17.3	6 分からない	11.6

(無回答 3.4)

## 12 ともに生きる社会かながわ

問 36 共生社会(ともに生きる社会)※という考え方を知っていますか。(〇は1つ) (n=1,263) (%)

1 知っている	25.7	3 知らなかった	33.5
2 言葉は聞いたことがある	38.3		(無回答 2.5)

※ 共生社会(ともに生きる社会)とは、障がいの状態や程度にかかわらず、誰もが社会の一員としてお互いに尊重し、支え合ってくらすことを目指す社会のことをいいます。

問 37 「ともに生きる社会かながわ憲章」を知っていますか。(〇は1つ) (n=1,263) (%)

1 知っている	6.3	3 知らなかった	68.6
2 言葉は聞いたことがある	22.7		(無回答 2.4)

県では、ともに生きる社会かながわの実現をめざし、2016年10月に「ともに生きる社会かながわ憲章」を定めました。

### ともに生きる社会かながわ憲章

- 私たちは、あたたかい心をもって、すべての人のいのちを大切にします
- 私たちは、誰もがその人らしく暮らすことのできる地域社会を実現します
- 私たちは、障がい者の社会への参加を妨げるあらゆる壁、いかなる偏見や差別も排除します
- 私たちは、この憲章の実現に向けて、県民総ぐるみで取り組みます



問 38 障がいのある人が身近で普通に生活しているのが当たり前だという考え方について、どう思いますか。 (○は1つ) (n=1,263) (%)

1	そう思う	58.6	3	どちらかといえばそう思わない	6.2
2	どちらかといえばそう思う	28.5	4	そう思わない	3.0
					(無回答 3.7)

問 39 5年前と比べて障がい者に配慮した行動をとる人が増えたと思いますか。 (○は1つ) (n=1,263) (%)

1	増えたと思う	15.3	4	どちらかといえば増えていないと思う	4.4
2	どちらかといえば増えたと思う	31.0	5	増えていないと思う	7.0
3	どちらともいえない	25.4	6	分からない	13.5
					(無回答 3.2)

問 40 障がい者に対して、障がいを理由とする差別や偏見があると思いますか。 (○は1つ) (n=1,263) (%)

1	あると思う	38.5	4	ないと思う	3.1
2	少しはあると思う	40.8	5	分からない	5.5
3	あまりないと思う	8.8	(無回答 3.3)		

問 41 「ヘルプマーク」を知っていますか。 (○は1つ) (n=1,263) (%)

1	知っている	65.2			
2	マークを見聞きしたことはあるが、意味は知らなかった	10.5			
3	知らなかった	21.1	(無回答 3.2)		



ヘルプマークとは、外見から分からなくても援助や配慮を必要とする方が援助を得やすくなるよう、東京都が考案したマークのことをいいます。県でもその目的に賛同し、普及・啓発を進めています。マークの実際の背景色は赤色です。

詳細は、下記HPをご覧ください。

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/yv4/cnt/f536306>

問 42 手話やろう者についての理解を深めるために、手話を学ぶとしたら、最も学びたい方法はどれですか。 (○は1つ) (n=1,263) (%)

1	手話講習会	31.0	6	学校教育	5.2
2	手話サークル	10.1	7	その他	0.5
3	インターネット	18.7	8	学びたいとは思わない	8.9
4	本・DVD	2.9	9	分からない	10.0
5	テレビ番組	6.8	(無回答 5.9)		

## 13 かながわの広報

問 43 県は、災害や感染症対策などの取組み、イベントの実施など県政情報を伝えていると思いますか。  
(○は1つ) (n=1,263) (%)

1 伝えている	14.6	4 伝えていない	5.7
2 どちらかといえば伝えている	37.0	5 分からない	25.2
3 どちらかといえば伝えていない	13.9		(無回答 3.6)

問 44 県が県政情報を伝えている広報媒体について、知っているものを選んでください。  
(○はいくつでも) (n=1,263) (%)

1 県の広報紙「県のたより」	66.0	
2 県の公式 YouTube チャンネル「かなチャン TV」	4.8	
3 県の広報テレビ番組 (tvk「カナフル TV」)	12.3	
4 県の広報ラジオ番組 (FM 横浜「KANAGAWA Muffin」)	8.5	
5 県のホームページ	28.3	
6 県のソーシャルメディア※	7.1	
7 県が発行する冊子・パンフレット・チラシなど	16.9	
8 新聞での紙面広報	11.7	
9 フリーペーパー	4.6	
10 どれも知らなかった	16.9	(無回答 3.6)

※ ソーシャルメディアとは、例えば X (Twitter)、Facebook、Instagram などがあります。

問 45 県政情報をどこから入手していますか。  
(○はいくつでも) (n=1,263) (%)

1 県の広報紙「県のたより」	58.3	
2 県の公式 YouTube チャンネル「かなチャン TV」	2.6	
3 県の広報テレビ番組 (tvk「カナフル TV」)	6.8	
4 県の広報ラジオ番組 (FM 横浜「KANAGAWA Muffin」)	4.9	
5 県のホームページ	15.3	
6 県のソーシャルメディア	5.1	
7 県が発行する冊子・パンフレット・チラシなど	11.8	
8 新聞での紙面広報	10.7	
9 フリーペーパー	3.0	
10 どこからも入手していない	23.4	(無回答 3.6)

…\*…

最後に、集計結果を分析するために必要な項目についてお聞きします。(個人を特定するものではありません。)

F 1 お住まいの地域はどちらですか。 (n=1, 263) (%)

1	横浜 (横浜市)	37.4
2	川崎 (川崎市)	13.6
3	相模原 (相模原市)	7.0
4	横須賀三浦 (横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町)	9.4
5	県央 (厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村)	7.8
6	湘南 (平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町)	15.0
7	県西 (小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町)	3.2
		(無回答 6.4)

F 2 差し支えなければ、あなたの性別をお聞かせください。 (n=1, 263) (%)

1	男性	40.9	2	女性	51.1	(無回答 8.0)
---	----	------	---	----	------	-----------

F 3 あなたの年齢は、おいくつですか。(2024年9月1日現在) (n=1, 263) (%)

1	18~19歳	0.2	5	35~39歳	5.5	9	55~59歳	11.9	13	75~79歳	6.9
2	20~24歳	1.3	6	40~44歳	7.1	10	60~64歳	10.2	14	80歳以上	4.0
3	25~29歳	3.4	7	45~49歳	10.1	11	65~69歳	7.8			
4	30~34歳	4.4	8	50~54歳	11.3	12	70~74歳	9.3	(無回答 6.6)		

F 4 あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。あてはまるものをすべて選んでください。(同居、別居は問いません。) (n=1, 263) (%)

1	小学校入学前	6.9	5	短大、専門学校等在学中	1.4	9	その他	2.9
2	小学校在学中	9.6	6	大学、大学院等在学中	7.6	10	子どもはいない	28.6
3	中学校在学中	6.3	7	学校教育終了 [未婚]	21.6			
4	高校在学中	8.1	8	学校教育終了 [既婚]	23.0	(無回答 7.7)		

F 5 現在のお宅の家族形態は、次のどれにあたりますか。 (n=1, 263) (%)

1	一人暮らし (単身世帯)	15.6	4	祖父母と親と子の世帯 (3世代世帯)	3.1
2	夫婦のみ (1世代世帯)	24.9	5	その他の世帯	4.4
3	親と子の世帯 (2世代世帯)	45.1			(無回答 7.0)

F 6 あなたの現在のお仕事は、次のどれにあたりますか。1～9の中から1つ選んでください。  
また、1～5を選んだ方は、右のア～ケの中から1つ選んでください。

(n=1,263) (%)

(n=762) (%)

1 自営業主 6.0	ア～ウから 1つ選んで ください。	ア 農林水産業 0.7
2 家族従業者 (家業手伝い) 0.7		イ 商工サービス業(各種商店、飲食店、工事店などの経営) 5.2
3 勤め (フルタイム) 38.8	エ～ケから 1つ選んで ください。	ウ 自由業(開業医、弁護士、茶華道師匠、芸術家など) 4.7
4 勤め (パートタイム) 14.6		エ 経営・管理職(会社等の部長級、官公庁の課長級以上) 7.1
5 内職 0.2		オ 専門・技術職(研究員、技術者、勤務医、看護師など) 23.4
6 主婦・主夫(勤めていない) 14.7		カ 事務職(事務系会社員・公務員、警察官、駅員など) 22.4
7 学生 0.7		キ 教育職(教諭、保育士など) 7.3
8 無職 14.8		ク 技能・労務職(工場の生産工程従事者、運転士など) 8.7
9 その他 0.5		ケ 販売・サービス職(商店、サービス業などの従業員) 16.7
(無回答 8.9)		(無回答 3.8)

**質問は以上です。最後までご協力いただき、ありがとうございました。**

同封の返送用封筒で、10月1日(火)までにご投函ください。(切手は不要です。)

なお、インターネットからご回答された方は、調査票の郵送は不要です。

**今回の調査でお伺いしたテーマについて、ご意見やご提案がありましたら、お書きください。**

ご意見やご提案を希望するテーマの番号に○をつけてください。

- |                |                  |
|----------------|------------------|
| 1 食の安全・安心      | 8 地域社会との関わり      |
| 2 食・食育         | 9 地域コミュニティ       |
| 3 かながわの農林水産業   | 10 子どもの貧困対策      |
| 4 2027年国際園芸博覧会 | 11 里親制度          |
| 5 スポーツ         | 12 とともに生きる社会かながわ |
| 6 地震対策の取組み     | 13 かながわの広報       |
| 7 治安対策         |                  |

下記にその内容をご記載ください。

208人(16.5%)から自由意見が寄せられました。

